高1・高2　古文＜文法編＞

はじめに

現時点で「古文なんて、何書いているのかさっぱりわからないから大嫌いだ」という人は、なんの問題もありません。一番恐ろしい勘違いは「古文なんて日本語なんだから、勉強しなくてもどうにかなる」と思ってしまうことです。断言しておきますが、勉強しておかないと、絶対にどうにもなりません。

「古文＝日本語」だと思っている人がいるならば、**「古文＝外国語」**だというくらいイメージを変えましょう。

ただし、**コツさえつかめば**、本当の外国語を学習するよりも**ずっと簡単に、ずっと楽に「点取り科目」にすることができる**のが、古文のオイシイところです。

さて、「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール」**です（「読解のルール」の中には、**「古文常識」**や**「作品常識」**といわれるものも含みます）。三つの要素のうち、「文法」と「単語」が古文の土台となるところです。

古文ができない、読めないという人のほとんどは、この「文法」と「単語」をおろそかにしてしまっています。

この講座は、この土台の一つである、**「文法」の入試に必要な知識を全19回で身につけてしまう講座**です。

基本から説明をして、難関大といわれている大学の文法入試問題も解けるようにしていきますので、

「古文なんて大キライ」という人も、

「古文には多少自信があってさらに得意科目にしたい」という人も、

「嫌いかどうかすらわからないくらい、何ひとつ勉強していない」という人でも！

どんな人でも大歓迎です。

この講座で文法のコツをしっかりつかんで、是非、古文を得点源の科目にしてください！

三年生になり、さらに忙しくなった時に、古文で苦しまなくてもいいように、今の間に一緒に仕上げてしまいましょう！

高１・高２　古文<文法編>

予復習・授業の受け方について

予習は一切不要です。ノートも不要です。**テキストと筆記用具**さえあれば大丈夫です。**テキストへの書き込み**で授業をすすめていきます。**書き込み用のペン（何色でも可）**をご準備ください。

テキスト中に**〔例題〕**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。なお解答欄はありませんので、選択式問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。ちなみに、**〔例題〕はオリジナル問題**で、**「問題」は実際の入試問題**です。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。テキストに書いてあること全てが大事なことなのですが、特に**太字になっているところ**や**空欄に自分で書き込んだところ**に関して、重点を置いて覚え込むまで何度も復習してください。

復習が終わったら、後ろにある**「確認問題」**を解きましょう。確認問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「確認問題」を解き直してください。

この「確認問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

目次

高１・高２　古文＜文法編＞

第１講　歴史的仮名づかい・活用形……p. 6
第２講　動詞……p. 10
第３講　形容詞・形容動詞……p. 26
第４講　助動詞（活用と接続）……p. 36
第５講　ず・き・けり・つ・ぬ・たり・り……p. 48
第６講　ぬ・ねの識別……p. 62
第７講　る・らる／る・れの識別……p. 72
第８講　す・さす・しむ／「せ」の識別……p. 86
第９講　まし・めり・らし・まほし・たし・ごとし……p. 96
第10講　む・むず・じ……p. 104
第11講　らむ・けむ／らむの識別・べし・まじ……p. 116
第12講　２つの「なり」・なりの識別……p. 138
第13講　係助詞・間投助詞……p. 156
第14講　格助詞……p. 168
第15講　接続助詞・「て」の識別・副助詞・「し」の識別……p. 184

第16講　終助詞・ばやの識別・なむの識別……p. 204
第17講　呼応の副詞・「に」の識別……p. 224
第18講　敬語の種類・敬語の補助動詞……p. 246
第19講　敬語の本動詞・敬意の方向……p. 258

第1講　歴史的仮名づかい・活用形

PART1　歴史的仮名づかい・活用形

★歴史的仮名づかい

〈表記〉

（現代語→古文）

① じ　→「ぢ」／ず　→「づ」

② 促音「っ」→つ　／　拗音「ゃ・ゅ・ょ」→「や・ゆ・よ」

〈読み方〉

（古文→現代語）

① ゐ　→「　　」

② ゑ　→「　　」

③ くゎ　→「　　」／　ぐゎ　→「　　」

④ 語頭以外の「はひふへほ」→「　　」

⑤ a＋う　→「　　」／ i＋う　→「　　」／ e＋う　→「　　」／ o＋う　→「　　」

★歴史的仮名づかいにおける五十音図

ア行	あ		う		お
ヤ行	や		ゆ		よ
ワ行	わ		う		を

★品詞＝十個（名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞）

○名詞＝「　　　　」

○動詞・形容詞・形容動詞＝「　　　　」

★活用する品詞＝四個　※活用する＝形が変わること

「動詞」・「形容詞」・「形容動詞」・「助動詞」

★**活用形**＝六種類

「未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形」

○活用形を考える時は「　　　　」を見る。

活用形	下の語
未然形	ず
連用形	用言・けり・たり（完了）・て・、
終止形	。・」・引用の「と」
連体形	体言
已然形	ども
命令形	。・」・引用の「と」

第1講　PART1　確認問題

①「ゐのなかのかはづ」の現代仮名づかいとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ゐのなかのかわず　イ　いのなかのかわず　ウ　いのなかのかはず　エ　えのなかのかわづ

②「すゑひろがり」の現代仮名づかいとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　すえいろがり　イ　すいひろがり　ウ　すえひろがり　エ　すいいろがり

③「かねてもとほほゑまれて、…」の傍線部分の現代仮名づかいとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ほおえまれて　イ　ほほえまれて　ウ　おおえまれて　エ　おほえまれて

④「取る[a]もの手に つかず[b]、…」の傍線部分a・bの活用形として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

ア　a未然形・b連用形　イ　a連体形・b已然形　ウ　a連用形・b未然形
エ　a終止形・b已然形　オ　a連体形・b未然形　カ　a終止形・b命令形

⑤「行く[a]と言へ[b]ども、…」の傍線部分ａ・ｂの活用形として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

ア　ａ未然形・ｂ連用形　　イ　ａ連体形・ｂ已然形　　ウ　ａ連用形・ｂ未然形
エ　ａ終止形・ｂ已然形　　オ　ａ連体形・ｂ命令形　　カ　ａ終止形・ｂ命令形

第2講　動詞

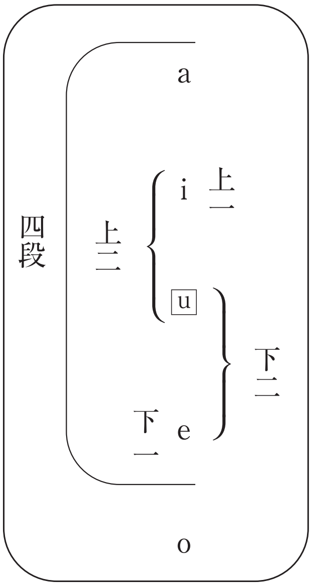
PART1　動詞の活用の種類・活用表

動詞

★活用の種類＝九種類

「四段活用・上一段活用・下一段活用・上二段活用・下二段活用・カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用」

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
四段活用	a	i	u	u	e	e
上一段活用	i	i	iる	iる	iれ	iよ
下一段活用	け	け	ける	ける	けれ	けよ
上二段活用	i	i	u	uる	uれ	iよ
下二段活用	e	e	u	uる	uれ	eよ
カ行変格活用	こ	き	く	くる	くれ	こ(よ)
サ行変格活用	せ	し	す	する	すれ	せよ
ナ行変格活用	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ



上一→下一＝i→け
上二→下二＝i→e

★活用の種類の見分け方

①　覚えておくべきもの

上一段活用＝「**干(ひ)る**」「**射(い)る**」「**鋳(い)る**」「**着(き)る**」「**似(に)る**」「**煮(に)る**」「**見(み)る**」「**居(ゐ)る**」「**率(ゐ)る**」（「率**ゐる**」「顧**みる**」などもある。）

下一段活用＝「**蹴る**」

カ行変格活用＝「**来(く)**」・「**～来**」（→「まうで来」など。）

サ行変格活用＝「**す**」「**おはす**」「**ものす**」

※それ以外のサ変
○「～す」の「す」が「**する**」と訳せるもの　（例）「旅す」など
○「**～んず**」の形＝サ変が多い。　（例）「信ず」「案ず」「論ず」など
○「**漢字一字の音読み＋す**」　（例）「奏(そう)す」「具(ぐ)す」など

ナ行変格活用＝「**死ぬ**」「**往(い)ぬ**」「**去(い)ぬ**」

ラ行変格活用＝「**あり**」「**居(を)り**」「**侍(はべ)り**」「**いまそかり**」（「いまそがり・いますかり・いますがり」などもラ変。）

② ①にないもの↓「**ず**（＝ない）」をつけて、**上の音で判断**する。

a＋ず↓**四段**活用　（例）「咲く」↓「咲**か**ず（咲**か**ない）」

i＋ず↓**上二段**活用　（例）「起く」↓「起**き**ず（起**き**ない）」

e＋ず↓**下二段**活用　（例）「答ふ」↓「答**へ**ず（答**へ**ない）」

①基本形	②語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
咲く	咲	か	き	く	く	け	け	③カ行四段活用
見る	○	み	み	みる	みる	みれ	みよ	③マ行上一段活用

① 「基本形」＝「ない」をつけて、**「ない」の上の音をU段**にする。（「上一段」と「ラ変」以外。）

（例）現代語では「受ける」。古語で「基本形」は？

② 「語幹」＝「基本形」－「終止形」の文字

（例）「咲く」－「く」＝「咲」が語幹

「見る」－「みる」＝語幹なし

③ ○行＝一段活用以外は基本形の「**最後**」の文字の行　（例）「咲**く**」＝**カ行**四段活用

一段活用は基本形の「**る**」**の**「**上**」の文字の行　（例）「**見る**」＝**マ行**上一段活用

〔例題一〕「居る」の活用の種類を答えよ。

〈Memo〉

第2講　PART1　確認問題

①　次の動詞の中から、活用の種類の異なるものとして最も適当なものを選べ。

ア　憂ふ　　イ　飢(う)う　　ウ　蹴る　　エ　見(み)ゆ

②　「われこそ死なめ、…」の傍線部分の動詞の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　四段活用　　イ　ナ行変格活用　　ウ　下一段活用　　エ　下二段活用

③　「むかし、をとこありけり。」の傍線部分の動詞の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　四段活用　　イ　ラ行変格活用　　ウ　上一段活用　　エ　上二段活用

④　A・Bの傍線部分の動詞「すゑ」・「老い」の、活用の行・活用の種類として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

A「かきつばたといふ五文字(いつもじ)を句の上(かみ)にすゑて、…」

B「老(お)いぬればさらぬ別れのありといへば、…」

ア　Aワ行・下二段活用　Bア行・上二段活用

イ　Aワ行・下一段活用　Bハ行・上一段活用

ウ　Aワ行・下一段活用　Bア行・上二段活用

エ　Aワ行・下二段活用　Bヤ行・上二段活用

⑤　A・Bの傍線部分の動詞「率(ゐ)」・「射(い)る」の、活用の行・活用の種類として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

A「芥川(あくたがは)といふ河を率(ゐ)ていきければ、…」

B「ある人、弓射(い)る事を習ふに、…」

ア　Aア行・上一段活用　Bヤ行・上一段活用

イ　Aア行・上一段活用　Bヤ行・上二段活用

ウ　Aワ行・上一段活用　Bア行・上一段活用

エ　Aワ行・上一段活用　Bヤ行・上一段活用

PART2　練習問題解説

問一　「覚ゆ」の活用の種類として、最も適切なものを一つ選びなさい。

a　上一段　　b　下一段　　c　四段　　d　上二段　　e　下二段

問二　「侍る」と活用の種類が同じ動詞を、次のa〜eの傍線部の中から一つ選べ。

a　漏れ聞き候ふべく候ふ。
b　嫌(もど)き誹(そし)りぬべからむこと、…
c　心のうちも推し測らるるものにて候ふ。
d　また、知る人、すずろに…
e　花のやうに春ある人は、一盛り映えあるやうに…

問三　「『あの法師捕らへよ』と、…」の傍線部について、基本形を示したうえで、活用の種類・活用形として適当なものを次の中から選べ。

〈活用の種類〉
a　四段活用　　b　下一段活用　　c　下二段活用　　d　ラ行変格活用　　e　ナ行変格活用

〈活用形〉
ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

問四　「死して」の傍線部の活用の種類として最適なものを次のア～エから選べ。

ア　ナ行変格活用　　イ　ナ行四段活用　　ウ　サ行四段活用　　エ　サ行変格活用

問五　Ａ・Ｂの傍線部の動詞「まねぶ」・「取り出で」の、１　活用の行　２　活用の種類　３　活用形は何か。該当するものを、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選べ。

Ａ　若き人々もこのことまねぶをば、御心とどめてをかしきものにおもほしたれば…

Ｂ　心やすくも取り出でたまはず、いといたく秘めて、…

１　ア　ア行　　イ　タ行　　ウ　ダ行　　エ　ナ行　　オ　バ行　　カ　マ行

２　ア　四段活用　　イ　上一段活用　　ウ　上二段活用　　エ　下一段活用　　オ　下二段活用　　カ　変格活用

３　ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

Ａ　１＝　　２＝　　３＝

Ｂ　１＝　　２＝　　３＝

第２講　PART２　確認問題

①「燃(も)ゆ」の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　上一段　　イ　下一段　　ウ　四段　　エ　上二段　　オ　下二段

②「居(ゐ)ず」の傍線部分の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ラ行変格活用　　イ　ラ行四段活用　　ウ　ワ行上一段活用　　エ　ワ行四段活用

③「よろづの道に心得(こころえ)たるよしの、…」の傍線部分の動詞について、活用の種類・活用形として最も適当な組み合わせを、次の中から選べ。

ア　ア行上一段活用・未然形　　イ　ワ行上二段活用・連用形　　ウ　ワ行下一段活用・未然形

エ　ア行下二段活用・連用形　　オ　ワ行下一段活用・連体形　　カ　ア行下二段活用・連体形

④　「中に、十（とを）ばかりにやあらむと見え（み）て、…」の傍線部分の動詞について、活用の種類・活用形として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

ア　ア行下一段活用・連用形　　イ　ヤ行下一段活用・連体形　　ウ　ア行下二段活用・已然形
エ　ヤ行下二段活用・連用形　　オ　ア行下一段活用・連体形　　カ　ヤ行下二段活用・已然形

⑤　「さばかり酔ひ（ゑ）なむ人は、…」の傍線部分の動詞について、活用の種類・活用形として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

ア　ア行四段活用・連体形　　イ　ハ行四段活用・連用形　　ウ　ワ行四段活用・未然形
エ　ハ行上二段活用・連体形　　オ　ワ行四段活用・連用形　　カ　ハ行四段活用・未然形

PART3　入試頻出動詞・音便

★「活用の行」を覚えておくべき動詞九個

○ 射る・鋳る＝行上一段活用
○ 得・心得・所得＝行下二段活用
○ 植う・飢う・据う＝行下二段活用
○ 老ゆ・悔ゆ・報ゆ＝ヤ行上二段活用

問六　傍線部a・b・c・d・eの動詞の活用の種類として最も適当なものを、次の①～⑩の中から一つずつ選べ。ただし、同じ番号は一度しか選べない。

植ゑ(a)などしたりけり。
営み　ゐ(b)たり。
鶯のまだ　見え(c)ぬは。
心も　得(d)ぬことかな
射(e)落として侍り

① ア行四段活用　② ア行上二段活用　③ ア行下二段活用　④ ハ行四段活用
⑤ マ行上一段活用　⑥ マ行下二段活用　⑦ ヤ行上一段活用　⑧ ヤ行下二段活用

⑨　ワ行上一段活用　　⑩　ワ行下二段活用

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問七　次の二重傍線部の動詞ａ「老い」・ｂ「損なは」の活用の種類と、活用形を記せ。

年老い[a]たる女房の、「あれは御腹の損なは[b]せ給へるを、…

a＝　　b＝

★活用の種類が「四段」と「下二段」の二種類ある動詞→**「訳し方の違い」**がある。

四段＝そのまま訳す
下二段＝四段の意味＋「　　　」

（例）「入(い)る」
四段＝中にはいる。
下二段＝（中にはいらせる→）中に入れる。

※入試頻出の「二種類ある動詞」三個

○**「被く」**（かづ）
四段＝かぶる・褒美をいただく
下二段＝かぶせる・褒美を与える

○**「頼む」**
四段＝頼みにする・あてにする
下二段＝頼みに思わせる・あてにさせる

○**「慰む」**
四段＝心が晴れる
下二段＝（心を晴れさせる→）慰める

問八　「頼めて」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　頼りにして　　イ　期待させておいて　　ウ　なんとかして　　エ　ひたすらお願いして

★終止形が一文字の動詞

来　す　得　寝　経

音便

発音しやすいように、別の音に変化する現象のこと。

（例）書**き**て→書**い**て　＝「**イ**音便」という。

【動詞】

○イ音便「き・ぎ・し」→「い」

○ウ音便「ひ・び・み」→「う」　（例）買**ひ**て→買**う**て

○**促音**便「ひ・ち・り」→「っ」　（例）買**ひ**て→買**っ**て

○**撥音**便「に・み・び」→「**ん**」　（例）飛**び**て→飛**ん**で

ラ行変格活用連体形活用語尾「**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）あ**る**なり→あ**ん**なり→あなり

第２講　PART3　確認問題

①　Ａ・Ｂの傍線部分の動詞「かづき」・「かづけ」の意味として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

Ａ「頭(かしら)にかづきたれば、…」
Ｂ「頭にかづけたれば、…」

ア　かぶる・かぶせる　　イ　掲げる・かぶせる　　ウ　かぶる・掲げさせる　　エ　掲げる・掲げさせる

②　Ａ・Ｂの傍線部分の動詞「頼め」・「頼み」の意味として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

Ａ「頼めぬ人は来たり、…」
Ｂ「頼みたる方の事は違(たが)ひて、…」

ア　あてにさせる・あてにする
イ　あてにならない・あてにする
ウ　あてにする・あてにさせてくれない
エ　あてにならない・あてにさせる
オ　あてにならない・あてにさせてくれない

③　Ａ・Ｂの傍線部分の動詞「慰み」・「慰め」の意味として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

Ａ「腹立たしきことも慰みけり。」
Ｂ「悲しきことも慰めけり。」

ア　心が晴れる・憐れむ　　イ　憐れむ・慰める　　ウ　心が晴れる・慰める　　エ　慰める・憐れむ

④　空欄Ａ・Ｂに入る最も適当な語の組み合わせを、次の中から選べ。なお、Ａは「中にはいる」という意味を、Ｂは「中に入れる」という意味を表す文意となる。

「わが［Ａ］むとする道は…」
「わが［Ｂ］むとする物は…」

ア　入（い）れ・入（い）り　　イ　入（い）る・入（い）り　　ウ　入（い）ら・入（い）る　　エ　入（い）ら・入（い）れ　　オ　入（い）る・入（い）れ

⑤　ア～エの文節中に含まれている動詞のうち、終止形が一文字にならないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　得（え）たり　　イ　覚（おぼ）ゆれば　　ウ　経（へ）ず　　エ　寝（ね）て

PART1　形容詞・形容動詞

形容詞

性質や**状態**を表し、終止形が「**～し**」となる。

★活用の種類＝二種類

「**ク活用・シク活用**」

※見分け方＝「**なる**」をつける。「～**く**なる」＝**ク**活用、「～**しく**なる」＝**シク**活用。

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ク活用	白し	白						
			から	かり	○	かる	○	かれ
シク活用	をかし	をか	しく	しく	し	しき	しけれ	○
			しから	しかり	○	しかる	○	しかれ

※「　　　」には、**下に助動詞**がつく。

★**語幹用法**→「訳し方」を覚える

○ **和歌中** A（**を**）B**み** ＝「**AがBなので**」（例）瀬をはやみ＝川瀬の流れが速いので

○ **あな**（「**あら**」もしくは「**単独**」）、語幹。＝「**ああ、～。**」（例）あな、かま＝（ああ、やかましい。→）しぃっ、静かに。

形容動詞

性質や**状態**を表し、終止形が「**～なり**」「**～たり**」となる。

★**活用の種類**＝二種類

「**ナリ活用・タリ活用**」

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ナリ活用	静かなり	静か	なら	なり /	なり	なる	なれ	なれ
タリ活用	堂々たり	堂々	たら	たり /	たり	たる	たれ	たれ

※ 連用形「　　・　　」には、**下に助動詞**がつく。

音便

【形容詞】

○イ音便　「き」→「い」　（例）白**き**花→白**い**花

○ウ音便　「く」→「う」　（例）苦し**く**て→苦し**う**て

○撥音便　「か＋ラ変」の連体形活用語尾「かる・しかる」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「かん・しかん」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）白か**る**なり→白か**ん**なり→白かなり

【形容動詞】

○撥音便　連体形活用語尾「な**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「な**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）静かな**る**めり→静かな**ん**めり→静かなめり

〈Memo〉

第３講　PART1　確認問題

① 次の傍線部には誤りがある。正しい形にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

明け暮るるも、静心（しづごころ）なくほどに、辛うじて待ちつけて、…

ア　なし　　イ　なき　　ウ　なけれ　　エ　なく

② 傍線部を現代語訳した時、「干潟が無くなるので」となる空欄ａ・ｂの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

若の浦に　潮（しほ）満ち来れば　潟（かた）［ａ］無［ｂ］　葦辺（あしへ）をさして　鶴（たづ）鳴き渡る

ア　ａ＝を・ｂ＝み
イ　ａ＝を・ｂ＝し
ウ　ａ＝が・ｂ＝み
エ　ａ＝に・ｂ＝き

③ 傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

いで、<u>あな幼や</u>。いふかひなうものしたまふかな。

ア　きっと子どもっぽいに違いないよ
イ　あんな子どもがいるだろうか
ウ　子どもだ
エ　まあ子どもっぽいことよ

④ 傍線部の活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

<u>はかなげに</u>鳴く、いみじうあはれなり。

ア　連体形　　イ　連用形　　ウ　未然形　　エ　終止形

⑤ 空欄には形容動詞「確かなり」が入る。その活用した形として最も適当なものを、次の中から選べ。

山伏のたよりにことづて申したりし人の御もとより、［　　］便（びん）につけて、ありし御返ごととおぼしくて、…

ア　確かなら　　イ　確かなり　　ウ　確かなる　　エ　確かなれ

PART2　練習問題解説

問一　「根を深み」の現代語訳として最も適当なものを一つ選べ。

1　根が深くなければ
2　根を深く掘り
3　根を深くすれば
4　根が深いだろう
5　根が深いので

問二　傍線部①・②について、それぞれ基本形を示したうえで、活用の種類・活用形として適当なものを次の中から選べ。

「せむ方①なかりければ、…」
「ある小家の②あやしげなるに立ち寄りて、…」

〈活用の種類〉
a　四段活用　b　下一段活用　c　下二段活用　d　ラ行変格活用　e　ナ行変格活用
f　ナリ活用　g　タリ活用　h　ク活用　i　シク活用

〈活用形〉
ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

①　　・　　・
②　　・　　・

問三　「同じ心なる友なくてただひとり眺むるは、いみじき月の光もいとすさまじく、見るにつけても恋しきこと多かるこそ、いとわびしけれ」の文中に形容詞はいくつ用いられているか。正しい数を次の中から選べ。

ア　3　イ　4　ウ　5　エ　6　オ　7　カ　8

第3講 PART2 確認問題

① 「苦を粗み」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　苦が粗いので　　イ　苦が粗くなければ
ウ　苦を粗くすれば　　エ　苦が粗いだろう

② 「風をいたみ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　風を激しくすれば　　イ　風が激しいだろう
ウ　風が激しいので　　エ　風が激しくなければ

③ 「舎人（とねり）の顔のきぬもあらはれ、まことに黒きに、白き物いきつかぬ所は、雪のむらむら消え残りたるここちして、いと見苦しく、…」の文中に形容詞はいくつ用いられているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　3　　イ　4　　ウ　5　　エ　6　　オ　7　　カ　8

④ 「文ことばなめき人こそいとにくけれ。世をなのめに書き流したることばのにくきこそ。さるまじき人のもとに、あまりかしこまりたるも、げにわろきことなり。」の文中に形容詞はいくつ用いられているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　3　　イ　4　　ウ　5　　エ　6　　オ　7　　カ　8

⑤ 傍線部について、基本形・活用の種類・活用形の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「これを主とうち頼みまゐらせて、さぶらはむずるか。」と、たのもしげなきぞあはれなる。

〈基本形〉

i　あはれなら　　ii　あはれなり　　iii　あはれなる　　iv　あはれなれ

〈活用の種類〉

a　四段活用　　b　ラ行変格活用　　c　ナリ活用　　d　ク活用

〈活用形〉

1　連用形　　2　連体形　　3　終止形　　4　已然形

ア　i・b・2　　イ　i・d・4　　ウ　ii・a・3　　エ　ii・c・2

オ　iii・a・1　　カ　iii・b・3　　キ　iv・c・4　　ク　iv・d・1

第4講　助動詞（活用と接続）

PART1　助動詞の活用

助動詞

★【活用】

下二段型	**る・らる・す・さす・しむ・つ**
ラ変型	**けり・たり・なり・めり・り**　※**断定**の「なり」・「たり」は**形容動詞型**
無変化型	**じ・らし**
形容詞型	まほし・たし・べし・まじ・ごとし　（※「**じ・らし・まし**」以外の「～し・～じ」）
四段型	**む・らむ・けむ**
サ変型	むず
ナ変型	**ぬ**
特殊型	**ず・き・まし**

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず						○
	ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ
き		○				○
まし		○				○

↓下に「　　　」がつく

〈Memo〉

第４講　PART1　確認問題

①　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

何事かありけん、ゆかしかりしかど、…

ア　ラ行四段活用動詞の連用形
イ　ラ行上二段活用動詞の連体形
ウ　形容詞ク活用の連用形
エ　形容詞シク活用の連用形
オ　形容詞シク活用の連体形

②　空欄Ａ・Ｂには助動詞「ず」が入る。それぞれに入る最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

秀郷も後ろをかへりみ［Ａ］、はるかに行き隔たりぬ。
夢も結ば［Ｂ］仮寝の枕、…

ア　ず・ぬ　　イ　ざり・ぬ　　ウ　ず・ね　　エ　ざれ・ね　　オ　ざり・ね

③ 傍線部の活用形・傍線部と活用形が異なるものの組み合わせを、次の中から選べ。

鏡に色・形<u>あらましか</u>ば、うつら[a]ざらまし[b]。
大社（おほやしろ）をうつして、めでたくつくれ[c]り。
人げに塞か[d]れねば、…けし[e]からぬかたちもあらはるるものなり。

ア　未然形・c　　イ　連用形・c　　ウ　終止形・d　　エ　連体形・a　　オ　已然形・a
カ　未然形・b　　キ　連用形・e　　ク　終止形・e　　ケ　連体形・b　　コ　已然形・d

④ 「<u>仰せ合せしかば</u>、人の亡び失せし事、…」の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞の已然形＋過去の助動詞「き」＋助詞
イ　動詞の連用形＋過去の助動詞「き」＋助詞
ウ　動詞の連体形＋過去の助動詞「き」＋助詞
エ　動詞の未然形＋過去の助動詞「き」＋助詞
オ　動詞の未然形＋過去の助動詞「けり」＋助詞
カ　動詞の連体形＋過去の助動詞「けり」＋助詞

⑤ 空欄には動詞「知る」が入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

思ふこと心にかなふ身なりせば秋の別れを深く［　　］まし

ア　知る　　イ　知ら　　ウ　知れ　　エ　知り

PART2　助動詞の接続

★**【接続】**（＝何形にくっつくか。＝上が何形か。）

接続	助動詞
未然形	る・らる・す・さす・しむ・む・ず・むず・じ・まし・まほし
連用形	けり・き・つ・たり（完了）・ぬ・けむ・たし
終止形 ※ラ変型＝連体形	めり・らむ・らし・まじ・なり（伝聞推定）・べし
サ変**未**然形 **四**段**已**然形	り
体言・連体形	なり（断定）
体言	たり（断定）
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし

〈Memo〉

第4講 PART2 確認問題

①　空欄には動詞「住む」が入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

東の方に□べき国求めにとて行きけり。

ア　住ま　イ　住み　ウ　住む　エ　住むる　オ　住める

②　傍線部の活用の種類・活用形として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

男もすなる日記といふものを、女もしてみんとてするなり。

ア　サ行上一段活用・連体形　イ　サ行四段活用・終止形　ウ　サ行四段活用・連体形
エ　サ行変格活用・終止形　オ　サ行変格活用・連体形

③　「涙さへなどとまら□らむ。」の空欄には助動詞「ず」が入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ざら　イ　ざり　ウ　ざる　エ　ざれ　オ　ず

④「なほえ絶えてあるまじかりける。」の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ラ変動詞連体形＋助動詞連用形＋助動詞
イ　ラ変動詞連体形＋形容詞連用形＋助動詞
ウ　ラ変動詞終止形＋助動詞連用形＋助動詞
エ　ラ行四段活用動詞終止形＋助動詞連用形＋助動詞
オ　ラ行四段活用動詞終止形＋形容詞連用形＋助動詞

⑤傍線部の活用形が異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　中将などはすきぬべかるめり。
イ　この人にまさるべからず。
ウ　風吹けば沖つ白波たつた山夜半（よは）にや君がひとりこゆらむ
エ　春過ぎて夏きたるらし白たへの衣ほしたり天の香具山

PART3　練習問題解説・係り結びの法則

問四　「さらに来じ」の傍線部の読みをひらがなで書け。

問五　「忘れ□けり」の空欄にあてはまる「ず」の助動詞を適当な活用形にして書け。

問六　次のＡ・Ｂの波線部の活用の行・活用の種類・活用形をそれぞれ書け。

Ａ「心のどかに聞こえむ」

Ｂ「夫人の見けむ目のやうにはあらずとも…」

Ａ＝

Ｂ＝

問七　「人はいかにおもふらむ、…」の傍線部の活用の行・活用の種類・活用形をそれぞれ書け。

問八　次の空欄には、形容詞「すくなし」に助動詞「べし」が接続した文節が入る。文法的に正しい形を作り、すべてひらがなで、記せ。

釈空海などいへる人こそ、恥ぢ顔［　　］。

＊係り結びの法則

〈係助詞〉

ぞ・なむ・や・か　〜　　　。

こそ　〜　　　。

問九　「生ひなりたるらん」の品詞分解として、最も適当なものを次の中から選べ。

①　動詞＋助動詞＋助動詞
②　動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
③　動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
④　動詞＋動詞＋助動詞
⑤　動詞＋動詞＋動詞＋助動詞

第４講　PART３　確認問題

① 波線部ａ・ｂの「来」の読みとして最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

ここに参りａ来べかりければこそと、…
参りｂ来むことのわりなかるべきこと、…

ア　ａこ・ｂき　イ　ａき・ｂこ　ウ　ａく・ｂこ　エ　ａく・ｂき　オ　ａこ・ｂく

② 空欄には、動詞「思す」が入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

うちとけぬさまにものをつつましと［　　］たる気色、…

ア　思さ　イ　思し　ウ　思す　エ　思せ

③ 「窓をへだててかくぞいひ［　　］。」の空欄に当てはまる助動詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　き　イ　しか　ウ　たり　エ　ける　オ　けれ

④　「深く心得べきなり。」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ア行下二段活用動詞の連体形
イ　ア行下二段活用動詞の終止形
ウ　ハ行下二段活用動詞の連体形
エ　ハ行下二段活用動詞の終止形
オ　ワ行下二段活用動詞の連体形
カ　ワ行下二段活用動詞の終止形

⑤　「地獄に落ちさせ給はん事こそ、あさましく」の後に続く言葉として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　侍れ　　イ　侍り　　ウ　侍る　　エ　侍ら

第５講　ず・き・けり・つ・ぬ・たり・り

PART1　ず・き・けり

ず

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
未然形	ず						○	特殊型
		ざ	ざ	○	ざ	ざ	ざ	ざ＋**ラ変**型

【意味】

①　打消（～ない）

問一　「なかなか止まるべきにあらざれば、…」の傍線部の終止形を答えよ。

き・けり

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	き							特殊型
形	**けり**	**けら**	○	**けり**	**ける**	**けれ**	○	**ラ変**型

【意味】

○「き」　①「　　」過去（～た）→「　　」の経験

○「けり」①「　　」過去（～た・～たそうだ）→「　　」の経験
②詠嘆（～よ・～なあ）

※「けり」が**詠嘆**になる場合
1「　　中」の「けり」
2「　　**けり**」の「**けり**」
3「べかり**けり**」の「**けり**」
4 **会話文**中の「けり」（→文脈判断。**まず詠嘆**で訳す。おかしければ過去。）

問二　「合はせ［ａ］ども、…」の［ａ］に助動詞「き」を正しく活用させて入れよ。

問三　「いみじうつらき御心なりけり」の二重傍線部「けり」の助動詞の意味は何か答えよ。

〈Memo〉

第5講 PART1 確認問題

① 「仰せ合せしかば、人の亡び失せし事、…」の傍線部の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 尊敬　イ 完了　ウ 自発　エ 使役　オ 可能　カ 過去

② 「鰐（わに）に食ひ切られたるなりけりと見る程に、…」の傍線部「けり」と同じ意味・用法の「けり」が使われている文を、次の中から選べ。

ア 身をえうなき物に思ひなして、京にはあらじ、東の方へ住むべき国もとめにとて行きけり。
イ 八重葎（むぐら）しげれる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり。
ウ 野山にまじりて竹を取りつつよろづの事に使ひけり。
エ いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

③ 「世の憂き事の聞こえ□ん方もがな。」の空欄にあてはまる助動詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア ざら　イ ざり　ウ ざる　エ ざれ

④「わが袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそ知らね乾く間もなし」の傍線部の活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

⑤「滝の音は絶えて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　やはり、世間は知らないままでいるなあ
イ　やはり、世間に知られていることだなあ
ウ　やはり、世間に知られていた
エ　やはり、世間は知っているに違いない

PART2　つ・ぬ・たり・り

つ・ぬ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	つ							型
形	ぬ							型

【意味】

① 完了（～た）

② 強意（きっと～・必ず～）（＝確述用法）

〈見分け方〉＝「　　　　　」を見る

②　**強意**になる時

ぬ　　つ　＋「　　　　　」

※下枠参照

てむ	**な**む	（**て**ん）	（**な**ん）	**て**まし	**な**まし	**て**けむ	**に**けむ	**つ**べし	**ぬ**べし	**つ**らむ	**ぬ**らむ

〔例題一〕　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　この使ひを失ひつらむ心憂さよ。

②　いふかひなくて、ともに帰りぬ。

③　こはいかなる物を食はせつるぞ。

④　よその眠も覚めつべし。

⑤　今は世の花も、盛り過ぎぬらむ。

たり・り

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型
	り	ら	り	り	る	れ	れ	ラ変型

【意味】

① 完了（～た）

② 存続（～ている・～てある）

〈見分け方〉

まず「　　　」で訳す。↓おかしければ「　　　」

問四　傍線部ａ・ｂの助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から一つずつ選べ。

物思ひすがたにて出でにけり。(a＝に)
春は廿九日(にじふく)あるかと候ひしを…(b＝し)

ア　推量　イ　使役　ウ　断定　エ　過去　オ　完了　カ　尊敬

ａ＝　　ｂ＝

問五　傍線部①・②の意味として、最も適当と思われるものを、次の中から一つずつ選べ。

とてもかくても過ぎなん。(①＝な)
恩所あれども生を変へぬれば、…(②＝ぬ)

ア　可能　イ　自発　ウ　完了　エ　受身　オ　打消推量
カ　意志　キ　強意　ク　過去　ケ　推量　コ　現在推量

①＝　　②＝

〈Memo〉

第5講　PART2　確認問題

①「うせさせ給ひぬるやうなる。」の傍線部の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　過去　　イ　推量　　ウ　断定　　エ　完了

②傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

もののはづかしきことの数知らず、涙も落ちぬべければ、夜々まゐりて、…

ア　きっと涙も落ちるに違いないので、
イ　涙も流すことができないので、
ウ　涙が落ちそうになったので、
エ　あまりにも涙を止めることができなくて、

③　傍線部の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

楊貴妃（やうきひ）のためしも引きいでつべくなりゆくに、いとはしたなきこと多かれど、…

ア　完了　イ　強意　ウ　禁止　エ　過去

④　「おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。」の傍線部の活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

⑤　「紫立ちたる雲の細くたなびきたる、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　紫がかっている雲
イ　紫だった雲
ウ　紫であっただろう雲
エ　紫がかったような雲

第６講　ぬ・ねの識別

PART1　ぬ・ねの識別

【識別対象】

1　「　　」の助動詞「ず」
2　「　　」「　　」の助動詞「ぬ」
3　ナ変動詞「　　」「　　」・「　　」の活用語尾
4　ナ行下二段動詞「寝(ぬ)」の一部

3　ぬ　ね　＋

4　「　　」と訳せる

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	ず							特殊型
		ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ	ざ＋ラ変型
形	ぬ							型

〈「打消」と「完了」の見分け方〉＝「　　」→「　　」

①「　　」（＝接続）確認

1　**未然**形＋ ［ぬ　ね］ ＝「　　」

2　**連用**形＋ ［ぬ　ね］ ＝「　　」

②「　　」（＝活用形）確認

●『ぬ』

1　**連体形**→ぬ＋連体形接続の語
連体形＝「　　」

「**打消**」→ぬ＋体言

2　**終止**形→ぬ＋｛「　　」。終止形接続の語
終止形＝「　　」

※ただし、文末の「ぬ」の時、**係助詞**と**疑問副詞**に注意！

文中に **係助詞「ぞ・なむ・や・か」** **疑問副詞（「いか系」「な系」）** がある →文末の「ぬ」は「　　」形 →「　　」

●『ね』

1　ね＋已然形接続の語

已然形＝「　　　　　」

2　ね＋｛命令形接続の語　」。

命令形＝「　　　　　」

※ただし、文末の「ね」の時、**係助詞「こそ」**に注意！

ねば **ね**ど（も） こそ〜**ね**	**打消**「ず」の已然形

問六　次の傍線部ア・イの「ね」について、例にならって文法的に説明せよ。（例）尊敬の助動詞「る」の連体形

「とくとく帰りね」　ア＝

「君がすみかをそこと知らねば…」　イ＝

問七　次のア～オの二重傍線部「ぬ」はいずれも助動詞であるが、一つだけ種類の異なるものを選べ。

ア　秋になりぬ。
イ　打松おどろおどろしからぬほどに置きて、…
ウ　うちとけぬさまにものをつつましと思したる気色、…
エ　恋の煙こそ世には絶えせぬほのほなりけれ
オ　酔泣きのついでに、忍ばぬこともこそ

問八　傍線部ア～オのうち、文法上同じ意味を持つ助動詞の組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

「鶯うちなんどして、やるな(ア)」
午の刻の下がりまで見えね(イ)ば、…
「取りて参らむ」とて立ちぬ(ウ)。
「心も得ぬ(エ)ことかな」
この男の気色に(オ)おそれて、…

①　ア―ウ　②　ア―オ　③　イ―ウ　④　イ―エ　⑤　ウ―エ

〈Memo〉

第６講　PART１　確認問題

①「こまごまと吹き入れたるこそ、荒(あら)かりつる風のしわざとはおぼえね。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ヤ行下二段活用動詞の未然形＋打消の助動詞の已然形
イ　ヤ行下二段活用動詞の未然形＋完了の助動詞の命令形
ウ　ヤ行下二段活用動詞の連用形＋打消の助動詞の已然形
エ　ヤ行下二段活用動詞の連用形＋完了の助動詞の命令形

②「雨の降りぬべきになむ見わづらひ侍る。」の傍線部と文法的に同じであるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　死ぬべくおぼえければ、…
イ　異(け)しうはあらぬ女を思ひけり。
ウ　つひにほろびぬべしとて、…
エ　京には見えぬ鳥なれば、皆人見知らず。

③　傍線部の「ぬ」について、一つだけ他と文法的に用法の異なるものを、次の中から選べ。

かなはでやみぬ（ア）と口惜しきに
分け行く道も見えぬ（イ）に、
鎌倉より二日にまかり着きぬ（ウ）。
忍びて、また年も返りぬ（エ）。

④　ｉ・ⅱの傍線部「ね」「ぬ」の文法的意味の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選べ。

ｉ「今年はいまだ郭公こそ聞かね。」
ⅱ「さらばまことも汚れぬべしとて、…」

ア　ｉ・打消　ⅱ・強意　　イ　ｉ・意志　ⅱ・推量　　ウ　ｉ・完了　ⅱ・意志
エ　ｉ・打消　ⅱ・完了　　オ　ｉ・強意　ⅱ・過去推量

⑤　傍線部について、文法的に同じ用法の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

やがて末まではあら[a]ねども、…

率（ゐ）て出（い）でて去（い）[b]ぬ。

金（こがね）ある竹を見つくる事重なり[c]ぬ。

みな人も[d]ねたる夜中ばかりに、…

その思ひまさりて深きもの、必ず先立ちて死[e]ぬ。

ア　aとb　　イ　aとe　　ウ　bとc　　エ　bとe　　オ　cとd

〈Memo〉

第7講　る・らる／る・れの識別

PART1　る・らる

る・らる

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
「　・　・　」の**未然**形	る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	下二型
それ以外の**未然**形	らる	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ	下二型

※「　・　・　」の未然形＝「　」段＋る
　それ以外の未然形　　＝「　」段＋らる

問一　次の二つのグループ（Ⅰ群、Ⅱ群）のうち、Ⅰ群からは、二重傍線部が助動詞「る」では**ない**もの、Ⅱ群からは、波線部が助動詞「らる」では**ない**ものを、それぞれア～エから一つ選べ。

Ⅰ　ア　たまへる　　イ　騒がれむ　　ウ　けしきどらるる　　エ　急がるる

Ⅱ　ア　ながめのみせられて　　イ　仰せられき
　　ウ　心もとながられ　　エ　仰せらるれど

【意味】

① 受身（〜れる・〜られる）
② 可能（〜できる）
③ 自発（自然と〜される）
④ 尊敬（〜なさる・お〜になる）

〈見分け方〉

① 受身＝「〜に」がある。もしくは補える。
② 可能＝る・らる＋「　　　　」
③ 自発＝〔「　　　」動詞　or　「　　　」動詞〕＋る・らる
④ 尊敬＝**主語が貴人**〜＋る・らる

尊敬語
（ら）れ給ふ
＝「　　　」
←
「　　　」か「　　　」

第7講　PART1　確認問題

①　「仰せらるれば」の傍線部の活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

②　空欄には助動詞「る」「らる」のどちらかが入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

月の顔のみまぼら［　　］たまふ。

ア　れ　　イ　られ　　ウ　るる　　エ　らるれ

③　傍線部が助動詞「る」ではないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　おぼしやらる

イ　召されて

ウ　隔つる

エ　泣かれぬ

④「思ひ知らるる事も侍り。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　尊敬　　イ　完了　　ウ　自発　　エ　使役　　オ　可能　　カ　過去

⑤「君はいまだ知ろしめされさぶらはずや。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　自発　　イ　可能　　ウ　尊敬　　エ　受身

PART２　例題／練習問題解説

〈例題一〉　次の傍線部の文法上の意味を答えよ。

①　涙のみすすみてよよと泣かる。

②　さこそあらめなど、仰せらるれど、…

③　なかなかにいも寝られず、「これは夢か」とのみ…

④　御簾の吹き上げらるるを、人々押へて、…

問二　傍線部イ・ロの文法上の意味は何か。次の中から最も適当なものを選べ。

この者どもに養はれて行きけるほどに、…
故なく心細く思ひ続けられて、…

①　受身　②　可能　③　完了　④　尊敬　⑤　自発

イ＝　　　ロ＝

問三　「日の本にいははれ給ふいはしみづ参らぬ人はあらじとぞ思ふ」の傍線部の職能（文法上の意味）として正しいものを、次の中から選べ。

注　日の本…日本。
　　いはふ…神としてあがめ祭る。
　　いはしみづ…石清水八幡宮。

① 受身　② 尊敬　③ 自発　④ 可能　⑤ 完了

問四　「よからぬものの世のたとひとか聞きしと思し出でられて」に用いられている助動詞をすべて抜き出し、それぞれの終止形と文法的意味を答えなさい。

第7講　PART2　確認問題

①　傍線部が助動詞「る」であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　われ一人さかしがり、抱き持ちたまへりけるに、…
イ　つれなく申し給ふに、いとあさましくおぼしめさる。
ウ　その道にたへたる人々を乗せさせ給ひしに、…
エ　「夜中うち過ぐるほどになむ、絶えはてたまひぬる。」

②　「ほのかに、ただ小さき鳥の浮かべると見やらるるも、心細げなるに」の傍線部の単語の区切り方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　見／やらる／る／も
イ　見や／らるる／も
ウ　見やら／るる／も
エ　見やらる／る／も

③「※二藍（ふたあゐ）・葡萄染（えびぞめ）などの※さいでの、おしへされて草子の中などにありける、…」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　二藍・葡萄染…色の名前。
　さいで…布などの切れ端。

ア　受身　イ　可能　ウ　尊敬　エ　自発

④「つゆまどろまれず、明かしかねさせたまふ。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　自発　イ　尊敬　ウ　受身　エ　可能

⑤　傍線部の文法的意味と同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

殿、「とく御紐とかせ給へ。事破れ侍りぬべし。」とおほせられければ、…

ア　かすが野の若紫のすり衣しのぶのみだれ限り知られず
イ　「…第一の人に、また一に思はれむとこそ思はめ。」と仰せらるるもをかし。
ウ　すべて人に一に思はれずは、何にかはせむ。
エ　しら山にあへば光のうするかとはちを捨ててもたのまるるかな

PART3　る・れの識別

る・れの識別

【識別対象】

1　「　　」「　　」「　　」「　　」の助動詞「る」
2　「　　」「　　」の助動詞「り」
3　活用語の一部

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	る	**れ**	**れ**	**る**	るる	るれ	れよ	下二型
	り	ら	り	り	**る**	**れ**	**れ**	ラ変型

〈見分け方〉＝「　　」の「　　」

1　「　　」＋る・れ→助動詞「る」
⇩
2　「　　」＋る・れ→助動詞「り」　※上が「　　」と「　　」の時、注意！
3　「　　」＋る・れ→活用語の一部

問五　次の傍線部ａ・ｂの助動詞について、その終止形をそれぞれ答えなさい。

弟殿には人柄・世おぼえの劣り給へ[a]ればにや、…

「そこは申さ[b]れぬか」とのたまはせければ…

ａ＝　　　　ｂ＝

問六　「絵に描（か）ける御姿のおはするは、…」の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

1　受身　　2　可能　　3　尊敬　　4　打消
5　存続　　6　意志　　7　婉曲　　8　命令

問七　「いよいよわするる事なくて、…」の傍線部と同じ働きのものを、次の中から一つ選べ。

①　鬼のしこ草といへるは、…
②　親うせにけるのち、…
③　生きたる親などに向ひていはむやうに、…
④　心におぼゆる事は…
⑤　「しこの草とは書けるなり」

問八　「木の枯れて朽ち残れるが立てる下に、…」の傍線「る」の文法的意味・用法と同じものを、次の中から一つ選べ。

1　うらうらに照れる春日にひばりあがり心悲しもひとりし思へば
2　うつくしきもの、瓜にかきたるちごの顔
3　いかめしき御堂ども建てて、多くの人なむ造り営み侍るめる
4　家の造りやうは夏をむねとすべし、冬はいかなる所にも住まる
5　明けぬれば暮るるものとは知りながらなほうらめしきあさぼらけかな

〈Memo〉

第7講　PART3　確認問題

① 「一事（ひとこと）のすぐるるだにあるに、かくいづれの道もぬけ出で給ひけむは、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　尊敬の助動詞
イ　完了の助動詞
ウ　動詞の一部
エ　形容詞の一部

② 「いかがとおぼしめすほどにぞ、いとさりげなく、事にもあらずげにて、参らせ給へる。」の傍線部の文法的意味と活用形の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　完了・連体形
イ　可能・連体形
ウ　自発・終止形
エ　受身・終止形

③「伝へ承(うけたまは)るこそ、心もことばも及ばれね。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　存続　　イ　尊敬　　ウ　受身　　エ　可能

④「まばゆきまでもてかしづける女(むすめ)などの、…」の「る」と文法的に同じものを、次の中から選べ。

ア「大伴の大納言殿の人や、船に乗りて、龍殺してそが首の玉取れるとや聞く」
イ「かの大納言、いづれの船にか乗らるべき」
ウ　南面の御格子上げさせて、御琵琶あそばされけるところに、
エ　遣はしし人は、夜昼待ち給ふに、年越ゆるまでおともせず。

⑤「月の光に誘はれて、参りたまへることもや。」の「れ」と文法的に同じものを、次の中から選べ。

ア　美麗ことのほかにて参れる、便なきことなり。
イ　まうけたる船どもを、秩父が方よりみなわられて、…
ウ　御兄たちはとりもあへず滅び給ひにしにこそおはすめれ。
エ「かやうの事に権中納言のなきこそ、なほさうざうしけれ。」

第8講　す・さす・しむ／「せ」の識別

PART1　す・さす・しむ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
「　・　・　」**の未然形**	す	せ	せ	す	する	すれ	せよ	下二型
それ以外の**未然**形	さす	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ	下二型
未然形	しむ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ	下二型

※「四段・ナ変・ラ変」の未然形＝「　」段＋す
　それ以外の未然形　　　＝「　」段＋さす

【意味】
① 使役（～せる・～させる）
② 尊敬（～なさる・お～になる）

〈見分け方〉＝「　　　　」を見る。

「　　　」＝す・さす・しむ＝「　　又は　　」

す・さす・しむ＋「　　　」（＝給ふ・おはす（おはします）・らる）

ない→「　　　」

ある→「　　又は　　」

※真下に尊敬語がある場合→「　　　」を確認

「人に」「人をやりて」「人を召して」「人に命じて」「人して（＝に命じて）」がある→「　　　　」

「人に」が補える→「　　　」

〔例題二〕 次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 書きたるを御覧ありて、大いに笑はせおはしまして、…

② それを、張らせてまゐらせむとするを、

③ 御供なる右近大夫を召して、点しつけさせたまふ。

④ 皇后宮聞かせ給ひて、いみじう喜ばせ給ふを、…

⑤ 心にくき限りの女房、四五人ばかり候はせ給ひて…

※候ふ＝お仕えする

問九 「人参りて、判ぜさせたてまつるに、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1 推量　2 使役　3 断定　4 過去　5 完了　6 尊敬

問十 「竟宴（きやうえん）といふこと、春日殿（かすがどの）にて行はせたまふ。」の波線の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1 可能　2 受身　3 完了　4 使役　5 尊敬　6 自発　7 婉曲

〈Memo〉

第８講　PART1　確認問題

①「僧達近う候ひて、御念仏をして聞かせ奉る。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　命令　イ　断定　ウ　使役　エ　尊敬

②「地獄に落ちさせ給はん事こそ、あさましく侍れ。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　尊敬　イ　完了　ウ　自発　エ　使役

③　傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

（帝は）その方におぼめかしからぬ人、二、三人ばかり召しいでて、碁石して数置かせたまふとて、…

ア　命令　イ　尊敬　ウ　使役　エ　可能

④「妻(め)の女(をうな)にあづけて養はす。」の傍線部と文法的意味が同じものを、次の中から選べ。

ア　女院(にようゐん)は、入道殿をとりわき奉らせ給ひて、…
イ　宮のいでさせたまふに、…
ウ　「上も聞こしめして、興ぜさせおはしましつ。」
エ　何によりてか目を喜ばしむる。

⑤「人を苦しめ、法を犯さしめて、それを罪なはん事、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　法を犯させて
イ　法を犯して
ウ　法を犯すとして
エ　法を犯さなくて

PART2 「せ」の識別

【識別対象】

1 使役・尊敬の助動詞「す」の「　　」形か「　　」形
2 「　　」の助動詞「き」の「　　」形
3 サ変動詞「す」の「　　」形

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	す	**せ**	**せ**	す	する	すれ	せよ	下二型
形	き							特殊型
	動詞「す」	**せ**	し	す	する	すれ	せよ	

〈見分け方〉

1 上が「　　」形（「　　」段）＝助動詞「す」
2 「（「　　」形＋）**せ**～　　」の「**せ**」＝助動詞「き」
3 「　　」と訳せる「せ」＝サ変

〔例題三〕 傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選べ。（重複使用可）

① いかさまにせむと沈み臥したまへるに…

② とらへてよませける。

③ 夢と知りせば覚めざらましを

④ 源氏の物語、人に読ませ給ひつつ…

ア 使役の助動詞「す」　イ 尊敬の助動詞「す」

ウ 過去の助動詞「き」　エ サ行変格活用動詞「す」

①＝　②＝　③＝　④＝

問十一 「男なりせば…」の傍線部の終止形を答えよ。

第8講 PART2 確認問題

① 「文字をあらせばや。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞　　イ　使役の助動詞　　ウ　尊敬の助動詞　　エ　過去の助動詞

② 「入道殿の大井川に＊逍遥（せうえう）せさせ給ひしに、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　逍遥…船遊び

ア　サ行変格活用動詞の未然形　　イ　使役の助動詞の連用形
ウ　過去の助動詞の未然形　　エ　尊敬の助動詞の連用形

③ 傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

ア　形容詞の連用形＋過去の助動詞の未然形＋接続助詞
イ　形容詞の連用形＋使役の助動詞の連用形＋接続助詞
ウ　形容詞の未然形＋過去の助動詞の未然形＋接続助詞
エ　形容詞の未然形＋使役の助動詞の連用形＋接続助詞

④「手をひき杖をつかせて、…」の傍線部と文法的意味が同じものを、次の中から選べ。

ア「何とせむとす。」

イ「さよふけて寝さめざりせば、…」

ウ　それよりみこしは入(い)らせたまふ。

エ　声高(こわだか)にものも言はせず。

⑤　傍線部には品詞が異なるものが一つあるが、それはどれか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あさましく対面せで、…

イ　御手にて書かせ給へる、…

ウ　后(きさき)の位(くらゐ)も何にかはせむ。

エ　夜昼(よるひる)思ひて行(おこな)ひをせましかば、…

第9講　まし・めり・らし・まほし・たし・ごとし

PART1　まし

まし

接続	助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まし		○				○	特殊型

【意味】

① **反実仮想**（もしAならばBだろうに）

A
- **せ**
- 「　　」
- 「　　」
- 「　　」形

ば　B　**まし**

※「～**せ**ば～まし」の「**せ**」は「　　」の助動詞「　　」の「　　」形

② **ためらいの意志**（～ようかしら）

「　　」＋～**まし**

③ 仮想（～ならよかった）

④ 推量（～だろう）

〈例題一〉「これになにを書かまし。」の傍線部を現代語訳せよ。

問一「居まし」の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

a　ア行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
b　ア行上一段活用の動詞＋意志の助動詞
c　ワ行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
d　ワ行上一段活用の動詞＋意志の助動詞

問二「夕の雲の誘はざらましかば、かかる所の月は見ざらましを、心ありけり」の傍線部の現代語訳として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

a　夕べの雲に誘われるようなことがあれば、こういうきれいな月をみることもあっただろうに。
b　夕べの雲に誘われなくても、こういうきれいな月はぜひともみておかなければならない。
c　夕べの雲に誘われなかったので、夜、雨が降らず、こういうきれいな月をみることができたのだ。
d　夕べの雲が誘ってくれなかったら、こういうきれいな月をみることはなかっただろうに。

第９講　PART１　確認問題

①「命あらばそれとも見まし…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　マ行上一段活用未然形＋反実仮想の助動詞
イ　マ行上一段活用未然形＋意志の助動詞
ウ　マ行上一段活用連用形＋反実仮想の助動詞
エ　マ行上一段活用連用形＋意志の助動詞

②「同じくはよろしきほどにおはしまさましかば…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞＋意志の助動詞＋反実仮想の助動詞
イ　サ行変格活用動詞＋反実仮想の助動詞＋意志の助動詞
ウ　サ行四段活用動詞＋反実仮想の助動詞
エ　サ行四段活用動詞＋意志の助動詞

③「げにかうおはせざらましかば、いかに心細からまし。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　(あなたが) いらっしゃらなかったので、とても心細く感じました
イ　(あなたが) いらっしゃらないのではないかと、非常に心細く思っていました
ウ　(あなたが) いらっしゃらなくても、心細い思いはしないでしょう
エ　(あなたが) いらっしゃらなければ、どんなに心細いことだったでしょう

④「いかにせましと思しわづらふほどに、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いかにもそうであろう
イ　もしそうできたならば
ウ　どれほどそうしたいか
エ　どうしたものだろうか

⑤「思ふこと心にかなふ身なりせば秋の別れを深く知らまし」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人と別れるあわれを深く味わい知ることになるでしょう
イ　人と別れるあわれを深く味わい知ることになっていたでしょう
ウ　人と別れるあわれを深く味わい知ることができるでしょうが、今はそれもできません
エ　人と別れるあわれを深く味わい知らないでしょうか、いえ深く味わい知ることになりました

PART2　めり・らし・まほし・たし・ごとし

めり・らし

基本形	接続	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
めり		○	めり	めり	める	めれ	○	ラ変型
らし		○	○	らし	らし	らし	○	無変化型

【「めり」の意味】

①（「　　」判断による）推定（**〜ようだ**）　※語源＝「　　」＋あり

②婉曲（**〜ような**）

【「らし」の意味】

①推定（〜らしい）

問三　「言ふめれば、…」の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　完了　　イ　推定　　ウ　断定　　エ　伝聞　　オ　尊敬

まほし・たし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まほし	**まほしく** まほしから	まほしく まほしかり	まほし ○	まほしき まほしかる	まほしけれ ○	○ ○	形容詞型
形	たし	**たく** たから	たく たかり	たし ○	たき たかる	たけれ ○	○ ○	形容詞型

【意味】
① 希望（〜たい）

ごとし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし	**ごとく**	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	形容詞型

【意味】
① 比況（〜ようだ）

第9講　PART2　確認問題

①「中将などはすきぬべかるめり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　適当　イ　伝聞　ウ　完了
エ　反実仮想　オ　推定　カ　打消

②「おのが行かまほしき所に往ぬ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　推定　イ　婉曲　ウ　希望
エ　断定　オ　伝聞　カ　尊敬

③「思ひのごとくも、のたまふものかな。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　推定の助動詞・連用形
イ　推定の助動詞・終止形
ウ　比況の助動詞・連用形
エ　比況の助動詞・終止形

④　「水底の月の上より漕ぐ舟の棹にさはるは桂なるらし」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　桂であるにちがいない
イ　桂だということだ
ウ　桂であればよいのに
エ　桂であるはずがない

⑤　「あのやうでこそありたけれ。」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞の終止形＋希望の助動詞の已然形
イ　動詞の終止形＋希望の助動詞の命令形
ウ　動詞の連用形＋希望の助動詞の已然形
エ　動詞の連用形＋希望の助動詞の命令形

第10講　む・むず・じ

PART1　む・むず

む・むず（＝「　・　ず」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	む	○	○	む	む	め	○	四段型
形	むず	○	○	むず	むずる	むずれ	○	サ変型

【意味】＝「スイカかえて」

① 推量（～だろう）
② 意志（～よう）
③ 勧誘（～ませんか）
④ 仮定（～としたら）
⑤ 婉曲（～ような）
⑥ 適当（～するのがよい）

〈見分け方〉＝「　　」か「　　」に分ける。

○「　　」＝「仮定」・「婉曲」
○「　　」＝「推量」・「意志」・「勧誘・適当」

★「**文中**」の「む」の意味

○〜む＋**体言**→「　　　」

○〜む＋助詞→「　　　」

★「**文末**」の「む」の意味→文脈判断。目安として**主語**確認。

○**一**人称→「　　　」

○**二**人称→「　　　」

○**三**人称→「　　　」

※「**勧誘・適当**」の「む」の主語＝必ず「　　　」になる。

※「　　　」**の上の「む」**＝「　　　」が多い。　（例）翁の、孫を見むと思ひけむは理なり

※「こそ〜**め**」の「**め**」
「て**む**」の「**む**」
「な**む**」の「**む**」
＝「　　　・　　　」が多い。

第10講　PART1　確認問題

①　助動詞「む・むず」に関する説明文の空欄ａ・ｂに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

助動詞「む・むず」には、「推量・意志・勧誘・仮定・婉曲・適当」の意味がある。文中で使われており、下に体言が続く場合は［ａ］、助詞が続く場合は［ｂ］の意味になることが多い。

ア　ａ　婉曲　ｂ　仮定　　イ　ａ　婉曲　ｂ　意志　　ウ　ａ　適当　ｂ　仮定　　エ　ａ　適当　ｂ　推量

②　「思はむ子を法師になしたらむこそ心苦しけれ。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　推量　　イ　意志　　ウ　勧誘　　エ　仮定

③　傍線部ａ・ｂの説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「いま、秋風吹かむ[a]をりぞ来む[b]とする。待てよ。」といひおきて、…

ア　ａは適当「む」の連用形、ｂは推量「む」の連体形である。
イ　ａは仮定「む」の連用形、ｂは婉曲「む」の連体形である。
ウ　ａは意志「む」の連体形、ｂは仮定「む」の終止形である。
エ　ａは婉曲「む」の連体形、ｂは意志「む」の終止形である。

④　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

おのづから正直の人、などかなからむ。

ア　主語が二人称なので、文法的意味は意志である。
イ　主語が二人称なので、文法的意味は勧誘である。
ウ　主語が三人称なので、文法的意味は推量である。
エ　主語が三人称なので、文法的意味は婉曲である。

⑤　傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

翁、かぐや姫に言ふやう「…翁の申さむことは聞き給ひてむや。」

ア　推量　　イ　意志　　ウ　適当・勧誘　　エ　仮定

PART2　例題／練習問題解説

〈例題二〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①「我もいかで、腰折れたらん雀見つけて、飼はん」と思ひて、…

② 海ならずたたへる水の底までもきよき心は月ぞ照らさむ

③ 人の上に立たむこと、月を越ゆべからず

④ 人のけはひすれば、たれならむと思ふほどに、…

⑤ かまどなどは、歌に詠まむには卑しき詞なれど、…

⑥ とくこそ試みさせ給はめ。

問四「かかることにてこそあらめ。」の傍線部と文法的意味が同じものを、次の中から選べ。

１　世の人の思はんことも候ふなれば…
２　さあらんには、尊き僧たちの…
３　悩ませ給ふらんこそ心得られね。
４　名告りをせんほどのしるしはありなん。

問五「心澄まさむ人は見ぬべききさまなる」の意味として、最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　心を落ち着けようとする人は、きっと見るのがよい様子である
イ　心を落ち着けようとする人は、見なくてもよい様子である
ウ　心を落ち着かせている人は、きっと見るのがよい様子である
エ　心を落ち着かせている人は、見なくてもよい様子である
オ　心を落ち着かせた人は、きっと見るのがよい様子である
カ　心を落ち着かせた人は、見なくてもよい様子である

第10講 PART2 確認問題

① 傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ありもつかぬ都のほとりに、誰（たれ）かは物語求め見する人のあら<u>む</u>。

ア　推量の助動詞で、連体形である。
イ　意志の助動詞で、終止形である。
ウ　勧誘の助動詞で、連体形である。
エ　仮定の助動詞で、終止形である。

② 傍線部ア〜エの中には、文法的意味が他と異なるものが一つ含まれている。その語として最も適当なものを、次の中から選べ。

この月の十五日に、かのもとの国より、迎へに人々まうで来［ア］むず。
（中宮様が）「少納言よ、香炉峰（かうろほう）の雪いかなら［イ］む。」と仰せらるれば、…
いとはつらく見ゆれど、心ざしはせ［ウ］むとす。
いかなる文なら［エ］むと思へど、ただいまいそぎ見るべきにもあらねば、…

③「心づきなき事あらむ折は、なかなかそのよしをも言ひてむ。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　かえってその事情を言ってしまった
イ　かえってその事情を言ってしまうのがよい
ウ　かえってその事情を言うだろうか、いや言わないほうがよい
エ　かえってその事情を言わないほうがよい

④「世の中になほいと心憂きものは、人ににくまれむことこそあるべけれ。」の傍線部「む」と文法的意味が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「末代いかがあら(ア)むずらん、おぼつかなし。」
夢かと思ひなさ(イ)んとすればうつつなり。
朝夕なくてかなはざら(ウ)ん物こそあらめ、その外(ほか)は何も持たでぞあらまほしき。
「忍びては参りたまひな(エ)むや。」

⑤「生け(い)らむ世の限り、武蔵の国を預(あづ)け取らせて、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞「生く」の已然形＋完了の助動詞「り」の未然形＋婉曲の助動詞「む」の連体形
イ　動詞「生く」の連用形＋現在推量の助動詞「らむ」の終止形
ウ　動詞「生く」の已然形＋完了の助動詞「り」の連用形＋推量の助動詞「む」の連体形
エ　動詞「生く」の連用形＋現在推量の助動詞「らむ」の連体形

PART3　じ

じ

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型	接続
じ	○	○	じ	じ	じ	○	無変化型	形

【意味】＝「　　」の打消

①　打消推量（～ないだろう）
②　打消意志（～ないつもりだ）

〈見分け方〉＝主語確認

○一人称　→「　　」
○それ以外→「　　」

問六　「これ程の事はよもあらじとて…」の傍線部の意味として、最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

1　可能　　2　自発　　3　完了　　4　受身　　5　打消推量
6　意志　　7　強意　　8　過去　　9　推量　　10　現在推量

〈Memo〉

第10講　PART3　確認問題

① 助動詞「じ」に関する説明文の空欄a・bに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

助動詞「じ」は未然形に接続し、活用の型は無変化型である。文法的意味を考えるときは、主語を確認する。主語が一人称の場合は［a］で、それ以外の場合は［b］である。

ア　a　意志　b　現在推量　　イ　a　自発　b　推量
ウ　a　打消意志　b　打消推量　　エ　a　打消推量　b　打消意志

② 傍線部の文法的意味と活用形の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

（帝はかぐや姫を）はじめて御覧じつれば、類（たぐひ）なくめでたくおぼえさせ給ひて、「許さじとす。」とて、率ておはしまさんとするに、…

ア　現在推量・終止形　　イ　打消意志・終止形　　ウ　意志・連体形　　エ　推量・連体形

③「勝つべきいくさに負くることもよもあらじ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　過去　　イ　強意　　ウ　現在推量　　エ　打消推量

④　傍線部ａ・ｂの文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

そのをとこ身をえうなきものに思ひなして、京にはあらじ[a]、東の方に住むべき国求めにとて行きけり。おしなべて峯もたひらになりななむ山の端なくは月も入らじ[b]を

ア　ａは打消意志、ｂは打消推量の助動詞である。
イ　ａは意志、ｂは推量の助動詞である。
ウ　ａは打消推量、ｂは打消意志の助動詞である。
エ　ａは可能、ｂは意志の助動詞である。

⑤　ある人物が、清少納言に言った言葉である、「さりとも、見つくるをりもはべらむ。さのみもえかくせ給はじ。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　必ずお隠しになることだ。
イ　いつかお隠しになるつもりだ。
ウ　とてもお隠しになれないだろう。
エ　きっとお隠しになるに違いない。

第11講　らむ・けむ／らむの識別・べし・まじ

PART1　らむ・けむ

らむ・けむ（＝「ら　　・け　　」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	らむ	○	○	らむ	らむ	らめ	○	四段型
形	けむ	○	○	けむ	けむ	けめ	○	四段型

【意味】

〈違い〉＝「時制」

「らむ」＝「　　　　」

「けむ」＝「　　　　」

〈共通〉

① 推量（～だろう）
② 原因推量（どうして～だろう）
③ 伝聞（～とかいう）
④ 婉曲（～ような）

※共通の意味の上にそれぞれ時制を全て付け足す。訳もそれぞれ時制を加えて訳すこと。

〈見分け方〉＝「　　　」か「　　　」に分ける。

○「　　　」＝時制＋「推量」・「原因推量」

○「　　　」＝時制＋「伝聞」・「婉曲」

★「　　　」の意味の見分け方

○見ている→「　　　　　」

○見ていない→「　　　　　」

※文中に、**「どうして〜」と訳せる疑問語、係助詞「や」・「か」**がある場合→「　　　　　」が多い。

〈例題一〉　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　涙さへなどとまらざるらむ

②　駒並べていざ見に行かむ古里は雪とのみこそ花は散るらめ

③　人違へにてぞあるらむ

④　見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋と何思ひけむ

問一　「さて都にも心安くておはすらんと思はば、…」の傍線部の意味として、最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

1 可能　2 自発　3 完了　4 受身　5 打消推量
6 意志　7 強意　8 過去　9 推量　10 現在推量

問二　「あらざりけん」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア 現在の推量　イ 過去の推量　ウ 適当　エ 可能
オ 断定　カ 伝聞推定　キ 完了　ク 当然

問三　次の空欄A、Bには助動詞「らむ」または「けむ」が入る。それぞれに合う助動詞を適切な形にして、記せ。

「かかる所にながめたまふ［A］心の中のあはれに、…」
一つ橋危がりて帰り来たり［B］者のやうに、わびしくおぼゆ

A＝　　　B＝

〈Memo〉

第11講　PART1　確認問題

①「などさはた[　　]けむ。」の空欄にあてはまる動詞「生ひ出づ」を正しく活用させたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　生ひ出で　　イ　生ひ出づ　　ウ　生ひ出づる　　エ　生ひ出づれ　　オ　生ひ出でよ

②「御前(おまへ)の庭を掃(は)くとて、『などや苦しきめを見るらむ。わが国に七つ三つ作り据ゑたる、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして苦しい目にあったのだろう
イ　どうして苦しい目にあっているのだろう
ウ　どうして苦しい目にあうというのだろう
エ　どうして苦しい目にあったというのだろう

③「語り申させたまひけめど、…」の傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　婉曲　　イ　伝聞　　ウ　過去の推量　　エ　過去の詠嘆　　オ　勧誘

④　空欄ａ・ｂにあてはまる助動詞「らむ」について説明したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

世間（せけん）の摂政（せつしやう）・関白（くわんぱく）と申し、大臣（だいじん）・公卿（くぎやう）と聞こゆる、いにしへ今の、みなこの入道殿の御有様のやうにこそおはしますａとぞ、今様（いまやう）の児（ちご）どもは思ふｂかし。

ア　ａには終止形「らむ」、ｂにも終止形「らむ」があてはまる。
イ　ａには連体形「らむ」、ｂには已然形「らめ」があてはまる。
ウ　ａには已然形「らめ」、ｂには連体形「らむ」があてはまる。
エ　ａには已然形「らめ」、ｂにも已然形「らめ」があてはまる。

⑤　傍線部の中で、意味が異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　さるべきにやありけむ、負ひ奉りて下るに、…
イ　火をともして見れば、昔、こはたといひけむが孫といふ。
ウ　ただ、人に見えけんぞねたき。
エ　あはれ、かれをはしたなういひけむこそ、いとほしけれ。

PART2　らむの識別

「らむ」の識別

【識別対象】

1　「　　　　　」の助動詞「らむ」
2　「　　　　」の助動詞「り」の「　　　　」形＋推量の助動詞「む」
3　「〜ら」となる活用語の未然形＋推量の助動詞「む」

〈見分け方〉＝「　　　　」の「　　　」

1　上が「　　　　」段＝現在推量「らむ」
2　上が「　　　　」段＝完了「り」＋推量「む」
3　上が「　　　　」段＝活用語の未然形＋推量「む」

※「はべらむ」や「けづらむ」などの例外にも注意！

〔例題二〕 傍線部の「らむ」の文法的説明として、最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選べ。

① 違ひはなからむと思ふなめれど、…

② 今はおはしぬらむとて、…

③ 何をかたてまつらむ。

④ 「～思ひはべらむこと」とわびたまへば…

⑤ なほその境に至らで詠めらむは無念なりとて、…

ア　助動詞「らむ」

イ　助動詞「り」＋助動詞「む」

ウ　活用語の未然形の活用語尾＋助動詞「む」

問四　ア「侍るらむ」とイ「敷けらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

1　四段動詞＋助動詞
2　四段動詞＋助動詞＋助動詞
3　ラ変動詞＋助動詞
4　ラ変動詞＋助動詞＋助動詞
5　下二段動詞＋助動詞
6　下二段動詞＋助動詞＋助動詞

ア＝
イ＝

問五　「知らざらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　動詞の未然形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「む」の連体形
2　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の連用形＋推量の助動詞「む」の終止形
3　動詞の未然形＋打ち消しの助動詞「ず」の連用形＋推量の助動詞「らむ」の連体形
4　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「らむ」の終止形
5　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋詠嘆の助動詞「む」の終止形

問六　「せんずらん」の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

イ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形
ロ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形
ハ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形
ニ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形
ホ　動詞「せんず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

第11講　PART2　確認問題

①「戒（いまし）められむずらむ。」を単語に分けた場合、どのような分け方になるか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　戒め／られ／むず／ら／む
イ　戒めら／れ／む／ず／らむ
ウ　戒め／られ／むず／らむ
エ　戒め／られ／む／ず／らむ

②「行幸（みゆき）などもやあらむずらむ。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　行幸などでもあるのかなあ
イ　行幸などがあればいいなあ
ウ　行幸などあるはずがないなあ
エ　行幸などもあったよなあ

③　傍線部ａ〜ｃの文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「五人の中に、ゆかしき物を見せ給へ<u>らん</u>(a)に、御心ざしまさりたりとて仕(つか)うまつ<u>らん</u>(b)と、そのおはす<u>らん</u>(c)人々に申し給へ。」

ア　ａ　現在推量の助動詞「らむ」の終止形
　　ｂ　完了の助動詞「り」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形
　　ｃ　活用語の未然形の一部＋推量の助動詞「む」の連体形

イ　ａ　現在推量の助動詞「らむ」の連体形
　　ｂ　活用語の未然形の一部＋推量の助動詞「む」の終止形
　　ｃ　完了の助動詞「り」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形

ウ　ａ　完了の助動詞「り」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形
　　ｂ　活用語の未然形の一部＋推量の助動詞「む」の連体形
　　ｃ　現在推量の助動詞「らむ」の終止形

エ　ａ　完了の助動詞「り」の未然形＋推量の助動詞「む」の連体形
　　ｂ　活用語の未然形の一部＋推量の助動詞「む」の終止形
　　ｃ　現在推量の助動詞「らむ」の連体形

④　傍線部が現在推量の助動詞「らむ」であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「それを一枝をりて給はらん。」と言ふ。
イ　恋しからむことの耐へがたく、…
ウ　いかばかりなる人九重（ここのへ）をならすらむ、…
エ　雪のむらむら消え残りたるここちして、…

⑤　左記の文の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

髪のおぼえさへあやしからんと思ふに、すべて、さるけしきもこそは見ゆらめ。

ア　髪の感じまでもみっともないだろうと思うと、そう思っていることがすべて見えてしまっているだろう。
イ　髪の感じまでもみっともないだろうと思うと、そう思っていることがすべて見えてしまっただろう。
ウ　髪の感じまでもみっともなくているように思うと、そう思っていることがすべて見えてしまっているだろう。
エ　髪の感じまでもみっともなくているように思うと、そう思っていることがすべて見えてしまっただろう。

〈Memo〉

PART3　べし・まじ

べし・まじ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	べし	**べく**	べく	べし	べき	べけれ	○	形容詞型
		べから	べかり	○	べかる	○	○	
	まじ	**まじく**	まじく	まじ	まじき	まじけれ	○	形容詞型
		まじから	まじかり	○	まじかる	○	○	

【「べし」の意味】＝「スイカとめて」

① 推量（〜だろう）
② 意志（〜よう）
③ 可能（〜できる）
④ 当然（当然〜はずだ）
⑤ 命令（〜せよ）
⑥ 適当（〜するのがよい）

【「まじ」の意味】＝「　　　　」の打消

① 打消推量（〜ないだろう）
② 打消意志（〜ないつもりだ）
③ 不可能（〜できない）
④ 打消当然（〜はずがない）
⑤ 禁止（〜するな）
⑥ 不適当（〜ないほうがよい）

〈「べし」の意味の見分け方〉＝文脈判断。 目安として**主語**確認。

○ **一**人称→「　　　　」

○ **二**人称→「　　・　　」

○ **三**人称→「　　　　」

※ **打消・反語**の文脈→「　　　　」

※ **比較・選択**の文脈→「　　　　」

（例）家の作りやうは、夏を旨とす**べし**。

※「**べき由**（よし）」の「べき」→「　　　　」

〈例題三〉 次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① この人々の深き心ざしは、この海にも劣らざるべし。

② 東の方に住むべき国求めにとて行きけり。

③ わが身は女なりとも、敵の手にはかかるまじ。

④ 藤波の咲き行く見ればほととぎす鳴くべき時に近づきにけり

⑤ 「人に聞かすな。人に漏らすまじ」と口固めけり。

⑥ 二条殿へきと参るべきよし、仰せごととて、…

問七 「この人にまさるべからず。」の傍線部の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

1 受身　2 可能　3 尊敬　4 打消

5 存続　6 意志　7 婉曲　8 命令

〈Memo〉

第11講　PART3　確認問題

①「便なくや候ふべからん。」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　形容詞「便なし」の連用形＋間投助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

イ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ウ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の連体形

エ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の連体形

オ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の終止形

②「いかが他の力を借る［ａ］。」の空欄ａには「べし」を活用させたものが入る。空欄ａに入れるのに最も適当な語形と、その活用形の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　べし・終止形　　イ　べけれ・連体形　　ウ　べし・連用形
エ　べき・連体形　　オ　べかる・終止形　　カ　べから・已然形

③ 空欄にあてはまる助動詞「まじ」の中で、活用形が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 女のえ得（う）□けるを、年を経（へ）て、…

イ 人目おどろくばかりおぼされしも、長かる□なりけりと、…

ウ かかるをりにも、ある□恥もこそと心づかひして、…

エ みづからは、えなむ思ひたまへたつ□。

④ a～fの傍線部の助動詞「べし」の意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

a （かぐや姫は）宮仕へに出（いだ）し立てば死ぬべし、と申す。

b すべきかたなきもの、古寺（ふるでら）に至りて仏を盗み、堂の物の具を破り取りて、…

c 一見（いつけん）すべきよし、人々のすすむるによつて、…

d （帝は）御文、不死の薬の壺ならべて、火をつけて燃やすべきよし仰せ給ふ。

e 尼も、後はさはさはと張りかへんと思へども、今日ばかりは、わざとかくてあるべきなり。

f もののはづかしきことの数知らず、涙も落ちぬべければ、…

ア	a 意志	b 可能	c 当然	d 命令	e 適当	f 推量
イ	a 命令	b 意志	c 当然	d 推量	e 適当	f 可能
ウ	a 推量	b 当然	c 可能	d 適当	e 意志	f 命令
エ	a 当然	b 命令	c 可能	d 推量	e 意志	f 適当

⑤　傍線部の意味が異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人の御恨みもあるまじ。

イ　一夜（ひとよ）の宿かすものあるまじ。

ウ　こよひはえ参るまじ。

〈Memo〉

PART1　2つの「なり」（断定・伝聞推定）

2つの「なり」

基本形	接続	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
なり（断定・存在）		なら	なり／に	なり	なる	なれ	なれ	形容動詞型
なり（伝聞・推定）		○	なり	なり	なる	なれ	○	ラ変型

〈「断定・存在」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　　」＋あり

①　存在（〜にある・〜にいる）

※「　　　」**（方角）**＋なり

②　断定（〜である）

〈「伝聞・推定」の「なり」の語源と見分け方〉

★語源＝「　　　」＋あり

①　伝聞（〜とかいうそうだ）

※人から聞いた噂などの場合

②　推定（〜ようだ）

※「音」に関わる言葉がある場合

〔例題一〕 次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 今年蔵司の小使にてまかり渡り候ひつるなり。

② 舟の内なる者ども、これが仕業を見るに、…

③ 人々あまた声して来なり。

④ 親の為思はぬなり。

問一 「中ならん物はさながら取れ」の「なら」と同じ意味で用いられているものとして、最も適当なものを次の中から選べ。

イ 心に思ふことを見るもの聞くものにつけて言ひ出だせるなり。（『古今和歌集』）

ロ この西なる家はなに人の住むぞ、問ひ聞きたりや。（『源氏物語』）

ハ 三条の宮に、親族（しぞく）なる人の衛門の命婦とてさぶらひけるたづねて文やりたれば、（『更級日記』）

ニ それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）

ホ 都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり　（『土佐日記』）

ヘ 物思へば雲居に見ゆる雁（かりがね）の耳に近くも聞こゆなるかな　（『和泉式部集』）

第12講　PART1　確認問題

① 「若君、姫君とぞ聞こゆなる。」の傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　イ　過去の推量　ウ　適当　エ　可能
オ　断定　カ　伝聞・推定　キ　完了　ク　当然

② 「しかしか、いと興ある事なり。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　完了　イ　推定　ウ　断定　エ　伝聞　オ　尊敬

③ 波線部ａ・ｂの「なり」の文法的意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

男もすなる(a)日記といふものを、女もしてみんとてするなり(b)。

ア　ａ　伝聞　ｂ　伝聞
イ　ａ　断定　ｂ　断定
ウ　ａ　伝聞　ｂ　断定
エ　ａ　断定　ｂ　伝聞

④　傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

我が庵は都のたつみしかぞ住む世をうぢ山と人はいふなり

ア　人々はうわさしているそうだ
イ　人々はうわさしているのだろうか
ウ　人々はうわさしていたのだった
エ　人々はうわさしていなかっただろう

⑤　「世の中よ道こそなけれ思ひ入る山の奥にも鹿ぞ鳴くなる」の「なる」と同じ意味で用いられているものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「心澄まさむ人は見ぬべきさまなる、…」
イ　「御局（みつぼね）は桐壺なり。」
ウ　「同じ心なる友なくてただひとり眺むるは、…」
エ　「妻戸をやはら、かい放つ音すなり。」

PART2　なりの識別（基本編）

「なり」の識別

【識別対象】
1「　　」の「なる」
2「　　」ナリ活用の活用語尾
3「　　」・存在の助動詞「なり」
4「　　・　　」の助動詞「なり」

〈見分け方〉＝「　　」

1「　　」と訳せる＝ラ行四段活用動詞「なる」
「　　」「　　」「　　」「　　」に付くことが多い。

2「　　・　　」＋なり＝形容動詞ナリ活用の活用語尾
「　　」「　　」「　　」に付くことが多い。

3「　　」か「　　形」＋なり＝断定・存在の助動詞「なり」

4「　　形」（ラ変型＝「　　形」）＋なり＝伝聞・推定の助動詞「なり」

問二　傍線の「なり」を、文法的に分類した組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

はかなく①なりし人の領ずる所にて、…
ある聖の物に②なりてと聞きしを、…
さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなか③なり。
露消えし跡は野原と④なりはててありしにも似ず荒れはてにけり

A　①と②③④　　B　①②と③④　　C　①②③と④
D　①②④と③　　E　①③④と②

問三　傍線（１）・（２）の文法的な説明として、最も適当なものを次の中から選べ。＊（３）は不要。

「事悪しく（１）なりなんかし」と思ふに、…
命も延びぬべき様し給へる人（２）なり。
聞き入れさせ給はざんなり（３）と承るを、…

A　ラ行四段動詞　　B　形容動詞語尾　　C　断定の助動詞
D　伝聞の助動詞　　E　推定の助動詞

（１）＝　　　　（２）＝

第12講　PART2　確認問題

① 傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

「京にとくあげ給ひて、物語の多く候ふなる、ある限り見せ給へ。」と、…

ア　たくさんあると聞いております物語を
イ　たくさんございました物語を
ウ　物語がたくさんあるのでしょうか
エ　物語が多くあったにちがいありません

② 傍線部のうち断定の助動詞であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

かくて翁やうやう豊かに[ア]なり行く。この児（ちご）、養ふ程に、すくすくと大きに[イ]なりまさる。三月ばかりに[ウ]なる程に、よき程[エ]なる人に成りぬれば、…

③「祭り近く**なり**て、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞　　イ　伝聞の助動詞　　ウ　推定の助動詞
エ　四段活用動詞　　オ　ラ行変格活用動詞　　カ　形容動詞

④ 傍線部ａ・ｂの文法的な説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

家の造りやうは、夏をむねとすべし。冬はいか**なる**[a]所にも住まる。暑きころわろき住居は、たへがたき事**なり**[b]。

ア　ａ　ラ行四段活用動詞　　ｂ　推定の助動詞
イ　ａ　形容動詞の活用語尾　　ｂ　断定の助動詞
ウ　ａ　ラ行四段活用動詞　　ｂ　断定の助動詞
エ　ａ　形容動詞の活用語尾　　ｂ　伝聞の助動詞

⑤「あらしに散れる木の葉**なり**けり」の傍線部「なり」と文法上同じものはどれか。最も適当なものを、次の中から選べ。

きよげ**なる**[ア]法師二三人ばかり据(す)ゑて、いみじくをかしげ**なり**[イ]し人、几帳のつらに添ひ臥(ふ)して、このゐたる法師近くよびてもの言ふ。何事**なら**[ウ]むと聞き分くべきほどにもあらねど、尼に**なら**[エ]むとかたらふけしきにやと、…

PART3　なりの識別（応用編）

（応用編）

★ラ変型に付く「なり」

（例）あるなり

★ラ変型「**撥音便**」に付く「なり」

（例）あ［なり］→［　　　　］

※下枠参照

（　　）［なり］→「　　　　」

様子

※　～か［なり］

（例）①～③の中で仲間外れは？

①　渡らせ給ふべかなり。

②　いふもおろかなり。

③　いと罪重かなり。

※

な［なり］

な［めり］

★**四段動詞**に付く「なり」

音声動詞＋［なり］→［　　　　］

（例）言ふ
泣く
鳴く
打つ
叩く
など

「ばかり**なり**」
「～ば**なり**」
★「かく**なり**」
「さ**なり**」
「しか**なり**」
の「**なり**」＝「　　　　」

★「**なり**けり」の「**なり**」＝「　　　　」

第12講　PART3　確認問題

① 傍線部の「なる」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

世の中に物語といふもののあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ、…」

ア　ラ行四段活用動詞　　イ　形容動詞の活用語尾　　ウ　断定の助動詞
エ　推量の助動詞　　オ　伝聞の助動詞　　カ　推定の助動詞

② 「この御子のゐたまふべきなめりと、…」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　打消　　イ　伝聞　　ウ　推定　　エ　断定　　オ　完了

③ 「さては、扇のにはあらで、くらげのな[a]なり[b]。」の文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　a　ラ行四段活用動詞「なる」の連用形　　b　推定の助動詞「なり」の終止形
イ　a　伝聞の助動詞「なり」の連体形の撥音便　　b　断定の助動詞「なり」の終止形
ウ　a　断定の助動詞「なり」の連体形の撥音便　　b　推定の助動詞「なり」の終止形
エ　a　ラ行四段活用動詞「なる」の連用形　　b　断定の助動詞「なり」の終止形

④　傍線部が文法的に異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　武蔵の国と下つ総（しもつふさ）の国との中に、いと大きなる河あり。
イ　嘴（はし）と脚と赤き、鴫（しぎ）の大きさなる、水のうへに遊びつつ、…
ウ　京には見えぬ鳥なれば、皆人見知らず。
エ　それをかく鬼とはいふなりけり。

⑤　傍線部「に」の文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

物思ひすがたにて出でにけり。(a)
三四日になりぬる昼つ方、…(b)
なぞの犬のかく久しう鳴くにかあらむ、…(c)

ア　a　ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾　b　副詞の一部　c　推定の助動詞「なり」の連用形
イ　a　完了の助動詞「ぬ」の連用形　b　格助詞　c　断定の助動詞「なり」の連用形
ウ　a　推定の助動詞「なり」の連用形　b　断定の助動詞「なり」の連用形　c　副詞の一部
エ　a　ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾　b　格助詞　c　断定の助動詞「なり」の連用形
オ　a　完了の助動詞「ぬ」の連用形　b　推定の助動詞「なり」の連用形　c　副詞の一部

問四　**問一**の選択肢ニ・ホ（左記）の傍線部の意味をそれぞれ答えよ。

ニ　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）
ホ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり　（『土佐日記』）

ニ＝　　　　ホ＝

問五　傍線部の「なり」の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。（**問三**より）

聞き入れさせ給はざんなりと承るを、…

A　ラ行四段動詞
B　形容動詞語尾
C　断定の助動詞
D　伝聞の助動詞
E　推定の助動詞

問六　二重傍線部の助動詞「なり」のうち、次の中から一つだけ他と意味の異なるものを選べ。

ア　祈るなり　　イ　所なり　　ウ　あなれ　　エ　来たるなり　　オ　親なり

問七　傍線部ａ・ｂと文法的に最も近いものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

この里にすみふりし飛騨人〔＝大工〕なり[a]。やや寒う　なり[b]はべるには、…

1　かたはらいたければ書かぬなり。
2　「静まりぬなり。入りて、さらば、たばかれ」とのたまふ。
3　長押（なげし）の下（しも）に人々臥して答（いら）へすなり。
4　「出でずなりぬ」と聞こえたまへば、慰みて起きたまへり。
5　をかしき節もなくのみぞあなりし。

ａ＝　　　　ｂ＝

問八　「かしこにはしはべるなるに、…」の傍線部と文法的に同じ意味の「なる」「なり」を含む和歌を、次の中から一つ選べ。

イ　厚氷くだきし跡の見ゆるなり山下清水くむ人やたれ
ロ　世の中のあはれなるには大空の雲も涙を惜しまざりけり
ハ　嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なる我が涙かな
ニ　世にふれば又もこえけり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん
ホ　あしびきの片山きぎすうちはぶき妻ごひすなり春のあけぼの

問九　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。

「仏、あはれとおぼしめしたりける なめり(A)」とぞ人言ふ なる(B)。

①　当然　②　伝聞　③　完了　④　回想
⑤　詠嘆　⑥　断定　⑦　婉曲　⑧　反実仮想

A＝　　　B＝

問十　傍線「なり」と文法的意味・用法が同じものを、次の１〜５の中から一つ選べ。

船人の見るに、海のなかに浮きて漂ふ者あり。これを引き上げて見れば、縛られたる僧なり。船人、大きにあやしみて、「何人ぞ、かくは縛られたるは」と問へば、「われはしかじかの者なり。盗人にあひて縛られて落とし入れられたるなり」と答ふ。

（一部省略）

１　太政大臣になりたまふ
２　容体ほそやかにあてなりければ
３　おのづから宿世宿世に人となりたちぬれば
４　侍従の大納言の御女、なくなりたまひぬなり
５　またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり

第12講　PART4　確認問題

①「一人当千のつはものなり。」の傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　推定　イ　推量　ウ　伝聞　エ　断定　オ　完了

② 波線部が伝聞の意味を表す助動詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　須磨になりぬ。
イ　家どもの、物はかなげなるに、柴垣うちしつつ、…
ウ　旅人の舟どもうかがふなる白波の寄り来る舟など繋しなど…
エ　慌しく急ぎ過ぐるなるべし。
オ　緑の松の年深くて、浜風になびきなれたる枝に、…

③「あらぬなめり。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　打消の助動詞「ず」の連体形＋推定の助動詞「めり」の終止形
イ　断定の助動詞「なり」の連体形＋推量の助動詞「めり」の終止形
ウ　推定の助動詞「なり」の連体形＋推量の助動詞「む」の已然形＋完了の助動詞「り」の終止形
エ　打消の助動詞「ず」の已然形＋推量の助動詞「む」の已然形＋完了の助動詞「り」の終止形

④ 傍線部が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

年一六七ばかり（ア）なるが、薄化粧（うすげしやう）してかねぐろなり。わが子の小次郎が齢（よはひ）ほどにて、容顔（ようがん）まことに美麗（びれい）（イ）なりければ、いづくに刀を立つべしとも覚えず。「そもそもいか（ウ）なる人にてましまし候ぞ。名のらせ給へ。たすけ参らせん。」と申せば、…

⑤ 「奥山に猫またと言ふものありて、人を食らふなると、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人を食べようとした
イ　人を食うそうだ
ウ　人を食ったらしい
エ　人を食ってしまった

第13講　係助詞・間投助詞

PART1　係り結びの法則・意味

係助詞（ぞ・なむ・や・か・こそ・は・も）

★「係り結びの法則」

○ぞ・なむ・や・か→「　　　」形

○こそ　　　　　→「　　　」形

＊「結びの語」＝係助詞の上を確認→「　　　」or「　　　」の部分

その部分が複数の単語で構成されている場合は、品詞分解をして活用する「　　　」の**一単語**のみ。

（例）これやわが求むる山ならむ。

〈例題一〉　傍線部の係助詞に対応する結びの語を抜き出し、その終止形を書け。

① さることやありし。

② ことば多からぬこそ、飽かず向かはまほしけれ。

③ 心なむまさりたりける。

④ 花こそ咲けれ。

問一　「『も』の字」とは何助詞か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　格助詞　　イ　間投助詞　　ウ　係助詞　　エ　接続助詞　　オ　副助詞

問二　「誘はれざりけるこそ、口惜し［A］」の空欄Aに入る最も適当な語を、次の中から選べ。

ア　からむ　　イ　らむ　　ウ　けれ　　エ　なむ　　オ　べし

★**「意味」**

○ぞ・なむ・こそ→「　　・　　」※訳出不要

○や・か→「　　　」

　※後ろに答えが**有**＝「　　　」

　　〃　　　　**無**＝「　　　」

※「　　・　　」＝**反語**が多い。

※「〜　　。」・「〜　　。」＝**反語**。（**和歌**で多用）

問三　「仰せらるるぞ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

① ラ行下二段活用動詞の連体形＋強意の係助詞
② ラ行下二段活用動詞の連用形＋詠嘆の係助詞
③ ラ行四段活用動詞の連用形＋強調の係助詞
④ ラ行四段活用動詞の連体形＋禁止の終助詞
⑤ ラ行四段活用動詞の連用形＋断定の終助詞

問四　「いづこの御いらへかはあらむ」の現代語訳として正しいものを、次の中から選べ。

1　どのように御返事申し上げようか
2　どなたに御返事したらよいか
3　もちろん御返事などあるわけがない
4　どうしてこんな御返事をなさるのだろう

〈Memo〉

第13講　PART1　確認問題

①　空欄Ａ・Ｂに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

梅の花なむ咲き［Ａ］。
梅の花こそ咲き［Ｂ］。

ア　Ａ　けら　　Ｂ　けり
イ　Ａ　けり　　Ｂ　ける
ウ　Ａ　ける　　Ｂ　けれ
エ　Ａ　けれ　　Ｂ　けら

②　「忍びてぞいでたまふ。」の傍線部の活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形
エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

③「をとこ、異心（ことごころ）ありてかかるにやあらむと思ひうたがひて、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　このようであるのだろうか
イ　このようであるに違いない
ウ　このようであったとしたら
エ　このようであろうか、いや、ない

④「鳶（とび）のゐたらんは、何かは苦しかるべき。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いつか苦になるだろう
イ　きっと苦になるに違いない
ウ　苦になるのだとしたら
エ　何が苦になろうか、いや、苦にならない

⑤「銀（しろかね）も金（くがね）も玉も何せむに勝（まさ）れる宝子に及（し）かめやも。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　及ぶだろうか
イ　及ぶのは間違いない
ウ　及ばなかったとしても
エ　及ぶだろうか、いや、及ばない

PART2　結びの省略／流れ・逆接強調法・危惧の用法・間投助詞

★**「結びの省略」**＝係助詞の「　　」の**一文字**確認

○**に**＋{ぞ／なむ}、。→「　　　」を補う

○**に**＋{や／か}、。→「　　　」を補う

○**に**＋こそ、。→「　　・　　」を補う

○**と**＋係助詞、。→「　（　　）・　（　　）」を補う

★**「結びの流れ（消失・消滅）」**　本来結びとなる語に、接続助詞などがついて、結びがなくなり先へ続いていくこと。

（例）たとひ耳鼻**こそ**切れ失すとも、命ばかりはなどて生きざらむ。

問五「いづくにか」の後に省略されているものを、次の中から選べ。

ア　来める　イ　あらん　ウ　参らばや　エ　あらじ　オ　多かりし

問六　各傍線部「こそ」の説明として、最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

「よろづのこと、さまに従ひて こそ[1]めやすけれ。〈中略〉御声 こそ[2]惜しみ給ふとも、少しけ近くだに「 こそ[3]」などいさめ聞こえ給へど…

イ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として終止する。
ロ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として逆接的に下に続く。
ハ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として反語の表現となる。
ニ　係りに対して結びが流れ、強調文として終止する。
ホ　係りに対して結びが流れ、強調文として逆接的に下に続く。
ヘ　係りに対して結びが流れ、強調文として反語の表現となる。
ト　係りだけで、その部分を強調提示する。
チ　係りだけで、言外に逆接的な意味を暗示する。

1＝　2＝　3＝

★「逆接強調法」

「文中」の「こそ…已然形、～」→ 訳出の時に「…　　、～」などの「　　」を補う。

★「危惧の用法」

○もぞ
○もこそ
＝「～したら　　・　　」と訳す。

問七「殿のうちをだに人あまたしてこそ歩きたまへ、ただひとところ帰りたまふに、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるので
2　屋敷の中までも人を大勢連れてお歩きになれば
3　せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きにならなければ
4　屋敷の中でさえ人を大勢連れてお歩きになるのに
5　せめて屋敷の中だけでも人を大勢連れてお歩きください

問八「風邪などもこそ引かせ給へ」を「もこそ」の意味に注意して現代語訳せよ。　※給ふ＝「～なさる」と訳す

間投助詞（や・よ・を・こそ）

★「こそ」の意味

① 呼びかけ（〜さん）
「人物こそ。」

★「や」・「よ」・「を」の意味

① 詠嘆（〜なあ）
② 強調（訳出不要）
③ 呼びかけ（〜よ）

第13講　PART2　確認問題

① 「世に語り伝ふる事、まことはあいなきにや、おほくは、…」の傍線部の係助詞「や」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ある　　イ　あらむ　　ウ　あれ　　エ　あらめ

② 「袖をひろぐるわざをし侍るにこそとうち思ひて、…」の傍線部の係助詞「こそ」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　聞け　　イ　言へ　　ウ　あはれめ　　エ　あらめ

③ 傍線部の係助詞に対して結びが省略された文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「なにの前司（ぜんじ）にこそは。」などぞかならずいらふる。
イ　まことにさにこそ候ひけれ。
ウ　敦盛（あつもり）器量（きりやう）たるによつて、持たれたりけるとかや。
エ　橋を八つわたせるによりてなむ八橋といひける。

④「しな・かたちこそ生まれつきたらめ、心は…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　生まれつきであろうけれども
イ　生まれつきだから
ウ　生まれつきではあるまいが
エ　生まれつきではないのだろうか

⑤「風もぞ吹く。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　風が吹いた。
イ　風が吹いたら困る。
ウ　風が吹きすさんでいる。
エ　風が吹くので。

PART1　の・が

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・して・にて）

★「の」の用法

① **主格**（＝〜　　　）

　体言の…用言

② **連体（修飾）格**（＝〜　　　）

　体言の…体言

③ **同格**（＝〜　　　）

　体言の……［　　　形］〜〜〜。

（例）白き花**の**小さきあり。

④ **準体格**（＝〜　　　）

⑤ **連用（修飾）格**（＝〜　　　）

○「　　　」中の「の」で「〜　　　」と訳せる。

○「　　　」の「の」

★「が」の用法

「の」と同じ。ただし、**「が」には「連用（修飾）格」の用法はない。**

※同格の「が」

連体形**が**……連体形〜〜〜。　↓　各連体形の下に**同じ体言**が補えて文意が通じる。

（例）いとやむごとなき際にはあらぬ**が**、すぐれて時めき給ふありけり。

第14講　PART1　確認問題

① 「我あさごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　主格　イ　同格　ウ　連体（修飾）格　エ　連用（修飾）格

② 「おのがなさぬ子なれば、心にも従はずなんある。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　主格　イ　同格　ウ　準体格　エ　連体（修飾）格

③ 傍線部の格助詞「の」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

おほやけ思してつかうたまふ女の、色ゆるされたるありけり。

ア　主語であることを示している。
イ　前の体言が後ろの体言を修飾することを示している。
ウ　「の」の前後が同格であることを示している。
エ　後ろにあるはずの体言の代用となっている。

④「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、…」の二重傍線部の格助詞「の」と同じ用法の「の」を用いたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　この姫君ののたまふこと
イ　男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを召し寄せて、
ウ　箱の虫どもを取らせ、
エ　よろづのもとどもをたづねて、

⑤　傍線部の用法が他と違うものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

林の中ア の丘だちたるやうなる所にて逍遥（せうえう）したまふ。叟（そう）（＝老人）イ の帽子したるが、舟を葦（あし）につなぎ陸（くが）にのぼり、杖をつきて、琴の調べの終はるを聞く。こウ の琴弾きたまふは誰ぞ。「ただ国エ の賢き人として政（まつりごと）をし、悪（あ）しき事を直したまふ賢人（かしこびと）なり」と答ふ。

PART2 例題／練習問題解説

〔例題二〕次の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを後の選択肢の中から選べ。

① いかなれば四条大納言のはめでたく、兼久がはわろかるべきぞ。
② いかなる人の御馬ぞ。
③ 惟喬の親王、例の狩しにおはします供に、馬の頭なるおきな仕うまつれり。
④ 月のおもしろかりける夜、みそかに御息所たちの御曹司どもを見歩かせたまひけり。
⑤ 夢に、いと清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たるが来て、…

ア 主格　イ 連体格　ウ 同格　エ 準体格　オ 連用格

①＝　②＝　③＝　④＝　⑤＝

問九 傍線部と文法的意味が同じものを、次の中から選べ。

いみじう若うをかしげなる男の、烏帽子・直衣なるが、物も覚えず泣き惑ふさま、…

イ 頭(かしら)白き女の水汲めるなむ、前よりあやしきやうなる家にいりける
ロ 世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし
ハ そこらの人の謗り、恨みをも、はばからせ給はず

問十　傍線部の「の」の用法を、次の中からそれぞれ選べ（同じ記号を何度用いてもよい）。

① 怪（け）と人の申すことどもの、…

② 前（さき）の一条院の御即位の日、…

③ 髪つきたるものの頭の、血うちつきたるを見つけたりける、あさましく、…

④ かばかりのことを隠すべきかとて、…

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

第14講　PART2　確認問題

①　傍線部の文法的意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

1　昨日の白紙思ひ出でてにやあらむ、かく言ふめり。
2　昨日のは、いと古めかしきここちすれば聞こえず。
3　秋風にあへず散りぬるもみぢ葉のゆくへさだめぬ我ぞかなしき
4　わび人のわけて立ち寄る木のもとは頼む蔭なく紅葉散りけり
5　玉光り輝きたる男の、いとをかしげなるを生みたまへり。

ア	1　同格	2　準体格	3　主格	4　連体格	5　連用格
イ	1　連体格	2　準体格	3　連用格	4　主格	5　同格
ウ	1　準体格	2　連用格	3　主格	4　連体格	5　同格
エ	1　連体格	2　連用格	3　主格	4　同格	5　準体格

② 傍線部と文法的意味が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

若き人々、悲しきことはさらにもいはず、内裏わたりを朝夕にならひて、いとさうざうしく、上の御ありさまなど思ひ出できこゆれば、とく参りたまはんことをそそのかしきこゆれど、…

ア　月は入り方の、空清う澄みわたれるに、風いと涼しくなりて、…
イ　鈴虫の声のかぎりを尽くしても長き夜あかずふる涙かな
ウ　かくいまいましき身の添ひたてまつらむもいと人聞きうかるべし、…
エ　心にくきかぎりの女房四五人さぶらはせたまひて、御物語せさせたまふなりけり。

③ 傍線部の「の」の用法の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

1　もみじ葉の流れてとまる水門には紅深き波や立つらむ
2　黄なる生絹の単袴長く着なしたる童のをかしげなる出で来てうち招く。
3　龍田姫手向くる神のあればこそ秋の木の葉のぬさと散るらめ
4　「口惜しの花の契りや、一房折りてまゐれ」とのたまへば、…

ア　1 主格　2 同格　3 主格　4 連体格
イ　1 同格　2 同格　3 準体格　4 連用格
ウ　1 主格　2 連用格　3 同格　4 連用格
エ　1 準体格　2 主格　3 準体格　4 連体格

④　傍線部の用法が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

道にて、くらもちの皇子、血ア の流るるまで打ぜさせたまふ。…かくて、この皇子は、「一生イ の恥、これに過ぐるはあらじ。…天下の人ウ の、見思はむことエ のはづかしきこと。」とのたまひて、…

⑤　傍線部の用法が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

中納言石上麿足1 の、家に使はるる男ども2 のもとに、「燕3 の、巣くひたらば告げよ。」とのたまふを、うけたまはりて、「何の用にかあらむ。」と申す。答へてのたまふやう、「燕4 の持たる子安貝を取らむ料なり。」とのたまふ。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

〈Memo〉

PART3　して・より・にて

★「して」の重要な3つの訳

① 手段（＝～　　　）

② 共同（＝～　　　）

③ 使役の対象（＝～　　　）

（例）人して、惟光召させて…

〈例題三〉 傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の選択肢から選べ。

① 御使ひ**して**申させ給ふ。

② 長き爪**して**眼をつかみつぶさむ。

③ むつまじき四五人ばかり**して**、まだ暁におはす。

ア 手段　イ 共同　ウ 使役の対象

①＝　②＝　③＝

★「より」の重要な３つの訳

①　経由（＝〜　　　　　）

起点（＝〜から）で訳せた時、注意！

（例）木の間より洩り来る月の影

②　即時（＝〜　　　　　）

「　　　」形＋より→「即時」から考える。

（例）名を聞くより、やがて面影は推しはかるる心地するを…。

③　手段・方法（＝〜　　　　　）

「　　**手段**」が多い。

※「　　　　」（＝徒歩で）

★「にて」の用法

①　場所・時間
②　時刻・年齢
③　手段・方法
④　原因・理由
⑤　**資格・状態（～として・～で）**

（例）ただ人にておほやけの御後ろ見をするなむ、行くさきも頼もしげなること。

※「にて」の識別

体言
連体形 ｝＋にて ＝「～であって」→断定「なり」㊐＋接続助詞「て」
＝「～であって」→格助詞「にて」

〈Memo〉

第14講 PART3 確認問題

① 「かの大将……とのたまひて、御随身（みずいじん）、舎人（とねり）して取りにつかはす。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 手段　イ 共同　ウ 使役の対象　エ 場所

② 傍線部の品詞の種類が他と違うものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 御袖して御耳塞ぎたまひつ。

イ いみじう心して書けど、かならずこそきたなげになるめれ。

ウ 御供に声ある人してうたはせたまふ。

エ 友とする人、ひとりふたりして行きけり。

③ 「徒歩よりまうでけり。」の傍線部と同じ用法のものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 神代より　吉野の宮に　あり通ひ…

イ つぎねふ　山城路を　人夫の　馬より行くに…

ウ 我よりも　貧しき人の　父母は　飢ゑ寒ゆらむ…

エ 家づとに　貝を拾ふと　沖辺より　寄せ来る波に　衣手ぬれぬ

④　傍線部の格助詞「にて」の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

かばかり聞こゆるにても、おしなべたらぬ心ざしのほどを御覧じ知らば、いかにうれしう。

ア　場所・時間
イ　手段・方法
ウ　原因・理由
エ　資格・状態

⑤　傍線部の品詞の種類が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　変化の物にて侍りけん身とも知らず、…
イ　我あさごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。
ウ　おく露の光をだにぞやどさましをぐら山にて何求めけん
エ　潮海（しほうみ）のほとりにて、あざれあへり。

第15講　接続助詞・「て」の識別・副助詞・「し」の識別

PART1　ば・とも・ど・ども

接続助詞（ば・とも・ど・ども・て・で・つつ・に・を・ながら・ものの・ものから・ものゆゑ・ものを・が・して）

★「ば」の用法＝「　　接　」

○「　　」形＋ば＝　　　条件

（　　　〜　　　）

○「　　」形＋ば＝　　　条件

原因・理由＝（　　　・　　　）
偶然　　　＝（　　　・　　　）
恒常　　　＝（　　　）

問一　「あればこそ」の文法的説明として適当なものを、次の中から一つ選べ。

イ　動詞「あり」の未然形＋逆接確定を表す接続助詞「ば」＋詠嘆の間投助詞「こそ」
ロ　動詞「あり」の未然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ハ　動詞「あり」の已然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ニ　動詞「あり」の已然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ホ　動詞「あり」の未然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の副助詞「こそ」

問二　傍線部「ば」と意味用法が同じものを次の中から選べ。

大江山いくのの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

ア　柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺
イ　いと幼ければ籠に入れて養ふ
ウ　そのこと果てなばとく帰るべし
エ　名をばさぬきのみやつことなむ言ひける
オ　花咲かばうれしからまし

★「とも」の用法＝「　　接」

「　　」形＋とも＝　　条件

（　　～　　）

★「ど・ども」の用法＝「　　接」

「　　」形＋ど・ども＝　　条件

問三　「尋ぬともあらじ」の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　ナ行下二段活用動詞の終止形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋過去推量の助動詞の終止形
2　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消意志の助動詞の終止形
3　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋打消推量の助動詞の終止形
4　ナ行下二段活用動詞の連体形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋禁止の助動詞の終止形
5　ナ行下二段活用動詞の連体形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消当然の助動詞の終止形

問四　二重空欄A・Bには接続助詞が入る。A・Bをうめる組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

「大弐（だいに）の居所ははるかなれ［A］、楼の上の瓦などの、心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありけれ［B］、鐘の声を聞こしめして、…」

1　ども・ば
2　ば・ども
3　ども・とも
4　ば・とも
5　とも・ば

〈Memo〉

第15講　PART1　確認問題

① 傍線部の用法が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　帰りぬればイ　風吹かばウ　のたまへばエ　長ければ

② 「主強くなるとも、変らずうちとけぬべく見えしさまなるを頼みて、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　形容詞の連用形＋ラ行四段活用動詞の終止形＋逆接の仮定条件を表す接続助詞
イ　形容詞の連用形＋ラ行四段活用動詞の連体形＋順接の仮定条件を表す接続助詞
ウ　形容詞の未然形＋ラ行四段活用動詞の終止形＋順接の仮定条件を表す接続助詞
エ　形容詞の未然形＋ラ行四段活用動詞の連体形＋逆接の仮定条件を表す接続助詞

③ 「それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　それを見るとしても
イ　もしそれを見るならば
ウ　それを見ると
エ　それを見るけれども

④「日あしければ、船出ださず。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　天候が悪くなれば、船は出さないだろう。
イ　天候が悪くなくても、船は出せない。
ウ　天候が悪くなければ、船を出すだろう。
エ　天候が悪いので、船を出さない。

⑤「にぎははしきやうなれど、負くる心地す。」の傍線部と意味・用法が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　言ひかかれども、こととももせず。
イ　童までにくれたれば、あきみちて、…
ウ　悪人のまねとて人を殺さば、悪人なり。
エ　かくさし籠（こ）めてありとも、かの国の人来ば、みな開きなむとす。

PART2　その他の接続助詞・「て」の識別

★「て」の用法＝単純接続

「　　　」形＋て

★「で」の用法＝「　　　」接続

「　　　」形＋で
（〜　　　　）

問五　「見せで」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見せて
イ　見せられて
ウ　見えず
エ　見せないで
オ　見えて

★「つつ」の用法＝①反復（〜ては）②継続（〜し続けて）

「　　」形＋つつ

問六「物入れつ、参らするを」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

イ　何か物を入れては差し上げていますのに
ロ　何か物を入れて召し上がっていますのに
ハ　何か物を入れながら参上なさいますのに
ニ　何か物をお入れしながら伺わせますのに
ホ　何か物をお入れ申し上げなさいますのに

★「に」・「を」の用法＝①順接（〜ので・から）②逆接（〜のに・けれど）③単純接続（〜ところ・と）

「　　」形＋に・を

★「ながら」の用法＝①逆接（**〜のに**）②同時（**〜ながら**）③**そのまま**　④**全部、〜中**

〔例題一〕 傍線部の訳を、次の選択肢の中から選べ。

① 身はいやしながら、母なむ宮（＝皇族）なりける。

② すべて折につけつつ一年ながらをかし。

③ 涙にむせびながら申すやう…

④「こなたに入り給へ」と、御簾の内ながらのたまふ。

ア ～のに　イ ～ながら　ウ ～のまま　エ 全部、～中

★ もの 系〔＝ものの・ものから・ものゆゑ・ものを〕＝「　　接」

「　　」形＋もの系

＊「ものの」以外は順接の働きもある。

＊「ものを」＝文末にあれば、詠嘆の終助詞として「～**のになあ**」と訳す。

「て」の識別

【識別対象】
1　接続助詞「て」
2　完了の助動詞「つ」の「　　　」形か「　　　」形

〈見分け方〉＝「　　　」に「　　　」が**有る**か**無い**かを確認。
（＊上（＝接続）はどちらも連用形）

1　「　　　」＝接続助詞「て」
2　「　　　」＝完了の助動詞「つ」
※例外　「**て**ば」「**て**ばや」の「**て**」は「　　　」

問七　「御覧じてけり。」の品詞構成の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　動詞＋助動詞＋助動詞
2　動詞＋助動詞＋助詞
3　動詞＋助詞＋助動詞
4　名詞＋動詞＋助動詞＋助動詞
5　名詞＋動詞＋助詞＋助動詞
6　名詞＋動詞＋助動詞＋助詞

第15講　PART2　確認問題

①「狩はねむごろにもせで、酒をのみ飲みつつ、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　狩りは熱心にしていたが
イ　狩りは熱心にもしないで
ウ　狩りを熱心にして
エ　狩りを熱心にしていたので

②「ただここもとにおぼえながら、いひ出でられぬはいかにぞや。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　もうすぐそこまで思い出しかけているのに、言い出せない
イ　ただここまでに思い出したことを全部、言い出した
ウ　まさに今そのことを思い出しながら、話し始めた
エ　全て自分が思い出したようには、話すことはできない

③「もののをりごとに、おぼし出できこえさせ給ふなる［　］。」の空欄にあてはまる語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ものの　イ　ものから　ウ　ものゆゑ　エ　ものを

④「むつかしくて返してき。」の傍線部の品詞構成として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名詞＋助詞＋動詞
イ　名詞＋助動詞＋動詞
ウ　動詞＋助詞＋助動詞
エ　動詞＋助動詞＋助動詞

⑤　傍線部の品詞が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　行き行きて駿河（するが）の国にいたりぬ。
イ　鬼はや一口に食ひてけり。
ウ　この人々に見そめてば、かならず心とどめたまひてん、…
エ　とまれかうまれ、とく破りてん。

PART3　だに・すら・さへ・し

副助詞（だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで）

★「だに・すら・さへ」の用法

副助詞	用法
※だに	類推（〜　　　）
すら	類推（〜　　　）
さへ	添加（〜　　　）

★「類推」の構文

[A]　だに／すら（サエ）　[B]

「　　（　　　　）」

[C]　はなおさら　[　　]

※**「だに」**には**限定用法**（＝　　　　　～　　　　　）もある。

〈「だに」の意味の見分け方〉＝「　　　　　　」を見る。

限定用法 → **だに**＋～「　　　　」・「　　　　」・「　　　　」・「　　　　」

問八　「跡をだに形見に見むと思ひしを…」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

A　屋敷の様子だけでも見て、資盛をしのぶよすがとしようということ。
B　屋敷の様子を見て、ある聖の手に渡ってしまったことを実感したこと。
C　屋敷の様子を見て、資盛と別れたときのことを思い出したということ。
D　屋敷を訪れて、資盛がまだ生きているような気がしていること。
E　屋敷を訪れて、ある聖の手に渡ったときのことを思い出したこと。

★**「し」の用法**＝「　　　　　」

①「**し**　　　　」・「**し**　　　　」
②「A**し**Bば」
③「Vと**し**V」　※同じV

第15講　PART3　確認問題

① 「『翁丸（おきなまろ）*か』とだにいへば、よろこびてまうで来るものを、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　翁丸…犬の名

ア　さえ　イ　までも　ウ　だけでも　エ　ばかり

② 「見てけりとだに知られんとおもひて書きつく。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私が見たのかどうかと不安を感じさせよう
イ　私が見たことを知らせて後悔させよう
ウ　私がたしかに見たことだけは悟らせよう
エ　私が見たかもしれないと思わせておこう

③「聖などすら、前の世のこと夢に見るは、いと難かなるを、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　徳の高い僧などだけでも
イ　徳の高い僧などまでも
ウ　徳の高い僧などでさえ
エ　徳の高い僧などだけが

④　傍線部が「そこにいる人の毛穴まで見えるほどである」という現代語訳になるように、空欄に入れる副助詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

望月(もちづき)の明さを十あはせたるばかりにて、ある人の毛の穴［　］見ゆるほどなり。

ア　だに　　イ　すら　　ウ　さへ　　エ　し

⑤「今日しも端におはしましけるかな。」の傍線部の意味・用法として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　類推　　イ　限定　　ウ　添加　　エ　強意

PART4 「し」の識別

「し」の識別

【識別対象】

1　サ変動詞「　」の「　　」形
2　過去の助動詞「　」の「　　」形
3　「　　」の副助詞「し」

〈見分け方〉

1　「　　」と訳せる＝サ変動詞
2　「　」形＋**し**＝過去の助動詞「き」
3　「し」を省いても文意が通じる。＝副助詞　※副助詞「し」の用法①〜③参照。

問九　「日ごろより聞きおよびしゆゑに、…」の傍線部と文法的に同じものはどれか。次の中から一つ選べ。

イ　そのむくいをほどこしたまふなり。
ロ　外の事を聞き入れずして、…
ハ　成人してのちに、はたして令尹といふ官人になれり。
ニ　駿馬をうしなはれし時、…
ホ　照名とてあきらかなる名があらはれて、天下にかくれなし。

〈Memo〉

第15講　PART4　確認問題

① 「生き給ひたりし時、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　接続助詞の一部　　イ　副助詞　　ウ　過去の助動詞「き」の連体形
エ　形容詞の活用語尾の一部　　オ　サ行変格活用動詞の連用形　　カ　サ行四段活用動詞の連用形活用語尾

② 「むかし、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でてあそびけるを、…」の傍線部の品詞構成として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名詞＋動詞＋助動詞　　イ　名詞＋助詞＋助動詞
ウ　動詞＋動詞＋動詞　　エ　動詞＋助詞＋動詞

③ 「昔の若人（わかうど）は、さるすける物思ひをなむしける。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　強意の係助詞＋サ行変格活用動詞の連用形＋過去の助動詞の連体形
イ　強意の係助詞＋強意の副助詞＋過去の助動詞の連体形
ウ　願望の終助詞＋サ行変格活用動詞の連用形＋詠嘆の助動詞の連体形
エ　願望の終助詞＋強意の副助詞＋詠嘆の助動詞の連体形

④ 「いまし、羽根＊といふところに来ぬ。」の傍線部と同じ意味・用法のものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

注　羽根…地名

ア　昔ありし家はまれなり。
イ　おのれし酒をくらひつれば、…
ウ　風はげしく吹きて、静かならざりし夜、…
エ　この歌をひとり言にしてやみぬ。

⑤ ア～エの二カ所の傍線部の「し」が文法的に同じであるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名にし負はばいざ事とはむみやこ鳥わが思ふ人はありやなしやと
イ　忘れ草植うとだに聞くものならば思ひけりとは知りもしなまし
ウ　くらべこし振分髪（ふりわけがみ）も肩すぎぬ君ならずして誰かあぐべき
エ　あらき風ふせぎしかげの枯れしより小萩がうへぞしづ心なき

第16講　終助詞・ばやの識別・なむの識別

PART1　終助詞

終助詞

【　　　】**ばや・てしがな・にしがな**／**なむ**／もが・**もがな**・がな
【　　　】**かし**
【　　　】**そ・な**
【　　　】**かも・かな**・か・も・な・**や**

★「願望」

〈　　　願望〉＝～たい

「　　　」形＋**ばや**

「　　　」形＋{てしがな／にしがな}

〈　　　願望（＝**あつらえ**）〉＝～てほしい

「　　　」形＋**なむ**

〈状態願望〉＝〜があればなあ・〜がいればなあ・〜であればなあ

種々の語＋{ もが／**もがな**／がな }

問一　「初音の勝負をし侍らばや。」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　この御所では初めてだが、「郭公」という曲で楽の音を競う勝負をしてはどうだろう。
イ　どちらが先に、今年初めての郭公の鳴き声を聞くか、勝負をしたいものでございます。
ウ　院御所では今春初めて、「郭公」を題とする朗詠の勝負をするとお聞きしましたが。
エ　北山殿にて、この夏初めての郭公の鳴きまね勝負をするべきではないでしょうか。
オ　誰が初めに郭公を鳴かせることができるか、勝負をするよう、お命じになってはいかがですか。

問二　「迷はざらなむ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

1　迷わないだろう
2　迷うはずはない
3　迷うことであろう
4　迷うことがあろうか
5　迷わないでもらいたい

★**念押し**＝「　　・　　」

※「**ぞかし**」（＝〜だよ・〜だね）の形

★**禁止**＝〜するな

※「　　」〜**そ**（＝〜してくれるな）

問三　「もの知らぬこと[x]のたまひ[y]」が禁止を意味するように、[x]と[y]に適切なひらがなを一字ずつ書け。

x＝　　y＝

問四　次の傍線部の助詞の種類を、後の中から選べ（同じ記号を何度使ってもかまいません）。

「諸国の観音にも参詣せばやと存ずるなり。」（a: ばや）

両人いろいろとどむれども、なかなか止まるべきにあらざれば、…（b: ども）

「ここにのみゐたらむより、主人をあまた取りかへて仇を尋ねよかし」（c: のみ、d: かし）

ア　格助詞　　イ　接続助詞　　ウ　係助詞　　エ　副助詞　　オ　終助詞

a＝　　b＝　　c＝　　d＝

〈Memo〉

第16講　PART1　確認問題

① 「ひとことなおとし［　　］」の空欄には、禁止の意味を表す終助詞が入る。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ばや　　イ　そ　　ウ　なむ　　エ　かし　　オ　ぞ

② 「かぐや姫を得てしがな、見てしがなと、おとに聞きめでて、…」の傍線部について、文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　自己願望　　イ　禁止　　ウ　念押し　　エ　詠嘆

③ 「知りえたることぞ［　　］。」の空欄には、念押しの意味を表す終助詞が入る。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　な　　イ　もがな　　ウ　なむ　　エ　かし

④「あらざらむこの世のほかの思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな」の傍線部について、現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　逢えるに違いない
イ　逢いたいものだなあ
ウ　逢いにきてほしいなあ
エ　逢えないだろうに

⑤「君に恋ひ甚（いた）も術（すべ）なみ平山（ならやま）の小松が下に立ち嘆くかも」の傍線部について、文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　願望　　イ　禁止　　ウ　念押し　　エ　詠嘆

PART2　ばやの識別

「ばや」の識別

【識別対象】

1 「　　」の終助詞「ばや」

2 接続助詞「ば」＋係助詞「や」

〈見分け方〉

1 「　　」形＋[ばや]（　　）＝自己願望の終助詞「ばや」

2 「　　」形＋(ば)(や)（　　）＝接続助詞「ば」**仮定**条件＋係助詞「や」

3 「　　」形＋(ば)(や)＝接続助詞「ば」**確定**条件＋係助詞「や」

〔例題一〕　傍線部の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

①　久方の月の桂も秋はなほもみぢすればや照りまさるらむ

②　いましばしもあらばやと思へど、明くれば、ののしりて出だし立つ。

③　心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花

ア　自己願望の終助詞
イ　順接仮定条件の接続助詞＋係助詞
ウ　順接確定条件の接続助詞＋係助詞

①＝　　②＝　　③＝

第16講　PART2　確認問題

①「人はよきほどのしまひあらばや。」の傍線部の用法として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　疑問　　イ　意志　　ウ　推量　　エ　願望　　オ　勧誘

②「いかで見ばや。」について、現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうにかして見るに違いない。
イ　どうにかして見せてほしい。
ウ　どうにかして見たい。
エ　どうしたら見ることができるだろうか。

③「寝ばや飽く時のあらむ」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　自己願望の終助詞
イ　順接仮定条件の接続助詞＋係助詞
ウ　順接確定条件の接続助詞＋係助詞
エ　動詞の一部＋係助詞

④　「思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　自己願望の終助詞
イ　順接仮定条件の接続助詞＋係助詞
ウ　順接確定条件の接続助詞＋係助詞
エ　動詞の一部＋係助詞

⑤　傍線部が他と文法的に異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　龍ならばや、雲にも乗らむ。
イ　助け奉らばや。
ウ　五月来ば鳴きも古りなむほととぎすまだしきほどの声を聞かばや
エ　消えも失せばや。

PART3 なむの識別（基本編）

「なむ」の識別

【識別対象】

1 「　　」の終助詞「なむ」

2 「　　」の助動詞「ぬ」の「　　」形＋推量の助動詞「む」

3 ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」

4 「　　」の係助詞「なむ」

〈見分け方〉 ＝「　　」

1 「　　」形＋なむ＝他者願望（＝あつらえ）の終助詞「なむ」

2 「　　」形＋な＋む＝完了・「　　」の助動詞「ぬ」＋推量の助動詞「む」

3 「　　なむ」・「　　なむ」・「　　なむ」＝ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」

4 1〜3以外＝強意の係助詞「なむ」

問五 「我、人に劣りなむや」の傍線部の文法的な説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア 係助詞
イ 終助詞
ウ 副助詞
エ 完了の助動詞＋推量の助動詞
オ 断定の助動詞＋推量の助動詞

問六 傍線部イ～ハの文法的説明として最も適切なものを、次の中からそれぞれ選べ。

「いざ(イ)なん、聖のある、おそろしきに」
「日比(ごろ)、見でや止み(や)(ロ)なんと心うかりつるを、…」
「おとなになり(ハ)なん時は御門の后(きさき)にも奉り、…」

① 動詞　② 動詞の一部＋助動詞
③ 助動詞　④ 助動詞の一部
⑤ 助動詞＋助動詞　⑥ 副詞
⑦ 係助詞　⑧ 終助詞

イ＝　ロ＝　ハ＝

問七　「君が宿にてかへらざらなむ」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あなたの所へ帰っていきたい。
イ　あなたの所へ帰っていくだろう。
ウ　あなたの所へ帰らないでいたい。
エ　あなたの家で孵化（ふか）してほしい。
オ　あなたの家で孵化するだろう。
カ　あなたの家で孵化しないでほしい。

問八　「さることはありなむや、隠いたまひてけむ」の現代語訳として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　そういうことであってほしい、お隠しになっただろうか
イ　そんなことがあるだろうか、お隠しになったのだ
ウ　そういうことであってほしい、きっとお隠しになっただろう
エ　そんなことがあるだろうか、きっとお隠しになっただろう

〈Memo〉

第16講　PART3　確認問題

①「集などにも入りなむ。」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞　イ　終助詞　ウ　動詞の一部＋推量の助動詞　エ　強意の助動詞＋推量の助動詞

②「良かりなむ。」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　形容詞「良し」の命令形＋終助詞「なむ」
イ　形容詞「良し」の連体形＋係助詞「なむ」
ウ　形容詞「良し」の未然形＋完了の助動詞「り」の連用形＋終助詞「なむ」
エ　形容詞「良し」の連用形＋禁止の終助詞「な」＋推量の助動詞「む」の終止形
オ　形容詞「良し」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形

③「名をば、さかきの造（みやつこ）となむいひける。」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　終助詞　イ　動詞の一部＋推量の助動詞　ウ　係助詞　エ　強意の助動詞＋推量の助動詞

④「惟光疾く参らなむとおぼす。」の傍線部について、現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　早く来るだろうか
イ　早く来るに違いない
ウ　きっと早く来るだろう
エ　早く来てほしいものだ

⑤「高砂の尾上の桜咲きにけり外山の霞立たずもあらなむ」の傍線部について、文法的説明が同じになるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　花死なむ。
イ　花咲きなむ。
ウ　花咲かなむ。
エ　花なむ咲く。

PART4　なむの識別（応用編）

★注意すべき「なむ」

○「未然形」と「連用形」が同じ形の場合→**文脈判断**

まず「　　　　　　」と訳してみる。

○→他者願望の終助詞

×→完了の助動詞＋推量の助動詞

※ただし、「　　　　」にあれば「完了の助動詞＋推量の助動詞」である。

○「しなむ」の場合

「し」が「　　　」と訳せる＝サ変「す」連用形→「　　　　　　　　　」

「し」が「　　　」の意味→ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量

○「連用形＋なむ」が「係助詞」である場合

連用形

〜

〜

〜

＋ **なむ** ＝ **係助詞**

○「てなむ」＝**接続助詞**「て」＋**係助詞**「なむ」

〈Memo〉

第16講　PART4　確認問題

①「〜よきは短くてあらなん。」の二重傍線部「なん」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　詠嘆の終助詞　イ　ナ変動詞＋推量の助動詞　ウ　他者願望の終助詞
エ　強意の係助詞　オ　強意の助動詞＋推量の助動詞

②「願はくは花の下にて春死なむそのきさらぎの望月（もちづき）のころ」の傍線部について文法的説明が同じになるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いつしか梅咲かなむ、…
イ　もと光る竹なむ一筋ありける。
ウ　早く去（い）なむとて、…
エ　いみじく長くなりなむ。

③　「小倉山峰のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆき待たなむ」の傍線部について、現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　待っていてほしい
イ　きっと待つだろう
ウ　待っているだろうなあ
エ　決して待つことはできない

④　「その的射なむと思ふ。」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　詠嘆の終助詞　イ　ナ変動詞＋推量の助動詞　ウ　他者願望の終助詞
エ　強意の係助詞　オ　強意の助動詞＋推量の助動詞

⑤　傍線部「なむ」について、係助詞「なむ」であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　憂はしく思ひ給へてなむ、…
イ　舟に乗りなむ。
ウ　峯(みね)もたひらになりななむ、…
エ　四十に足らぬほどにて死なむこそ、…

第17講　呼応の副詞・「に」の識別

PART1　呼応の副詞

呼応（陳述）の副詞

★禁止

「　　」〜**そ**＝〜するな（〜してくれるな）

「　　」
かまへて
あなかしこ
｝〜｛
そ
な
べからず
＝決して〜するな

★不可能

「　　」〜打消＝〜できない

★その他の打消系統

「　　」知ら**ず**＝さあ、どうだかわからない

「　　」〜「　　」＝まさか〜ないだろう

★全否定

「　　」
「　　」
「　　」
「　　」
おほかた
たえて
つやつや
かけて
あへて
｝〜打消＝
まったく〜ない
全然〜ない
決して〜ない

★弱い否定

いと
いたく
｝〜打消＝**たいして**〜ない

「　　」〜打消＝
めったに〜ない
ほとんど〜ない

問九　「花ならばしばし□散りそ木の下を」の空欄には、ひらがな一字が入る。最も適切な語を記せ。

問十　下の打ち消しの語と呼応して不可能の意味を表す副詞の言葉として、最適なものを次の中から選べ。

1　さらに　　2　よも　　3　な　　4　え

問十一　「さらにそのほかのものも食はずありければ、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ますます　　イ　まったく　　ウ　たいてい　　エ　ふつうは　　オ　ほとんど

問十二　「さらにえ見いでず」の語句の意味として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　ますます見つからなくなってしまった
2　まったく見つけ出すことができなかった
3　もう世話をする気持ちも失せてしまった
4　あれ以上に良いものはもう見出せなかった

問十三　「えせぬ」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　できないことが　　イ　仕方ないが
ウ　もうけもなくて　　エ　難しそうで

問十四　「しばし、みななつかはしそ」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選べ。

イ　しばらくの間、すべてでなくてもお与えください
ロ　しばらくの間、全部は差し上げないでおきましょう
ハ　しばらくの間、みんな送り返してしまいましょう
ニ　待ってください、すべてお与えしてはいけません
ホ　待ってください、みんな差し上げてもかまいません
ヘ　待ってください、全部お返しにならないでください

★「その他」

○ **いかで（か）**～
推量＝【疑問】「どうして～だろう」／【反語】「どうして～だろうか、いや、～でない」
願望・意志＝「　　　　～したい・しよう」

○ **いつしか～願望**＝「　　　　～　したい・してほしい」

○ かまへて～
禁止＝「　　　　～するな」
命令・意志＝「　　　　～せよ・しよう」

○ はやく～けり＝「なんと実は～だったよ」

問十五　「いつしか梅咲かなむ」の「いつしか」の意味として適切なものを次の中から選べ。

1　いつの間にか　2　はやく　3　もはや　4　いったいいつか

第17講　PART1　確認問題

① 「さらにえ見いでず。」を現代語に訳すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まったく見つけられない
イ　いまさら見つけることができようか
ウ　どうしても見つけなければならない
エ　いっそう見つけようと努力した
オ　ことさら見るのも嫌である

② 傍線部が、「あなたの心は、さあ、どうだかわからない」と現代語訳できるように、空欄に当てはまる語句として最も適当なものを、次の中から選べ。

<u>人は［　　］心も知らず</u>ふるさとは花ぞ昔の香ににほひける

ア　あへて　　イ　いと　　ウ　な　　エ　いさ　　オ　よも

③ 「もの知らぬこと<u>な</u>の給ひ<u>そ</u>。」の傍線部は、呼応の副詞である。その意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　不可能　　イ　部分否定　　ウ　全否定　　エ　願望　　オ　禁止

④　傍線部には誤りがある。「世の中に、まったく桜がなかったら…」と現代語訳できるように訂正したものとして、最も適当なものを、次の中から選べ。

世の中にな桜のなかりせば春の心はのどけからまし

ア　たえて　　イ　いたく　　ウ　かまへて　　エ　いかで　　オ　え

⑤　「いかで見ばや。」の意味として、最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして見ることができるだろうか
イ　どうにかして見るに違いない
ウ　どうにかして見たい
エ　どうやって見るのだろうか
オ　どうして見たいのか

PART2 「に」の識別（基本編）

「に」の識別

【識別対象】

1 **形容動詞**ナリ活用の連用形の活用語尾
2 **ナ行変格活用動詞**「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の連用形の活用語尾
3 **完了の助動詞「ぬ」**の連用形
4 **断定の助動詞「なり」**の連用形
5 **格助詞**の「に」
6 **接続助詞**の「に」
7 **副詞・副助詞**の一部 → 「さら**に**」「まさ**に**」「げ**に**」「だ**に**」など

〈見分け方〉 ＝「　　」→「　　」

1 「　　・　　」＋に＝**形容動詞**

「　　」「　　」「　　」＋**に**　の形が多い。

2 **に**の「**に**」＝**ナ変動詞**連用形の活用語尾

3 「　　」形＋に＝**完了の助動詞**「ぬ」の連用形

※ **に**＋　　の形が多い。

第17講　PART2　確認問題

①「春日(かすが)の里にしるよしして、狩に往にけり。」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ナ行変格活用動詞の連用形活用語尾　　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形
ウ　断定の助動詞「なり」の連用形　　エ　形容動詞ナリ活用の連用形活用語尾

②「いとはしたなくてありければ、心地まどひにけり。」の傍線部と、文法的説明が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　狩はねむごろにもせで、…
イ　待ちわびたりけるに、…
ウ　いとあはれになつかしうをかし。
エ　狩り暮らしたなばたつめに宿からむ天の河原に我は来にけり

③「雪とのみ降るだにあるを桜花いかに散れとか風の吹くらむ」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　格助詞の「に」　　イ　接続助詞の「に」　　ウ　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　エ　副助詞の一部

④　傍線部「に」について、文法的説明が他と異なるものはどれか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　さらにまだ見ぬ骨のさまなり。
イ　年ごろ、つれづれにながめ明かし暮らしつつ、…
ウ　すでにあらはれにたり。
エ　げに、あるまじきことなり。

⑤　ア～エの中から、断定の助動詞「なり」の連用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　む月の十日ばかりのほどに、ほかにかくれにけり。
イ　別れ惜しみて行きにけるままに、…
ウ　かかる病にもある事にこそありけれ。
エ　「いまはいかゞいらふべき」などさだむるに、…

PART3 「に」の識別（応用編）

4 「　　　　」＋に

断定の助動詞　※左記「断定」参照

格助詞　（「である」と訳せない）

※断定

○ **に**＋（助詞）＋

○ **に**

5「　　」形＋に

- **断定**の助動詞 → 4の「※断定」と同様なので、そちらを参照のこと。
- **格助詞**
- **接続助詞**

※格助詞

連体形＋に　述部

※接続助詞

連体形＋に‖、〜

⇒ 「　　」「　　」「　　」で訳せる。

第17講 PART3 確認問題

① 「思ひなしにや、～。」の傍線部と文法的意味・用法が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。

イ　ここだくも狂ひに狂ひ思ほゆるかも。

ウ　火の中にうちくべて焼かせたまふに、めらめらと焼けぬ。

エ　鬢（びん）は失せにたれば、ひたぶるになし。

オ　あづまの方にすむべき国もとめにとて行きけり。

② 「おはしましぬ。」の「ぬ」と文法的に同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　酔ひにけり　　イ　往にけり　　ウ　恋しきに　　エ　さばかりに

③　傍線部には、一つだけ文法的に異なるものがある。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　御心も通ひぬべきを、…
イ　老人御方に入りたまひにけり。
ウ　今宵この人々にや食はれなんと思ふも、…
エ　男の艶だちゐたまへる方に帰り往にけり。
オ　中将、言ひわづらひて帰りにければ、…

④　「抜かむとするに、大方抜かれず。」の傍線部について、文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞「なり」の連用形　　イ　格助詞の「に」　　ウ　接続助詞の「に」　　エ　副助詞の一部

⑤　「若くきよげになまめきて、…」の傍線部と文法的説明が同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　清水のある所に伏しにけり。
イ　そこなりける岩に、指の血して書きつけける。
ウ　はるかにたやすく候ふべし。
エ　徳の至れりけるにや。

PART4 練習問題解説

問一 「この事も果てにしむつかしさに…」の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　格助詞　　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形
ウ　断定の助動詞「なり」の連用形　　エ　副詞の一部
オ　接続助詞　　カ　形容動詞の連用形活用語尾

問二 「思へるにや。」に含まれる助動詞「る」「に」の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　「る」は自発、「に」は完了　　2　「る」は自発、「に」は断定
3　「る」は受身、「に」は完了　　4　「る」は受身、「に」は断定
5　「る」は存続、「に」は完了　　6　「る」は存続、「に」は断定

問三 二重傍線部a・b「に」の文法的説明として、最適なものを次の中から選べ。

「元の帯にはあらねども、むなしく失ひて…」
「手をすりて、とりてまかりにけり。」

1　断定の助動詞の連用形　　2　接続助詞　　3　格助詞　　4　動詞の連用形活用語尾
5　完了の助動詞の連用形　　6　形容動詞の連用形活用語尾　　7　副詞の一部

a＝　　b＝

問四　a～eの「に」の説明として、最も適当と思われるものを、次のア～オからそれぞれ選べ。

「この所を見るに[a]、憂き世ながらかかる所もありけりと、～」
「ここかしこに[b]鈴の音などを聞くにつけても、～」
「雲居遥かに[c]心を送るしるべとぞなりにける。」
「思ひしづむる時なきに[d]しもあらねば、～」
「なほ思ひ慣れに[e]し夕暮れの眺めにうち添ひて、～」

ア　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　イ　単純な接続を表す接続助詞　　ウ　形容動詞の活用語尾
エ　断定の助動詞「なり」の連用形　　オ　場所を表す格助詞

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問五　「みな乱世にてはべれば、わろき事にてのみあらんずるをはばかりて、…」の傍線部と文法的に同じものを、次の中から選べ。

1　年にそへ日にそへては、…
2　道理もあはれにおぼえて…
3　すでに残り少なく、…
4　人も申し置かぬにやと、…
5　衰へにたることわり、…

【識別総合練習問題】

問六　傍線部ａ〜ｆについて、文法的に正しい組み合わせを次の中から一つ選べ。

人がらなりければ<u>に</u>[a]や、…
女はえ詠ま<u>ぬ</u>[b]にや、
なかなか<u>に</u>[c]、半ばなる月を見る心地するに、…
この花やがてにほは<u>な</u>[d]む。
皇子出で給ひ<u>ぬれ</u>[e]ば、…
見ずなり<u>な</u>[f]むこそあはれなれと、…

イ　ａ「に」とｃ「に」が同じ。
ロ　ｂ「ぬ」とｄ「な」が同じ。
ハ　ｂ「ぬ」とｅ「ぬれ」が同じ。
ニ　ｄ「な」とｆ「な」が同じ。
ホ　ｅ「ぬれ」とｆ「な」が同じ。

〈Memo〉

第17講　PART4　確認問題

①「男帰りにけり。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　格助詞　　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　ウ　断定の助動詞「なり」の連用形

エ　副詞の一部　　オ　接続助詞　　カ　形容動詞の連用形活用語尾

②「はたいふべきにあらず。」に含まれる助動詞「べき」「に」の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア「べき」は当然、「に」は完了　　イ「べき」は当然、「に」は断定

ウ「べき」は適当、「に」は完了　　エ「べき」は適当、「に」は断定

オ「べき」は禁止、「に」は完了　　カ「べき」は禁止、「に」は断定

③　傍線部ａ・ｂの「に」の文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

せむかたなくあはれにおぼえて、…
独(ひと)りはよにおはせじな。

（傍線部：a＝「せむかたなくあはれ**に**」の「に」、b＝「よ**に**」の「に」）

〈文法的説明〉
1　断定の助動詞の連用形　　2　接続助詞　　3　格助詞　　4　動詞の連用形活用語尾
5　完了の助動詞の連用形　　6　形容動詞の連用形活用語尾　　7　副詞の一部

ア　a＝1　b＝2　　イ　a＝5　b＝3　　ウ　a＝2　b＝5
エ　a＝6　b＝7　　オ　a＝3　b＝4　　カ　a＝4　b＝1
キ　a＝7　b＝6

④ 傍線部a〜cの「に」の説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

あやしがりて寄りて見るに[a]、…
ふるまへる姿も、文字遣ひなども、はるかに[b]まさりて聞こゆ。
親、あわてに[c]けり。

1 完了の助動詞「ぬ」の連用形　2 単純な接続を表す接続助詞　3 形容動詞の活用語尾

ア a＝1 b＝2 c＝3　イ a＝1 b＝3 c＝2
ウ a＝2 b＝1 c＝3　エ a＝2 b＝3 c＝1
オ a＝3 b＝1 c＝2　カ a＝3 b＝2 c＝1

⑤ 「古今の草子を御前に置かせたまひて、…」の傍線部と文法的に同じものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア あまたたびいふ声にぞおどろきて見れば、…
イ いと所せく、いかに覚ゆらむ。
ウ さらにかやうのすきずきしきわざ、…
エ 例のやうにては、にくげにさぶらはむ。
オ 今の翁（おきな）、まさにしなむや。

〈Memo〉

第18講　敬語の種類・敬語の補助動詞

PART1　種類・本動詞／補助動詞の違い・補助動詞

★敬語の種類＝「　　」語・「　　」語・「　　」語

★本動詞と補助動詞

○**補助動詞**の型

①「　　」＋V　　（例）書き**奉る**

※形容詞・形容動詞＋VのVは、「あり」の意味の動詞

※用言＋助動詞＋Vもある。

（例）書かせ**給ふ**

②「　　」＋「　　」＋V　　（例）書きて**侍り**

③「　　」＋「（　　）」＋

「　　」の意味の動詞
おはす
おはします
侍り
候ふ

（例）女房に（て）**候ふ**

★それぞれの種類の補助動詞と訳

○　＝

給ふ（　　　）
おはす
おはします

（訳）「〜　」・「〜　」

○　＝

奉る
申す
聞こゆ
参らす
給ふ（　　　）

（訳）「（お）〜（し）」・「〜　」

○　＝

侍り
候ふ

（訳）「〜　」・「〜　」・「〜　」

問七　「心地し①はべるに、…」「～いかに見②たてまつり③たまはん」の傍線部①～③の敬語の種類を、それぞれ次の中から選べ。

a　尊敬語
b　謙譲語
c　丁寧語

①＝

②＝

③＝

〈Memo〉

第18講　PART1　確認問題

①　a・bの敬語の種類の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

おのれは水の尾の帝のおりおはします(a)年の正月のもちの日生まれて侍れば、十三代にあひ奉り(b)て侍るなり。

ア　aは尊敬語、bは丁寧語である。
イ　aは謙譲語、bは丁寧語である。
ウ　aは丁寧語、bは尊敬語である。
エ　aは尊敬語、bは謙譲語である。

②　傍線部a・bの説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

昔、二条の后の、まだ春宮(とうぐう)の御息所(みやすんどころ)と（人々が）申し(a)ける時、氏神にまうで給ひ(b)けるに、…

ア　aは尊敬の本動詞、bは謙譲の補助動詞である。
イ　aは謙譲の本動詞、bは尊敬の補助動詞である。
ウ　aは謙譲の補助動詞、bは尊敬の本動詞である。
エ　aは丁寧の補助動詞、bは謙譲の本動詞である。

③　a〜eのうち、尊敬語の補助動詞はどれとどれか。その組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

翁（おきな）答へて申す、「かぐや姫を養ひ [a]たてまつること二十余年に成りぬ。かた時とのたまふにあやしく成り [b]侍りぬ。また異所（ことどころ）に、かぐや姫と申す人ぞ [c]おはすらん。」と言ふ。「ここにおはするかぐや姫は、重き病をし [d]給へば、え出で [e]おはしますまじ。」と申せば、…

ア　aとc　　イ　bとd　　ウ　cとe　　エ　dとe

④　傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

薩摩守（さつまのかみ）のたまひけるは、「年ごろ（和歌の道について）申し承って後、おろかならぬ御事に思いまゐらせ候へども、…」

ア　なみ一通りな事ではなく思い申し上げておりましたが
イ　なみ一通りな事ではなく思いなさっておりましたが
ウ　なみ一通りな事ではなく思って参上しましたが
エ　なみ一通りな事ではなく思って参上しなさったが

⑤　「かの例（ためし）思ひ出でられ侍りしに、…」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　謙譲の本動詞で、「お仕えする」と訳す。
イ　謙譲の補助動詞で、「（お）〜（し）申し上げる」と訳す。
ウ　丁寧の本動詞で、「おります」と訳す。
エ　丁寧の補助動詞で、「〜ます」と訳す。

PART2　補助動詞　2つの給ふ

★補助動詞　2つの「給ふ」

「　　」語＝四段　ⓗ ⓗ ⓕ ⓕ へ へ

「　　」語＝下二段　へ へ （ふ） ふる ふれ （へよ）

※終止形と命令形の用例はほとんど見られない。

○「給へ」の場合→「　　」（＝活用形）確認。

（例）思ひ給へず

○「**謙譲**語の給ふ」の特徴

①「　　」・「　　」で使用。

②「　　」・「　　」・「　　」・「　　」にしか付かない。

③主語は「　　」。

④訳は「〜　　」・（「〜　　」）

⑤敬意の方向＝**聞き手**に対する敬意

問一　次の傍線部①〜④の「たまへ」のうち、敬語の種類の異なるものが一つだけある。その番号を答えなさい。

「〜なほたち返り紅葉もいかにと思ひ①たまへてなむ。旅寝もしつべき木のもとにこそ」とて、見出だし②たまへり。〈中略〉「さま変り③たまへらんさまを、いささか見せよ」と、少将の尼にのたまふ。「それをだに、契りしるしにせよ」と責め④たまへば、…

問二　「まかり出でて見給へむと思ひ給へしに、年はまかり老いにたり、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　(陽成院が)御覧になると思いましたが
2　(陽成院が)御覧になるはずがないと思いましたので
3　拝見しようと思いましたが
4　見るのを諦めようと思ったのですが
5　孫が姿を現すのを期待していたのですが

第18講　PART2　確認問題

① 「かしこを見たまへ(a)れば、…」「かしこを見たまへ(b)て、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　aは尊敬語で未然形、bは謙譲語で連体形である。
イ　aは謙譲語で未然形、bは尊敬語で已然形である。
ウ　aは尊敬語で已然形、bは謙譲語で連用形である。
エ　aは謙譲語で已然形、bは謙譲語で未然形である。

② 傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「あはれ、いと寒しや。今年こそなりはひにも頼むところすくなく、田舎(ゐなか)の通ひも思ひかけねば、いと心細けれ。北殿※こそ、聞きたまふや。」など言ひかはすも聞こゆ。

※北殿…北隣さん。北隣に住む人への敬称。

ア　「たまふ」は尊敬の補助動詞で、「お聞きになっていますか」という訳である。
イ　「たまふ」は尊敬の補助動詞で、「お聞きしていますか」という訳である。
ウ　「たまふ」は謙譲の補助動詞で、「お聞き申し上げていますか」という訳である。
エ　「たまふ」は謙譲の補助動詞で、「聞いていますか」という訳である。

③「（頭の中将）『…いかで尋ねむと思ひ給ふるを、…』とて、みな笑ひぬ。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア「思ひ」は名詞、「給ふる」は下二段活用の動詞である。
イ「思ひ」は動詞、「給ふ」は四段活用の補助動詞、「る」は自発の助動詞である。
ウ「思ひ」は名詞、「給ふ」は四段活用の動詞、「る」は完了の助動詞である。
エ「思ひ」は動詞、「給ふる」は下二段活用の補助動詞である。

④「『そこばくの神々集まりて、※ない給ふなりけりと見給へ※し。…』と語る。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

※ない…「なし（成し）」のイ音便　※「し」…過去の助動詞「き」の連体形

ア　成しなさるのだなあと、見なさった。
イ　成しなさるのだなあと、見ておりました。
ウ　成しますのだなあと、拝見した。
エ　成しますのだなあと、見ていらっしゃった。

⑤　ア〜エのうち、一つだけ敬語の種類の異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「かれ聞きたまへ。この世とのみは思はざりけり。」と、…

イ　壁の中の蟋蟀（きりぎりす）だに間遠（まどほ）に聞きならひたまへる御耳に、…

ウ　「いとかく思ひたまへましかば。」と、息も絶えつつ、…

エ　やがて別るべき門出にもやと、いみじうおぼえたまへば、…

〈Memo〉

第19講　敬語の本動詞・敬意の方向

PART1　敬語の本動詞

○「覚えておくべき**尊敬語**」（**太字**の敬語動詞は**最高敬語**）

敬語動詞	訳	通常語
あそばす	なさる	す
います	いらっしゃる	あり・居り・行く・来
いまそがり		
おはす		
おはします		
ます		
まします		
仰す	おっしゃる	言ふ
のたまふ		
のたまはす		
思す	お思いになる	思ふ
思ほす		
思しめす		
大殿ごもる	おやすみになる	寝
聞こす	お聞きになる	聞く
聞こしめす		

敬語動詞	訳	通常語
御覧ず	ご覧になる	見る
給ふ	お与えになる	与ふ
たぶ		
たまはす		
しろしめす	お治めになる	治む
	知っていらっしゃる	知る
召す（※食(を)す）	御覧になる	見る
	※お治めになる	治む
	お呼びになる	呼ぶ
	※召しあがる	食ふ・飲む
	※お召しになる	着る
	お乗りになる	乗る
参る 奉る	お召しになる	着る
	召しあがる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

○「覚えておくべき**謙譲語**」

敬語動詞	訳	通常語
承る	うかがう	聞く
聞こゆ	申し上げる	言ふ
聞こえさす		
申す		
奏す	**天皇・上皇に**申し上げる	
啓す	**中宮・東宮に**申し上げる	
奉る	差し上げる	与ふ
参る		
参らす		
賜る（たまはる）	いただく	受く
参る	参上する	行く・来
まうづ		
まかる	退出する	行く・来
まかづ		

敬語動詞	訳	通常語
つかまつる	お仕えする	仕ふ
つかうまつる		
侍り		
候ふ		

○「覚えておくべき**丁寧語**」

敬語動詞	訳	通常語
侍り	ありますおります	あり・居り
候ふ		

問三　「いますかり」の文法上の説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

1　尊敬の助動詞　　2　謙譲の助動詞　　3　丁寧の助動詞
4　尊敬の動詞　　5　謙譲の動詞　　6　丁寧の動詞

問四　「あな苦しと思して、…」の傍線部のよみがなを記せ。

問五　「とどめ奉り（ア）」「思し（イ）」は、どの種類の敬語か。最も適当と思われるものを、それぞれ次の中から選べ。

1　尊敬語　　2　謙譲語　　3　丁寧語

ア＝　　イ＝

問六　「大殿籠るとて、…」の傍線部の現代語訳を七字以内で記せ。

問七　「天道もこれをぞ恵み給ふらん」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　名詞＋尊敬の四段活用動詞の連体形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の連体形
イ　名詞＋謙譲の下二段活用動詞の終止形＋現在推量の助動詞の終止形
ウ　マ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の終止形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の終止形
エ　マ行四段活用動詞の連用形＋尊敬の補助動詞の終止形＋現在推量の助動詞の連体形
オ　マ行四段活用動詞の連用形＋謙譲の補助動詞の終止形＋完了の助動詞の未然形＋推量の助動詞の連体形

第19講　PART1　確認問題

①　ア～エの中で文法的説明に誤りがあるものを、次の中から選べ。

ア「おほす」は「言ふ」の尊敬語で、「おっしゃる」と訳す。
イ「つかうまつる」は「仕ふ」の謙譲語で、「お仕えする」と訳す。
ウ「たまはる」は「与ふ」の尊敬語で、「お与えになる」と訳す。
エ「まかる」は「行く・来」の謙譲語で、「退出する」と訳す。

②　「『これになにを書かまし。…』などのたまはせしを、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ご覧になった　　イ　おっしゃった　　ウ　お与えになった　　エ　いらっしゃった

③　傍線部a・bの説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ただ今の関白殿、三位（さんみ）の中将と聞こえ（a）ける時、…
笑ひののしるを、うへにも聞こしめし（b）て、…

ア　aは謙譲語で「申し上げる」という意味、bは尊敬語で「お聞きになる」という意味である。
イ　aは尊敬語で「お聞きになる」という意味、bは謙譲語で「お聞き申し上げる」という意味である。
ウ　aは謙譲語で「お聞き申し上げる」という意味、bは尊敬語で「お聞きになる」という意味である。
エ　aは尊敬語で「いらっしゃる」という意味、bは謙譲語で「お聞き申し上げる」という意味である。

④　傍線部「参らす」の敬語の種類・現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

中将、人々引き具して帰りまゐりて、かぐや姫をえ戦ひ止めず成りぬる事、こまごまと奏す。薬の壺に御文そへ、参らす。

ア　尊敬語・お乗りになる　　イ　謙譲語・参上する
ウ　尊敬語・いらっしゃる　　エ　謙譲語・差し上げる

⑤　傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

よその君だちは、便なき事をも奏してけるかなと思ふ。

ア　つまらないことを中宮に申し上げてしまったなあ
イ　つまらないことを中宮におっしゃってしまったなあ
ウ　つまらないことを天皇に申し上げてしまったなあ
エ　つまらないことを天皇にお聞きになってしまったなあ

〈Memo〉

PART2　２種類持つ敬語

★『２種類ある敬語本動詞』

○「覚えておくべき**尊敬語**」

敬語動詞	訳	通常語
参る 奉る	お召しになる	着る
	召しあがる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

○「覚えておくべき**謙譲語**」

敬語動詞	訳	通常語
奉る （参る）	差し上げる （参上する）	与ふ （行く・来）
侍り 候ふ	お仕えする	仕ふ

○「覚えておくべき**丁寧語**」

敬語動詞	訳	通常語
侍り 候ふ	あります・おります	あり・居り

●本動詞の「奉る」と「参る」→「　　」か「　　」。

「　　」｛「　　」お召しになる / 「　　」召しあがる / 「　　」お乗りになる｝

「　　」＝「　　」「　　（「参る」のみ）」

〈例題一〉　次の傍線部を現代語訳せよ。

① 簾すこしあげて、花奉るめり。

② 右大弁の子のやうに思はせて率て奉る。

③ ほかにて酒など参り、酔ひて…。

●本動詞の「侍り」と「候ふ」→「　　」か「　　」。

「　」＝あります・おります

「　」＝「　　」

※ 貴人に／貴人がいる場所に ＋ 侍り／候ふ ＝「　　」の本動詞

問八 傍線部「侍りて」の意味として最適なものを、次のア〜オから選べ。

「悦[※1]は、近衛殿（このゑどの）[※2]（応山公）に<u>侍りて</u>、筆法を学び奉りけり。」

※1 悦＝本阿弥光悦（こうえつ）。安土桃山時代から江戸時代初期の書家・工芸家。

※2 近衛殿＝江戸時代初期の公家・近衛信尋（のぶひろ）。後陽成（ごようぜい）天皇の皇子で、近衛家を継ぎ関白となる。優れた書を残す。

ア 取り入って　イ 警護を任されて　ウ 気に入られて

エ お仕えして　オ 期待されて

〈Memo〉

第19講　PART2　確認問題

① 傍線部「奉れ」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

后（きさい）の宮、…御車の※しりより、奉れる御単衣（ひとへ）の御衣（おんぞ）をかづけさせ給へりけり。

※しり…後ろ

ア　「奉れ」は尊敬の本動詞で、「お乗りになっている」という現代語訳になる。
イ　「奉れ」は謙譲の本動詞で、「差し上げた」という現代語訳になる。
ウ　「奉れ」は尊敬の本動詞で、「お召しになっている」という現代語訳になる。
エ　「奉れ」は謙譲の本動詞で、「いただいた」という現代語訳になる。

② 傍線部「参り」は、この場合どのような意味に使われているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

久世（くぜ）の鳥、交野（かたの）の鳥の味はひ、参り知りたりき。

ア　お召しになる　　イ　召しあがる　　ウ　お乗りになる　　エ　差し上げる

③ 傍線部の敬語の種類・通常語として最も適当なものを、次の中から選べ。

内へ参り給ふとて、御車に奉り給ひければ、…

ア 尊敬語・着る　イ 尊敬語・乗る　ウ 謙譲語・行く　エ 謙譲語・与ふ

④ 傍線部「奉り」は、この場合どのような意味に使われているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

それうせたまひて、安祥寺(あんじやじ)にて※みわざしけり。人々捧(ささ)げもの奉りけり。

※みわざ…御法事

ア お召しになる　イ 召しあがる　ウ いただく　エ 差し上げる

⑤ 傍線部a・bの説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「また使来たりて、『直垂(ひたたれ)などの a候はぬにや。…』とありしかば、…」

「よき人の御前(おまへ)に、人々あまた b候ふをり、…」

ア aは丁寧語で「あります」という意味、bは謙譲語で「お仕えする」という意味である。

イ aは謙譲語で「お仕えする」という意味、bは丁寧語で「おります」という意味である。

ウ aは丁寧語で「おります」という意味、bは謙譲語で「申し上げる」という意味である。

エ aは謙譲語で「差し上げる」という意味、bは丁寧語で「あります」という意味である。

PART3　敬意の方向

●「誰から」→敬語の「　　　」確認。

○地の文＝「　　　」から。

○会話文＝「　　　」から。

●「誰へ」→敬語の「　　　」確認。

○　尊敬語＝　主体（～・　　）へ

○　謙譲語＝　客体（～・　　）へ

○　丁寧語→敬語の「　　　」確認。

地の文＝「　　　」へ
会話文＝「　　　」へ

★敬語の重なる順番＝

問九　「かの人（＝玉鬘）を、いとめでたし劣らじと見たてまつりしかど、…」の波線部は誰に対する敬意か、答えよ。

問十　次のａ・ｂは誰に対する敬意を表しているか答えよ。

「蔵人の少将が、まづ召す[a]」と言ふめれば、…

（蔵人の少将が）三の君に「これ（＝手紙）見給へ。惟成が落としたりつるぞ」とて奉り[b]給ふ。

ａ＝　　　　　　ｂ＝

問十一　傍線部の説明として最も適当なものを次の中から選べ。

世の中もひさしく見てはべれば、昔より移りまかる道理もあはれにおぼえて、神の御代は知らず、人代となりて神武天皇の御後、百王と聞ゆる、…（以下略）

1　神への敬意を表す謙譲語　　2　神への敬意を表す丁寧語
3　神武天皇への敬意を表す謙譲語　　4　神武天皇への敬意を表す丁寧語
5　読者への敬意を表す謙譲語　　6　読者への敬意を表す丁寧語

問十二　左の文は、「奏せよ」について説明したものである。空欄[Ⅰ]～[Ⅲ]に入れるのに適当な語を、次の語群から選べ。

「奏せよ」はサ変動詞「奏す」の[Ⅰ]で、「奏す」は「言ふ」の[Ⅱ]である。またこの語は[Ⅲ]または上皇・法皇に対する敬意を表す語である。

Ⅰ　ア　終止形　　イ　已然形　　ウ　命令形
Ⅱ　ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語
Ⅲ　ア　天皇　　イ　皇后　　ウ　皇太子

〈Memo〉

第19講　PART3　確認問題

①　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

むかし、水無瀬(みなせ)にかよひ給ひし惟喬(これたか)の親王(みこ)、例の狩しにおはします供に、馬の頭(かみ)なる翁(おきな)<u>つかうまつれり</u>。

ア　惟喬の親王への敬意を表す尊敬語　　イ　翁への敬意を表す尊敬語
ウ　惟喬の親王への敬意を表す謙譲語　　エ　翁への敬意を表す謙譲語

②　傍線部は誰から誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

相人※、（明雲座主(めいうんざす)に）「まことにその相<u>おはします</u>。」と申す。

※相人…人相見

ア　相人から明雲座主に対する敬意　　イ　相人から読者に対する敬意
ウ　作者から明雲座主に対する敬意　　エ　作者から読者に対する敬意

③　傍線部ア～エの中には、敬意の方向が他と異なるものが一つ含まれている。その語として最も適当なものを、次の中から選べ。

薩摩守（さつまのかみ）（＝忠度（ただのり））馬よりおり、みづから高らかに（三位殿に）のたまひける（ア）は、「別（べち）の子細候（イ）はず、三位殿に申す（ウ）べき事あつて、忠度が帰り参つて候。門を開かれずとも、このきはまで立ち寄らせたまへ（エ）。」と、…

④　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

さりとてあるべきならねば、（伊周（これちか）は道長のもとへ）参り給へり。

ア　「参り」は伊周への敬意を表す尊敬語、「給へ」は道長への敬意を表す謙譲語である。
イ　「参り」は道長への敬意を表す謙譲語、「給へ」は伊周への敬意を表す尊敬語である。
ウ　「参り」は伊周への敬意を表す丁寧語、「給へ」は道長への敬意を表す尊敬語である。
エ　「参り」は道長への敬意を表す謙譲語、「給へ」は読み手への敬意を表す丁寧語である。

⑤　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

（中宮が）「さて、なにごとぞ」とのたまはすれば、（生昌（なりまさ）が）申しつることを、さなむと啓すれば、…

ア　「言ふ」の尊敬語で、作者から中宮に対する敬意を表す。
イ　「言ふ」の尊敬語で、生昌から中宮に対する敬意を表す。
ウ　「言ふ」の謙譲語で、作者から中宮に対する敬意を表す。
エ　「言ふ」の謙譲語で、生昌から中宮に対する敬意を表す。

解答

第２講　ＰＡＲＴ１　解答

〔例題一〕　ワ行上一段活用

第２講　PART２　解答

問一　e

問二　e

問三　捕らふ・c・カ

問四　エ

問五　A　１オ　２ア　３エ　B　１ウ　２オ　３イ

第２講　ＰＡＲＴ３　解答

問六　a　⑩　b　⑨　c　⑧　d　③　e　⑦

問七　a　ヤ行上二段活用・連用形　b　ハ行四段活用・未然形

問八　イ

第３講　PART2　解答

問一　5

問二　①　なし・h・イ　　②　あやしげなり・f・エ

問三　オ

第４講　PART３　解答

問四　こ

問五　ざり

問六　A＝ヤ行・下二段活用・未然形　　B＝マ行・上一段活用・連用形

問七　ハ行・四段活用・終止形

問八　すくなかるべけれ

問九　①

第５講　PART1　解答

問一　ず
問二　しか
問三　詠嘆

第５講　PART2　解答

〔例題一〕①　強意　②　完了　③　完了　④　強意　⑤　強意

問四　a　オ　b　エ

問五　①　キ　②　ウ

第６講　ＰＡＲＴ１　解答

問六　ア　完了の助動詞「ぬ」の命令形　／　イ　打消の助動詞「ず」の已然形

問七　ア

問八　④

第７講　PART1　解答

問一　Ⅰ　ア　Ⅱ　ウ

第７講　PART２　解答

〔例題一〕①　自発　②　尊敬　③　可能　④　受身

問二　イ　①　ロ　⑤

問三　①

問四　ぬ…「ず」・打消　／　し…「き」・過去　／　られ…「らる」・自発

第7講　PART3　解答

問五　a　り　b　る

問六　5

問七　④

問八　1

第８講　PART1　解答

〔例題二〕　①　尊敬　②　使役　③　使役　④　尊敬　⑤　使役

問九　２

問十　５

第８講　ＰＡＲＴ２　解答

〔例題三〕　①　エ　②　ア　③　ウ　④　ア

問十一　き

第９講　PART1　解答

〔例題一〕　書こうかしら

問一　c

問二　d

第９講　ＰＡＲＴ２　解答

問三　イ

第10講　PART2　解答

〔例題二〕　①　意志　②　推量　③　婉曲　④　推量　⑤　仮定　⑥　適当（勧誘）

問四　4

問五　ア

第10講　PART3　解答

問六　5

第11講　PART1　解答

〔例題一〕　①　現在原因推量　②　現在推量　③　現在推量　④　過去原因推量

問一　10

問二　イ

問三　A　らむ　B　けむ

第11講　PART2　解答

〔例題二〕①ウ　②ア　③ウ　④ウ　⑤イ

問四　ア３　イ２

問五　1

問六　ロ

第11講　ＰＡＲＴ３　解答

〔例題三〕　①　推量　②　適当　③　打消意志　④　当然　⑤　禁止　⑥　命令

問七　2

第12講　PART1　解答

〔例題一〕　①　断定　②　存在　③　（伝聞・）推定　④　断定

問一　ロ

第12講　PART2　解答

問二　D

問三　(1) A　(2) C

第12講　PART4　解答

問四　ニ　断定　　ホ　断定
問五　D
問六　ウ
問七　a　1　　b　4
問八　ホ
問九　A　⑥　　B　②
問十　5

第13講　PART1　解答

〔例題一〕　①　し…き　②　まほしけれ…まほし　③　ける…けり　④　れ…り

問一　ウ

問二　ウ

問三　①

問四　3

第13講　PART２　解答

問五　イ

問六　１　イ　２　ホ　３　ト

問七　４

問八　風邪などをひきなさったら大変だ

第14講　PART２　解答

〈例題二〉①エ　②イ　③オ　④ア　⑤ウ

問九　イ

問十　①ア　②イ　③ウ　④イ

第14講　PART3　解答

〔例題三〕　①　ウ　②　ア　③　イ

第15講　PART1　解答

問一　ニ
問二　イ
問三　3
問四　1

第15講　PART2　解答

〔例題一〕①ア　②エ　③イ　④ウ

問五　エ

問六　イ

問七　1

第15講　PART3　解答

問八　A

第15講　PART4　解答

問九　ニ（イは動詞「施（ほどこ）す」の連用形「ほどこし」の一部、ロは格助詞「して」の一部、ハは副詞「はたして」の一部、ホは形容詞「なし」の一部。）

第16講 PART1 解答

問一　イ

問二　5

問三　x な　y そ

問四　a オ　b イ　c エ　d オ

第16講　PART2　解答

〔例題一〕①　ウ　②　ア　③　イ

第16講　PART3　解答

問五　エ
問六　イ　⑦　ロ　⑤　ハ　⑤
問七　カ
問八　エ

第17講　PART1　解答

問九　な
問十　4
問十一　イ
問十二　2
問十三　ア
問十四　へ
問十五　2

第17講　PART4　解答

問一　イ

問二　6

問三　a　1　b　5

問四　a　イ　b　オ　c　ウ　d　エ　e　ア

問五　4

問六　ホ

第18講　PART1　解答

問七　① c　② b　③ a

第18講　PART2　解答

問一　①

問二　3

第19講　PART1　解答

問三　4

問四　おぼ

問五　ア　2　　イ　1

問六　お休みになる（六字）

問七　エ

第19講　PART2　解答

〔例題一〕　①　差し上げる　②　（お）～申し上げる　③　お飲みになり（召しあがり）

問八　エ

第19講　PART3　解答

問九　玉鬘
問十　ａ　蔵人の少将　　ｂ　三の君
問十一　6
問十二　Ⅰ　ウ　　Ⅱ　イ　　Ⅲ　ア

確認問題　解答

第1講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① ア行の「い」、語頭以外のハ行の「ひ」、ワ行の「ゐ」の３つが、現代仮名づかいに直した場合「い」となる。「かはづ」の部分は、語頭以外のハ行をワ行に直すこと、「ぢ・づ」は「じ・ず」と直すことから考え、「かわず」となる。

② ワ行の「ゑ」は「え」と直す。「すえ（末）＋ひろがり（広がり）」という複合語であり、「ひ」は語頭となるため、ハ行のままとなる。

③ 「ほほゑむ」という動作を表すので、ワ行の「ゑ」のみ「え」と直し、「ほほ」の部分はそのままとする。

④ 活用形は、用言の直後の語を見て考える。「取るもの」と体言に続いているので、ａは連体形。また、「つかず」と打消の語に続いているので、ｂは未然形である。

⑤ 「行くと」と言い切る基本形の直後に引用を表す語が続いているので、ａは終止形。また、ｂは「言へども」と「ど・ども」などに続いている形は、已然形となる。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ イ　④ オ　⑤ エ

第２講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「蹴る」は下一段活用の動詞である。下一段活用の動詞は「エ（e）」の一つの段のみで活用し、「蹴る」の一語のみが該当する。下二段活用の動詞は「ウ（u）・エ（e）」の二つの段で活用し、全ての行に存在する、数の多い活用の種類である。

② 「死ぬ」は「な・に・ぬ・ね」の四つの段で活用するが、四段活用と異なり連体形が「ぬる」、已然形が「ぬれ」という形となる、変則的な活用をする変格活用の動詞である。ナ行変格活用の動詞は、「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の三語のみとなる。

③ 「あり」は「ら・り・る・れ」の四つの段で活用するが、四段活用と異なり終止形がウ段ではなくイ段の「り」で言い切る形となる、変則的な活用をする変格活用の動詞である。ラ行変格活用の動詞は、「あり」・「居り」・「侍り」・「いまそかり」の四語のみとなる。

④ 活用の行に注意して覚えておく必要のある動詞である。Ａの「ワ行下二段活用」となる動詞は「据う」・「植う」・「飢う」の三語のみ、Ｂの「ヤ行上二段活用」となる動詞は「老ゆ」・「悔ゆ」・「報ゆ」の三語のみとなるので、覚えておくとよい。

⑤ 活用の行に注意して覚えておく必要のある動詞である。「上一段活用」の動詞は数が少なく、「ひ・い・き・に・み・ゐ」＋「る」となる動詞、と覚えておくとよい。Ａは「ゐ（ワ行）＋る」の形で「率る」、Ｂは「い（ヤ行）＋る」の形で「射る」。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ イ　④ エ　⑤ エ

第２講　PART２　確認問題　解答

〔解説〕

① 「燃(も)ゆ」は語幹が「燃(も)」、活用語尾が「ゆ」の部分となり、「(燃(も))え・え・ゆ・ゆる・ゆれ・えよ」と活用するヤ行下二段活用の動詞である。

② 「居(ゐ)る」は語幹と活用語尾の区別のない動詞であり、「ゐ・ゐ・ゐる・ゐる・ゐれ・ゐよ」と活用するワ行上一段活用の動詞である。似ている動詞として「居(を)り」があるが、こちらは語幹が「居(を)」、活用語尾が「り」の部分となるラ行変格活用の動詞なので、間違えないようにする。

③ 「心得(こころえ)」の基本形は「心得(こころう)」であり、「得(う)」・「所得(ところう)」と並ぶ「ア行下二段活用」の動詞である。ア行の下二段活用となる動詞はこの三種類のみなので、覚えておくとよい。また、動詞の下に、連体形の状態ではあるが助動詞「たり」が続いていることから、活用形は「連用形」となる。

④ 「見(み)え」の基本形は「見(み)ゆ」であり、「覚(おぼ)ゆ」などと並ぶ「ヤ行下二段活用」の動詞である。また、動詞の下に接続助詞「て」が続いていることから、活用形は「連用形」となる。

⑤ 「ない」をつけると「酔(ゑ)はない」となるので、「酔(ゑ)ふ」が基本形となる「ハ行四段活用」の動詞である。四段活用の動詞の場合、「酔(ゑ)ひ（イ段）」となる活用形は「連用形」である。

〔解答〕

①　オ　②　ウ　③　エ　④　エ　⑤　イ

第２講　PART３　確認問題　解答

〈解説〉

① 「被く」は同じ語形で活用の種類が二種類ある動詞である。Aは連用形が「かづき」とイ段になっているので四段活用であり、「かぶる・褒美をいただく」という意味となる。Bは連用形が「かづけ」とエ段となっているので下二段活用であり、「かぶせる・褒美を与える」という意味となる。

② 「頼む」は同じ語形で活用の種類が二種類ある動詞である。Aは未然形が「頼め」とエ段になっているので下二段活用であり、「頼みに思わせる・あてにさせる」という意味となる。Bは連用形が「頼み」とイ段となっているので四段活用であり、「頼みにする・あてにする」という意味となる。

③ 「慰む」は同じ語形で活用の種類が二種類ある動詞である。Aは連用形が「慰み」とイ段になっているので四段活用であり、「心が晴れる」という意味となる。Bは連用形が「慰め」とエ段となっているので下二段活用であり、「（心を晴れさせる→）慰める」という意味となる。

④ 「入る」は同じ語形で活用の種類が二種類ある動詞である。四段活用の場合、そのままの意味（「はいる」）で訳し、下二段活用の場合、四段の意味に「させる」という意味を付け加えて（「はいらせる→入れる」）と訳す。

⑤ 終止形が一文字の動詞には、「来」（カ行変格活用）・「す」（サ行変格活用）・「得」「寝」「経」（下二段活用）などがある。「覚ゆれば」は、「覚ゆ」という下二段活用の動詞の「已然形＋ば」の形である。

〔解答〕

①　ア

②　ア

③　ウ

④　エ

⑤　イ

第3講　PART1 確認問題　解答

〔解説〕

① 傍線部の下は、時間や程度を示す名詞「ほど」である。体言に接続するので、活用形は連体形である。よって、イが正解。

② 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。「AをBみ」＝「AがBなので」。よって、アが正解。

③ 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。「あな（「あら」もしくは「単独」）、語幹。」＝「ああ、～ことよ。」である。よって、エが正解。

④ 傍線部の下は、カ行四段活用動詞「鳴く」であるので、活用形は連用形である。よって、イが正解。

⑤ 空欄の下は、名詞「便（びん）」である。体言に接続するので、活用形は連体形である。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② ア　③ エ　④ イ　⑤ ウ

第3講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。「AをBみ」＝「AがBなので」。よって、アが正解。

② 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。「AをBみ」＝「AがBなので」。よって、ウが正解。

③ 形容詞は性質や状態を表す。「黒き」はク活用・連体形。「白き」はク活用・連体形。「見苦しく」はシク活用・連用形。よって、アが正解。

④ 形容詞は性質や状態を表す。「なめき」はク活用・連体形。「にくけれ」はク活用・已然形。係り結びに注意。「にくき」はク活用・連体形。「わろき」はク活用・連体形。よって、イが正解。

⑤ 「あはれなる」は形容動詞。基本形は「あはれなり」で、ナリ活用である。傍線部の上に「ぞ」があるので、係り結びが生じている。以上より、活用形は連体形である。よって、エが正解。

〔解答〕

① ア　② ウ　③ ア　④ イ　⑤ エ

第４講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 傍線部「ゆかしかり」は形容詞「ゆかし」でシク活用の連用形。「ゆかしかり」の下は「しか（已然形）」＝助動詞「き」。「き」の接続は連用形。よって、エが正解。

② 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。Aは「、」なので、連用形。さらに助動詞ではないので補助活用ではない。Bは「仮寝」＝体言なので、連体形。こちらも補助活用ではない。よって、アが正解。

③ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。傍線部「あら」の下は「ましか」＝助動詞「まし」。「まし」の接続は未然形。aは、下が「ざら」＝助動詞「ず」。「ず」の接続は未然形。bは、下が「まし」。「まし」の接続は未然形。cは、下が「り」。「り」の接続は四段活用の時は已然形。dは、下が「れ」＝助動詞「る」。「る」の接続は未然形。eは、下が「ぬ」＝助動詞「ず」。「ず」の接続は未然形。よって、活用の異なるものはcとなる。アが正解。

④ 「しか」は助動詞「き」。「き」の接続は連用形であることから、イが正解。

⑤ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。「まし」は助動詞「まし」で接続は未然形。「知る」はラ行四段活用動詞であるので、未然形は「知ら」となる。よって、イが正解。

〔解答〕

①　エ　　②　ア　　③　ア　　④　イ　　⑤　イ

第4講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。「べき」は助動詞「べし」で接続は終止形。「住む」はマ行四段活用動詞であり、終止形は「住む」。よって、ウが正解。

② 傍線部の下の「なる」は伝聞推定の助動詞「なり」で接続は終止形。傍線部「す」はサ行変格活用動詞の終止形。よって、エが正解。

③ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。「らむ」は助動詞「らむ」で接続は終止形または、ラ変型活用語には連体形。ここでは「ず」の連体形「ざる」が入る。よって、ウが正解。

④ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。傍線部は「ある／まじかり／ける」と品詞分解でき、まず「ける」は助動詞「けり」であり、連用形に接続する。よって「まじかり」は連用形である。また、「まじかり」は助動詞「まじ」。「まじ」は終止形または、ラ変型活用語には連体形に接続する。「ある」はラ行変格活用動詞「あり」の連体形。よって、アが正解。

⑤ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。傍線部の下はいずれも、終止形またはラ変型活用語には連体形に接続する助動詞。アは助動詞「べし」。ラ変型活用語なので傍線部の下の「めり」とは連体形で接続する。イはラ行四段活用動詞の終止形、ウはヤ行下二段活用動詞の終止形、エはラ行四段活用動詞の終止形。よって、アが正解。

〔解答〕

①　ウ

②　エ

③　ウ

④　ア

⑤　ア

第４講　PART３　確認問題　解答

〈解説〉

① カ変動詞「来」を読むためには、活用形がわかればよい。活用形は「下」を確認する。ａは、下が「べかり」＝助動詞「べし」。「べし」の接続は終止形。よって、「く」と読む。ｂは、下が助動詞「む」。接続は未然形。よって、「こ」と読む。ウが正解。

② 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。「たる」は助動詞「たり」で接続は連用形。「思す」はサ行四段活用動詞であるので、連用形は「思し」となる。よって、イが正解。

③ 空欄補充の問題は係助詞が絡んでいるものが多い。本設問では空欄が「。」の上なので、活用形を素直に考えれば「終止形」か「命令形」になるが、入試問題で活用形を考えるときに文末であれば、「係り結びの法則」が絡んでいることがほとんどである。よって、上をざっと見て「ぞ・なむ・や・か・こそ」のどれかがないかを確認してみると、本設問でもやはり「ぞ」がある。文末は連体形となる。選択肢の中で連体形になっているものはエのみ。よって、エが正解。

④ 「心得(こころう)」は覚えておくべき活用の動詞でア行下二段活用。活用形は、下が「べき」＝助動詞「べし」。「べし」の接続は終止形。よって、イが正解。

⑤ 文中に「ぞ・なむ・や・か・こそ」の有無を確認すると「こそ」があるので、「係り結びの法則」により結びの語は已然形となる。「侍り(はべり)」はラ行変格活用動詞であり、已然形は「侍れ(はべれ)」。よって、アが正解。

〔解答〕

①　ウ

②　イ

③　エ

④　イ

⑤　ア

第５講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「ば」に接続するのは未然形か已然形で、「しか」と活用するのは、助動詞「き」。よって、正解はカ。

②設問文は「なりけり」の「けり」なので詠嘆。選択肢イが和歌であることに着目する。よって、イが正解。

③空欄の後は、推量の助動詞「む（ん）」が続く。推量の助動詞「む（ん）」は未然形に接続するので、空欄の活用形は未然形である。よって、アが正解。

④傍線部の上に「ぞ・なむ・や・か・こそ」の有無を確認。「こそ」があるので、係り結びになっていることに注意。よって、オが正解。

⑤和歌中の「けり」は詠嘆（〜よ・〜なあ）である。よって、イが正解。アも詠嘆の訳だが、傍線部中に打消の表現がないことに注意する。

〔解答〕

①カ　②イ　③ア　④オ　⑤イ

第5講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

①　上が連用形で、「ぬる」と活用するのは、完了の助動詞「ぬ」の連体形。よって、エが正解。

②　完了の助動詞「つ」・「ぬ」＋「べし」＝確述用法。このとき、「つ」と「ぬ」は強意（きっと〜・必ず〜）になる。よって、アが正解。

③　完了の助動詞「つ」・「ぬ」＋「べし」＝確述用法。このとき、「つ」と「ぬ」は強意（きっと〜・必ず〜）になる。よって、イが正解。

④　傍線部の上は、ラ行四段動詞「おごる」の已然形。上が已然形で「る」と活用するのは、助動詞「り」。傍線部下は名詞「人」であるので、活用形は連体形である。よって、エが正解。

⑤　「たる」の上はタ行四段活用動詞の連用形。連用形に接続する助動詞「たり」は、完了（〜た）と存続（〜ている・〜てある）の意味。「紫がかっている雲」と状態が継続している様子を表すと、文意が通る。よって、アが正解。

〔解答〕

①　エ　②　ア　③　イ　④　エ　⑤　ア

第6講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 上に係助詞「こそ」があるので、「こそ～ね」の形。このときの「ね」は打消の助動詞「ず」の已然形。「ず」は未然形接続なので、上の「おぼえ」はヤ行下二段活用動詞「おぼゆ」の未然形。よって、アが正解。

② 傍線部の「ぬ」は、上にラ行四段活用動詞の連用形があり、下に終止形接続の助動詞「べし」があるので、完了の助動詞「ぬ」の終止形。選択肢の中で「ぬべし」の形をとるものはアかウだが、アはナ行変格活用動詞「死ぬ」の活用語尾。よって、ウが正解。

③ アは下に「と」があり上に係助詞はなく、マ行四段活用動詞の連用形に接続していることから完了の助動詞「ぬ」の終止形。イは上の「見え」が下二段活用であるため未然形か連用形か判断がつかない。ただし下に「に」があり、文末ではないので打消の助動詞「ず」の連体形とわかる。ウ・エはともに下が「。」で上に係助詞はなく、四段活用動詞の連用形に接続していることから完了の助動詞「ぬ」の終止形。よって、イが正解。

④ ⅰ 上がカ行四段活用動詞の未然形なので打消の助動詞「ず」。活用形は下に「。」があるが、上に係助詞「こそ」があるので已然形。

ⅱ 下に終止形接続の「べし」があるので活用形は終止形。終止形が「ぬ」となるのは完了の助動詞だが、下の「べし」は推量系なので、ここでは強意の意味ととるほうがよい。

よって、正解はア。

⑤　aは上にラ行変格活用動詞の未然形があり、「ねども」の形なので打消の助動詞「ず」の已然形。bは「去ぬ」なのでナ行変格活用動詞の終止形の活用語尾。cは下が「。」で上にラ行四段活用動詞の連用形があるので、完了の助動詞「ぬ」の終止形。dは「寝る」と訳せて下に連用形接続の助動詞「たり」があるので、ナ行下二段活用動詞「寝」の連用形。eは「死ぬ」なので、ナ行変格活用動詞の終止形の活用語尾。よって、エが正解。

〔解答〕

①　ア　②　ウ　③　イ　④　ア　⑤　エ

第７講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「らる」は「られ・られ・らる・らるる・らるれ・られよ」と活用するので、「らるれ」は已然形。よって、オが正解。

② 四段活用動詞「まぼる」の未然形「まぼら」に接続するので助動詞「る」を入れるべきだが、下に「たまふ」という動詞がつくので連用形の「れ」を入れるのが適当。よって、アが正解。

③ ア・イ・エは動詞の未然形に接続しているので助動詞「る」。ウの「隔つる」は下二段活用動詞「隔つ」の連体形なので、この「る」は助動詞ではなく動詞の一部。よって、ウが正解。

④ 助動詞「る」の連体形。上が「思ひ知ら」で心情語なので自発。よって、ウが正解。

⑤ 「君」は帝、天皇。貴人が主語で、「知る」の尊敬語「知ろしめす」についているので「れ」は尊敬。「知ろしめされさぶらはずや」は「ご存じではございませんか」と訳せる。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　オ　②　ア　③　ウ　④　ウ　⑤　ウ

第7講 PART2 確認問題 解答

〔解説〕

① 助動詞「る」は未然形に接続する。アは過去の助動詞「けり」の一部。ウは完了の助動詞「たり」の一部。エは上二段活用動詞の一部。イの傍線部の上はサ行四段活用動詞「おぼしめす」の未然形なので、助動詞「る」。よって、イが正解。

② 「見やら」は「遠くを眺める、その方向を見る」という意味の四段活用動詞「見やる」の未然形。「るる」は助動詞「る」の連体形。「も」は係助詞。よって、ウが正解。

③ 助動詞「る」の連用形。動詞「おしへさ」の主語は「二藍（ふたあゐ）・葡萄染（えびぞめ）などのさいで」である。受身の相手が示されていないが、「二藍・葡萄染などのさいで」が「草子」に押しつけられたと判断でき、「人に」と補うことができるので受身。よって、アが正解。

④ 助動詞「る」の未然形。打消表現を伴うと不可能を表すことが多い。下に打消の助動詞「ず」があり、「うとうとすることができない」と訳せるので可能。よって、エが正解。

⑤ 助動詞「らる」の連用形。「言ふ」の尊敬語「おほす」に付き、「殿」という貴人が主語なので尊敬。イは、「仰せ」という尊敬語に接続しているので尊敬。よって、イが正解。

〔解答〕

①　イ　②　ウ　③　ア　④　エ　⑤　イ

第7講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「すぐる」は打消の助動詞「ず」をつけてみると「すぐれず」となり、「ず」の時の直前がエ段音なので下二段活用動詞だとわかる。連体形「すぐるる」の「る」は動詞の一部である。よって、ウが正解。

② 文中に係助詞「ぞ」があるので、文末は係り結びで連体形になる。連体形が「る」になるのは、完了の助動詞「り」。「ら・り・り・る・れ・れ」と活用する。よって、アが正解。

③ 四段活用動詞「及ぶ」の未然形に接続しているので、助動詞「る」。文中に係助詞「こそ」があり、係り結びで已然形「ね」になっているのは打消の助動詞「ず」である。「及ぶことができない」と訳せるので、「る」は可能。よって、エが正解。

④ 四段活用動詞「もてかしづく」の已然形に接続しているので、完了の助動詞「り」。イは未然形に接続しているので助動詞「る」。ウは助動詞「けり」の一部。エは動詞の一部。アは、四段活用動詞の已然形に接続しているので、完了の「り」。よって、アが正解。

⑤ 四段活用動詞の未然形に接続しているので助動詞「る」。アは「参る」という動詞の一部。ウは推定の助動詞「めり」の一部。エは「さうざうし」という形容詞の一部。イは四段活用動詞の未然形に接続しているので助動詞「る」。よって、イが正解。

〔解答〕

①　ウ　②　ア　③　エ　④　ア　⑤　イ

第８講　PART１　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「す」の連用形。下が「奉る」で尊敬語ではないので使役。よって、ウが正解。

② 助動詞「さす」の連用形。下が「給ふ」で尊敬語であり、上に「人に」がないので尊敬。よって、アが正解。

③ 助動詞「す」の連用形。下に尊敬の「たまふ」があるが、上に「人」を「召しいでて」とあるので使役。よって、ウが正解。

④ 傍線部は助動詞「す」の終止形。下に尊敬語がないので使役。選択肢の中で下に尊敬語がないのはエのみ。よって、エが正解。

⑤ 「犯さしめ」はサ行四段活用動詞「犯す」の未然形＋助動詞「しむ」の連用形。「しむ」の下に尊敬語がないので使役で、「～させる」と訳す。よって、アが正解。

〔解答〕

①　ウ　　②　ア　　③　ウ　　④　エ　　⑤　ア

第８講　PART２　確認問題　解答

〔解説〕

① 上にラ行変格活用動詞「あり」の未然形があるので使役の助動詞の「す」。下に尊敬語がないので使役。よって、イが正解。

② 「船遊びをする」と訳せるのでサ行変格活用動詞の未然形。よって、アが正解。

③ 「せば～まし」の形の「せ」は過去の助動詞「き」の未然形。「なかり」は形容詞「なし」の連用形。よって、アが正解。

④ 傍線部は上にカ行四段活用動詞「つく」の未然形があり、下に尊敬語はないので使役の助動詞。選択肢の中で上に四段活用動詞の未然形があり、下に尊敬語がないのはエのみ。よって、エが正解。

⑤ ア・ウ・エは「する」と訳せるのでサ行変格活用動詞の未然形。イは上に四段活用動詞の未然形があり、下に尊敬語があるので尊敬の助動詞。よって、イが正解。

〔解答〕

① イ　② ア　③ ア　④ エ　⑤ イ

第9講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 上に「命あらば…」と仮定を表す表現があるので、「まし」は反実仮想の助動詞。また、「まし」は活用する語の未然形につくので、「見」はマ行上一段活用の未然形。よって、アが正解。

② 「おはしまさ」はサ行四段活用動詞「おはします」の未然形。「ましか」は反実仮想の助動詞「まし」の未然形。よって、ウが正解。

③ 「ましかば〜まし」という形になっているので、反実仮想とわかる。「おはせざらましかば」は「おはせ」＋「ざら」＋「ましか」＋「ば」なので、「いらっしゃらなければ」という意味。よって、エが正解。

④ 「いかに」とあるので、「まし」はためらいの意志とわかる。よって、「どうしたものだろうか」という意味になる。よって、エが正解。

⑤ 傍線部中の「まし」に注目。傍線部の上の「せば」に気づけたら、「AせばBまし」の反実仮想だとわかる。「秋の別れの深さを知っているだろうに」ということは、実際は今「知らない」ということ。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② ウ　③ エ　④ エ　⑤ ウ

第9講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

①「めり」は推定の助動詞。よって、オが正解。

②「まほしき」は、希望の助動詞「まほし」の連体形。よって、ウが正解。

③「ごとく」は、比況の助動詞「ごとし」の連用形。よって、ウが正解。

④「らし」は推定の助動詞。「桂であるにちがいない」という意味になる。よって、アが正解。

⑤「ありたけれ」は、動詞「あり」の連用形に、希望の助動詞「たし」の已然形がついたもの。「たし」は上に「こそ」があるため、係り結びで已然形になっている。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　オ　②　ウ　③　ウ　④　ア　⑤　ウ

第10講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「む・むず」が文中で使われており、下に体言が続く場合は、婉曲になることが多い。文中で使われており、下に助詞が続く場合は、仮定になることが多い。よって、アが正解。

② 文中の「む」なので、仮定か婉曲。下が体言でなく助詞なので、仮定から考える。選択肢に婉曲がないことからも、仮定と判断できる。よって、エが正解。

③ a文中の「む」なので、仮定か婉曲。下が体言なので、婉曲で見当をつける。b「と」の上の「む」は意志となることが多い。「秋風が吹くような折に来よう」と訳すと自然なので、a婉曲、b意志と判断できる。よって、エが正解。

④ 文末の「む」の意味は、文脈で判断する。目安として主語を確認するとよい。主語が「正直の人」で三人称なので、「む」は推量。よって、ウが正解。

⑤ 「こそ～め」の「め」、「てむ」の「む」、「なむ」の「む」は、適当・勧誘になることが多い。「翁の申し上げることは、お聞きになってくださいますか」という訳。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② エ　③ エ　④ ウ　⑤ ウ

第10講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 文末の「む」の意味は、文脈で判断する。目安として主語を確認するとよい。主語が「物語求め見する人」で三人称なので、「む」は推量。上に係助詞「か」があるので、連体形である。よって、アが正解。

② アは主語が「人々」で三人称なので推量。イは主語が「香炉峯（かうろほう）の雪」で三人称なので推量。ウは主語は示されていないが、「と」の上にあり、「しようとする」と訳すと自然なので意志。エは主語は示されていないが、「どのような文だろうと思うが」と訳すと自然なので推量。よって、ウが正解。

③ 「てむ」の「む」は適当・勧誘の意味であることが多い。選択肢に勧誘（～ませんか）で訳されたものはないので、適当（～するのがよい）。よって、イが正解。

④ 設問文の「む」は文中にあり、下に体言が続いているので、婉曲。アは主語が「末代」で三人称なので、推量。イは「と」に続いており、「～よう」と訳すと自然なので、意志。ウは文中にあり、下に体言が続いているので、婉曲。エは「なむ」の形で、「こっそり参りなさいませんか」と訳すと自然なので、勧誘。よって、ウが正解。

⑤ 現在推量の助動詞「らむ」は終止形（ウ段）に接続するので、イ・エは消去。助動詞「む」は未然形に接続する。また、下に体言「世」が続くことからも、「む」は婉曲。よって、アが正解。

〔解答〕

① ア

② ウ

③ イ

④ ウ

⑤ ア

第10講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「じ」の文法的意味は、主語が一人称の場合は打消意志（〜ないつもりだ）、主語がそれ以外の場合は打消推量（〜ないだろう）である。よって、ウが正解。

② 帝がかぐや姫に対して、「(私はあなたが離れることを) 許さないつもりだ」と言っている文脈である。主語が一人称なので、打消意志。引用の「と」に接続しているので、終止形。よって、イが正解。

③ 主語が「勝つべきいくさに負くること」で三人称なので、「じ」は打消推量。「よもあらじ」は「まさかないだろう」という意味。よって、エが正解。

④ a「そのをとこ」が、「(私は) 京にはいないつもりだ」と思っている文脈で、主語が一人称なので、打消意志。b主語が「月」で三人称なので、打消推量。よって、アが正解。

⑤ 主語が清少納言で一人称以外なので、「じ」は打消推量。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ エ　④ ア　⑤ ウ

第11講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「けむ」は、活用語の連用形に接続する。よって、アが正解。

②「らむ」が文末にあるので、現在推量か現在の原因推量。「御前の庭を掃く」＝「苦しきめを見る」なので、現状を見ながら発言していると考えられる。よって、「どうして〜ているのだろう」と現在の原因推量で訳しているものを選べばよい。

③傍線部「けめ」（＝「けむ」の已然形）は、時制が「過去」の助動詞なので、ウかエ。「けむ」に「詠嘆」の意味はない。よって、ウが正解。

④ａは係助詞「こそ」、ｂは係助詞「ぞ」をそれぞれ受けている。よって、ａは已然形「らめ」、ｂは連体形「らむ」があてはまる。

⑤イ・ウ・エは、文中にあるので「〜たとかいう」「たような」と訳す過去の伝聞婉曲の意味。アのみ、文の切れ目の直前にあるので、「〜ただろう」と訳す過去推量の意味。

〔解答〕

①ア　②イ　③ウ　④ウ　⑤ア

第11講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「らむ」がウ段についているので「らむ」で一語の現在推量の助動詞。「むず」については、打消の助動詞「ず」が未然形接続であること、推量の助動詞「む」に未然形は存在しないことから、「むず」で一語と考える。

② 推量の「むず」に現在推量の「らむ」が接続した場合は、推量と同様に「〜だろう」と訳せばよい。選択肢の中で、推量の意でとれるのはア。イは願望、ウは打消当然、エは過去＋詠嘆として解釈されている。

③ ａは直前「(給) へ」がｅ段音なので、完了の助動詞「り」＋推量の助動詞「む（＝ん)」。直後の「に」は連体形接続の格助詞なので、連体形。ｂは謙譲の本動詞「仕うまつる」の未然形「仕うまつら」の一部＋推量の助動詞の「む（＝ん)」。直後の「と」は引用の「と」なので終止形。ｃは直前の「(おは) す」がｕ段音なので、現在推量の助動詞「らむ（＝らん)」。直後の「人々」にかかっていくので連体形。

④ アは尊敬の本動詞「給はる」の未然形「給はら」の一部＋推量の助動詞「む（＝ん)」。イは形容詞「恋し」の未然形「恋しから」の一部＋推量の「む」。ウは「らむ」の直前が「(なら) す」でｕ段音であるため、これが現在推量の助動詞。エは「まばらに・まだらに」という意味の副詞「むらむら」の一部。

⑤ 「あやしからん」は形容詞「あやしから」の一部＋推量の「む」なので「みっともないだろう」、「見ゆらめ」は動詞「見ゆ」＋現在推量の助動詞「らむ」なので「見えているだろう」。この組み合わせで訳しているものを選ぶ。

〔解答〕

①　ウ

②　ア

③　エ

④　ウ

⑤　ア

第11講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「べし」は終止形接続なので、「候ふ」は終止形。ア・エは除外。助動詞「ん（＝む）」は未然形接続なので、「べし」は未然形。オは除外。係助詞「や」があることから、「ん（＝む）」は連体形。よって、ウが正解。

② 「いかが」という疑問語があるので、文末は連体形に活用させる。下に助動詞がないことから、補助活用ではない「べき」が正しい。よって、エが正解。

③ アは直後の過去の助動詞「ける」が連用形接続であるので、連用形。イは、まず詠嘆の助動詞「けり」が連用形接続であることから、「なり」は連用形だと判断できる。連用形が「なり」であるのは連体形接続の断定の助動詞の場合がほとんどであることから、直前の「まじ」は連体形であると考える。ウは体言「恥」にかかるので連体形。エは文末にあるものの、係助詞「なむ」を受けて、これも連体形に活用する。よって、アが正解。

④ aで「死ぬべし」と言っているのは「かぐや姫」なので、主語は一人称と考える。したがって意志。bは「すべきかたなき」と打消の文脈で用いられているので、可能。cは「人々」が書き手に「（あなたも）一見すべき」と言っているので、二人称と考え、当然の意で訳す。dは帝が「燃やすべきよし」を命令しているという文脈から、命令であると考える。eは主語は三人称（尼）ながら、「いつもと違って今日は…」と比較しているので適当。fは主語が「涙」で三人称なので、推量。よって、アが正解。

⑤ アは主語が「御恨み」なので三人称と考え、打消推量。イも三人称「一夜の宿かすもの」なので、打消推量。ウのみ副詞

「え」と呼応し「できそうにもない」と訳す、不可能の意味。よって、ウが正解。

〔解答〕

①ウ　②エ　③ア　④ア　⑤ウ

第12講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「なる」の上が「聞こゆ」。「聞こゆ」はヤ行下二段活用動詞なので、終止形である。よって、カが正解。

② 「なり」の上の「事」は体言。断定の助動詞「なり」は、体言・活用語の連体形に接続する。よって、ウが正解。

③ 接続する語に注目する。ａ「なる」は伝聞の助動詞「なり」。サ行変格活用動詞「す」の終止形に接続している。ｂ「なり」は断定の助動詞。こちらはサ行変格活用動詞「す」の連体形「する」に接続している。よって、ウが正解。

④ 断定の助動詞「なり」か伝聞の助動詞「なり」かを見分ける。「いふ」はハ行四段活用動詞の終止形もしくは連体形だが、この場合連体形に接続する断定の「なり」となる訳が選択肢には存在しない。よって、「いふ」は終止形で終止形に接続するのは伝聞の助動詞であるから、「～そうだ」などと訳しているものを選ぶ。

⑤ 問題文の「なる」は「鳴いているようだよ」という意味で、鹿の声を聴いていることから「推定」の意味ととる。ア、イ、ウは体言に接続しているので、断定の助動詞「なり」。エはサ行変格活用動詞「す」の終止形に接続しているので伝聞推定の助動詞。「開ける音がするようだ」と推定の意味をとる。よって、エが正解。

〔解答〕

① カ　② ウ　③ ウ　④ ア　⑤ エ

第12講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 断定の助動詞「なり」か伝聞の助動詞「なり」かを見分ける。「候ふ」はハ行四段活用動詞の終止形もしくは連体形だが、この場合連体形に接続する断定の「なり」となる訳が選択肢には存在しない。よって、「候ふ」は終止形で終止形に接続するのは伝聞の助動詞であるから、「〜と聞いている」などと訳しているものを選ぶ。

② アはラ行四段活用動詞「なる」の連用形、イは複合動詞「なりまさる」の一部、ウはラ行四段活用動詞の連体形。エの「なる」は体言に接続しているので、断定の助動詞「なり」の連体形。

③ 傍線部の上は形容詞「近し」の連用形。ア〜ウの助動詞は連用形には接続しないので不適。傍線部の「なり」はラ行四段活用動詞「なる」の連用形。

④ a は形容動詞ナリ活用「いかなり」の活用語尾。b は体言に接続しているので断定の助動詞。よって、イが正解。

⑤ 例文の傍線部「なり」は断定の助動詞で体言・活用語の連体形に接続する。ア、イは形容動詞の活用語尾、エはラ行四段活用動詞「なる」の未然形。ウは体言に接続しているので断定の助動詞。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② エ　③ エ　④ イ　⑤ ウ

第12講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「なる」の上の「あん」はラ行変格活用「あり」の連体形が音便化（撥音便）したもの。よってラ変型活用語の場合は連体形に接続する伝聞の助動詞「なり」となる。

② 断定の助動詞「なり」の連体形「なるなり」の撥音便「なんなり」（「ん」の無表記）。当然の助動詞「べし」の連体形に接続している。よって、エが正解。

③ 「ななり」は断定の助動詞「なり」の連体形と伝聞推定の助動詞「なり」からなる「なるなり」の撥音便「なんなり」（「ん」の無表記）。よって、ウが正解。

④ アは形容動詞「大きなり」の活用語尾。イ・ウは体言に接続、エは断定の助動詞「なり」と助動詞「けり」の連語の「なりけり」。よって、アが正解。

⑤ ａは活用語の連用形に接続する完了の助動詞「ぬ」の連用形。ｂは体言・活用語の連体形に接続する格助詞「に」。ｃは体言・活用語の連体形に接続する断定の助動詞「なり」の連用形。補助動詞「あり」「はべり」などが下にくることが多い。よって、イが正解。

〔解答〕

① オ　② エ　③ ウ　④ ア　⑤ イ

第12講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

① 「なり」の助動詞は、「断定」・「伝聞・推定」のどちらかである。傍線部の上の「つはもの」は体言であることから、体言と接続する断定の助動詞だとわかる。よって、エが正解。

② 伝聞の「なり」ということは、上が終止形（ラ変型は連体形）になっているものを探す。そうすると、ウ「うかがふ」が四段活用で、見た目だけでは終止形か連体形かは不明であるが、他の選択肢に終止形が明らかにないため、ウが正解になるのがわかる。ちなみに、アは動詞、イは「はかなげなる」で一語の形容動詞、エは「過ぐる」が「過ぐ」の連体形なので、断定。オは、「よれよれになる」という意味の動詞「萎（な）る」。

③ 「なめり」の形の「な」は断定の助動詞「なり」の連体形の撥音便（「ん」の無表記）。「めり」は推定の助動詞で終止形（ラ変型活用語は連体形）に接続する。傍線部の上の「あらぬ」は連体詞。よって、イが正解。

④ アは助詞に接続しているので断定の助動詞「なり」である。イは「美麗なり」、ウは「いかなり」の形容動詞の活用語尾。よって、アが正解。

⑤ 選択肢と文脈より、「なる」は動詞「食らふ」の終止形に接続している伝聞の助動詞。「～そうだ・～とかいう」という意味になる。よって、イが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ イ　④ ア　⑤ イ

第13講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 係助詞の種類によって「結びの語」を考える問題。係助詞「ぞ・なむ・や・か」は結びの部分が「連体形」、「こそ」は「已然形」となる。それぞれ結びの部分に当たる助動詞「けり」を、ふさわしい形にしたものを当てはめる。

② 係助詞の種類によって「結びの語の活用形」を考える問題。上の部分に係助詞「ぞ」があるので、係り結びの法則により、結びの語は連体形となる。

③ 係助詞「や・か」は「疑問（〜か）」と「反語（〜か、いや、〜ない）」の二つの意味を持つ。文脈上での判断や、後ろに答えがあるものは「疑問」、ないものは「反語」となる、という基準などで見極める。ここでは、後ろが「と思ひうたがひて」と疑問に思っている事を表す文脈となっているので、「疑問」の意味での使用となる。

④ 「やは・かは」は、文脈からの判断にはなるが、「反語」として用いられることが多い。

⑤ 「〜めや」・「〜めやも」は主に和歌で多用され、「反語」として用いられる。推量の助動詞「む」の已然形「め」に、係助詞「や・やも」がついた形の語である。

〔解答〕

① ウ　② エ　③ ア　④ エ　⑤ エ

第13講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 結びの省略の問題。断定の助動詞「なり」の連用形「に」が係助詞の上に来ている場合、動詞「あり」が省略されているので、それを補いながら訳す。「に＋ぞ・なむ」なら「ある」、「に＋や・か」なら「あらむ」、「に＋こそ」なら「あれ・あらめ」が省略されている。よって、イが正解。

② 結びの省略の問題。断定の助動詞「なり」の連用形「に」が係助詞の上に来ている場合、動詞「あり」が省略されているので、それを補いながら訳す。「に＋こそ」の形なので、「あらめ」が省略されていることがわかる。よって、エが正解。

③ 結びの省略の問題。ウは、係助詞「や」で文が終わっており、それを受ける動詞（ここでは「聞く」）が省略されている。よって、ウが正解。

④ 現代語訳に気をつける係助詞の使い方である、「逆接強調法」についての問題。「こそ…已然形、〜」というように、結びの後に読点がつき、下に文章が続いている場合、逆接の用法となり、「〜けれども」、「〜が」と訳す。よって、アが正解。

⑤ 現代語訳に気をつける係助詞の使い方である、「危惧の用法」についての問題。係助詞「ぞ・こそ」に「も」がつき、「もぞ・もこそ」の形で使われる場合、「〜したら困る・大変だ」という形に訳す。よって、イが正解。

〔解答〕

①　イ　②　エ　③　ウ　④　ア　⑤　イ

第14講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「竹の」は後に続く「中」という体言を修飾しているので、「の」は連体（修飾）格。よって、ウが正解。

②「が」の下に「なさぬ」と述語が続いていることから主格であるとわかる。「私が生んでいない子なので〜」と訳せることからも判断できる。よって、アが正解。

③「の」の下に「色ゆるされたる」という助動詞「たり」の連体形があることに着目する。この下に省略されているのは「の」の前にある「女」である。これを入れてみると、「の」の前後が同格とわかる。よって、ウが正解。

④二重傍線部の「の」の下に「恐ろしげなる」と形容動詞の連体形があることに着目する。この下に省略されているのは「の」の前にある「虫」である。これを入れてみると、「の」の前後が同格とわかる。したがって、この「の」は同格。アは主格「が」。イは「の」の下に、「いふかひなき」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言を入れて訳してみると、「男の童で、物怖じをせず、身分が低い男の童を召し寄せて…」とおかしくない。よって、イが正解。ウ、エは連体（修飾）格の「の」。

⑤イの「の」は、下にある連体形「たる」（助動詞「たり」）の下に、「の」の上の体言「叟（そう）（＝老人）」を補って、訳が下に続いていくので同格の「の」。他の選択肢は、全て連体（修飾）格。よって、イが正解。

〔解答〕

①　ウ　②　ア　③　ウ　④　イ　⑤　イ

第14講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 1は「昨日の」が下の「白紙」という体言を修飾しているので、連体格。2は「の」の下に係助詞の「は」があることから、「の」は「～のもの」を表す準体格とわかる。3は和歌中にあり、「～のように」と訳せるので連用格。4は下に「立ち寄る」と用言があり、「わび人（である自分が）とりわけ立ち寄る木」と訳せるので主格。5は下に「をかしげなる」と連体形があり、この下に「の」の前にある「男」を入れると「玉のように光り輝いている男の子で、非常にかわいらしい男の子」と訳せる。したがって、同格である。よって、イが正解。

② 「上の」は下にある「御ありさま」という体言を修飾している。したがって傍線部は連体格。アは「の」の下に「澄みわたれる」と連体形があることに着目する。「入り方」と「澄みわたれる」の下に「ころ」を入れると「月は沈もうとするころで、空は清く澄み渡っているころに」と訳せるので、同格。イは和歌中にあり、「鈴虫のように、声の限りを尽くして泣いても…」と訳せるので、連用格。ウは「このように忌みはばかられる身（の自分）が、おそばに付き申し上げるのも…」と訳せるので、主格。エは、「心にくきかぎりの」が下の「女房」という体言を修飾しているので、連体格。よって、エが正解。

③ 1の「もみじ葉の流れてとまる…」は「もみじの葉が流れて止まる…」、3の「手向くる神のあればこそ…」は「お供えをする神がいるので…」という意味になるので、どちらも主格の「の」である。2は「の」の下が「をかしげなる」と連体形になっている。この下に「童」が修飾されていると考えると、同格の「の」であるとわかる。4は、「花の」が下の「契り」という体言を修飾している。したがって連体格の「の」である。よって、アが正解。

④ アは「血が流れるまで…」、ウ・エは「世間の人が（自分を）見て思うだろうことが恥ずかしい」と訳せるので、主格の「の」

である。イは、「一生の」が下の「恥」という体言を修飾しているので連体格の「の」である。よって、イが正解。

⑤　１・３・４の「の」はいずれも主格の「の」で「～が」と訳せる。２は「男どもの」が下の「もと」という体言を修飾しているので、連体格の「の」である。よって、イが正解。

〔解答〕

①　イ　②　エ　③　ア　④　イ　⑤　イ

第14講　PART3　確認問題　解答

〈解説〉

① 「して」の上に「御随身（みずいじん）」・「舎人（とねり）」と人を表す言葉があり、下に「～させる」と訳せる言葉（「つかはす」）があることに着目する。「大将が……御随身や舎人に命じて取りに行かせる」と訳せるので、「して」は使役の対象を表すとわかる。よって、ウが正解。

② ア・ウ・エの「して」は格助詞の「して」。イはサ行変格活用動詞「心す」の連用形の活用語尾に接続助詞の「て」がついたもの。よって、イが正解。

③ 設問は「徒歩より」（＝徒歩で）なので手段の用法。選択肢から交通手段を探すとイのみ。よって、イが正解。

④ 「これほど申し上げることからも、ありふれた好意ではないことをお察しいただければ、どれほどうれしいことでしょう」という意味になる。よって、ウが正解。

⑤ イ・ウ・エは格助詞「にて」。アは断定の助動詞「なり」の連用形に接続助詞の「て」がついたもの。よって、アが正解。

〈解答〉

① ウ　② イ　③ イ　④ ウ　⑤ ア

第15講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① イのみ上が未然形なので順接の仮定条件。他は全て上が已然形なので順接の確定条件。よって、イが正解。

② 「強く」は形容詞「強し」の未然形か連用形だが、下に動詞があるので連用形。「なる」はラ行四段活用動詞「なる」の終止形か連体形だが、下にある接続助詞「とも」は終止形接続なので、ここでは終止形とわかる。接続助詞「とも」は逆接の仮定条件を表す。よって、アが正解。

③ 「見れ」はマ行上一段活用動詞の已然形。已然形に接続する「ば」は順接の確定条件。選択肢の中であてはまるのは「〜と」と訳しているウ。よって、ウが正解。

④ 「あしけれ」は形容詞「あし」の已然形。已然形に接続する「ば」は順接の確定条件。選択肢の中であてはまるのは「〜ので」と訳しているエ。よって、エが正解。

⑤ 接続助詞「ど」は逆接の確定条件。選択肢の中で逆接の確定条件を表すのはア。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② ア　③ ウ　④ エ　⑤ ア

第15講 PART2 確認問題 解答

〔解説〕

① 「で」は打消接続の接続助詞で「～ないで」と訳す。よって、イが正解。

② 「ながら」は名詞・副詞以外に付く場合は、逆接（～のに）か同時（～ながら）の意味。「おぼえ」（思い出す）と「いひ出でられぬ」（言い出せない）は逆の関係なので、ここでは逆接。よって、アが正解。

③ 接続助詞「ものを」は、文末に置かれて詠嘆の終助詞として「～のになあ」と訳す用法がある。よって、エが正解。

④ 「返し」はサ行四段活用動詞「返す」の連用形。「き」は過去の助動詞なのでその上の「て」は完了の助動詞「つ」の連用形。よって、エが正解。

⑤ アは下に助動詞がないので接続助詞。イ・エは下に助動詞があるので完了の助動詞。ウは下に助動詞はないが、「てば」の形なので完了の助動詞。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② ア　③ エ　④ エ　⑤ ア

第15講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 下に意志・願望・仮定・命令のいずれの表現もないので、類推で「～さえ」と訳す。よって、アが正解。

② 「だに」の下に助動詞「ん〔む〕」があり、「と」の上の「ん〔む〕」なので「意志」と考えられる。よって、この「だに」は限定用法。よって、ウが正解。

③ 「すら」は類推の副助詞で「～さえ」と訳す。よって、ウが正解。

④ 「～まで」という添加の意味を持つ副助詞は「さへ」。よって、ウが正解。

⑤ 「し」は省いても文意が通じることから強意の副助詞。「しも」の形であることからも判断できる。よって、エが正解。

〔解答〕

① ア　② ウ　③ ウ　④ ウ　⑤ エ

第15講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

①「し」の上が連用形。さらに下が体言。したがって、この「し」は過去の助動詞「き」の連体形。よって、ウが正解。

②「田舎わたらひ」は名詞。「し」は「する」と訳すことができること、下に連用形接続の過去の助動詞「ける〔けり〕」があることからサ行変格活用動詞の連用形。よって、アが正解。

③「なむ」は強意の係助詞。係り結びの法則で、文末は過去の助動詞「けり」の連体形になっている。「けり」は連用形接続なので「し」はサ行変格活用動詞の連用形。また、この「し」は物思いを「する」と訳せることからも判断できる。よって、アが正解。

④この「し」は省いても文意が通じるので強意の副助詞。選択肢の中で強意の副助詞はイ。よって、イが正解。

⑤アの一つ目は強意の副助詞、二つ目は形容詞「なし」の一部。イの一つ目はサ行変格活用動詞の連用形、二つ目は反実仮想の助動詞「まし」の一部。ウの一つ目は過去の助動詞「き」の連体形、二つ目は接続助詞「して」の一部。エは一つ目も二つ目も過去の助動詞「き」の連体形。よって、エが正解。

〔解答〕

①ウ　②ア　③ア　④イ　⑤エ

第16講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「禁止」を表す終助詞で、動詞「おとす」の上に副詞「な」があることから、「な～そ」の構文。よって、イが正解。

②「てしがな」は連用形に接続して、自己願望（～たい）を表す終助詞。よって、アが正解。

③「念押し」を表す終助詞は、「かし」。よって、エが正解。

④「もがな」は状態願望（～があればなあ・～がいればなあ・～であればなあ）を表す終助詞。よって、イが正解。

⑤「かも」は詠嘆を表す終助詞。よって、エが正解。

〔解答〕

①　イ　②　ア　③　エ　④　イ　⑤　エ

第16講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① ラ変「あり」の未然形＋「ばや」（文末）＝自己願望の終助詞。よって、エが正解。

② マ行上一段動詞「見」の未然形＋「ばや」（文末）＝自己願望の終助詞。終助詞「ばや」の意味は「〜たい」。よって、ウが正解。

③ ナ行下二段動詞「寝」の未然形＋接続助詞「ば」仮定条件＋係助詞「や」。よって、イが正解。

④ ナ行下二段動詞「寝」の已然形＋接続助詞「ば」確定条件＋係助詞「や」。よって、ウが正解。

⑤ 「ばや」の上と、用いられている場所に着目する。いずれも未然形接続であるが、アのみ文中に用いられている。未然形＋接続助詞「ば」仮定条件＋係助詞「や」。よって、アが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ イ　④ ウ　⑤ ア

第16講 PART3 確認問題　解答

〔解説〕

①　ラ行四段活用動詞の連用形＋なむ＝強意の助動詞＋推量の助動詞。よって、エが正解。

②　形容詞「良し」の連用形で、「良かり」なので形容詞の補助活用。したがって下に助動詞がつく。よって、オが正解。

③　「なむ」の上が助詞。活用形や活用語尾でないことから、強意の係助詞。よって、ウが正解。

④　ラ行四段活用動詞の未然形＋なむ＝他者願望の終助詞。よって、エが正解。

⑤　ラ変動詞の未然形＋なむ＝他者願望の終助詞。未然形に接続する「なむ」を探す。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　エ　②　オ　③　ウ　④　エ　⑤　ウ

第16講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

① ラ変「あり」の未然形＋なむ＝他者願望の終助詞「なむ」。よって、ウが正解。

② 問の「なむ」は、ナ変「死ぬ」の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」。アは終助詞、イは係助詞、エは強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」、ウはナ変「去(い)ぬ」の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」。よって、ウが正解。

③ タ行四段活用動詞「待つ」の未然形＋なむ＝他者願望の終助詞「なむ」。よって、アが正解。

④ ヤ行上一段動詞「射る」は、未然形と連用形が同じである。「と思ふ」と続くことから、「なむ」で一度文が終わっている。文末に用いるのは、他者願望の終助詞「なむ」。よって、ウが正解。

⑤「てなむ」＝接続助詞「て」＋係助詞「なむ」。よって、アが正解。

〔解答〕

①ウ　②ウ　③ア　④ウ　⑤ア

第17講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「さらに」が「見いでず」の「ず」＝打消と呼応して、「まったく〜ない」の全否定。さらに、「え」も「打消」と呼応して「〜できない」。両方がきちんと解釈できているのはア。よって、アが正解。

②「いさ」知らず＝「さあ、どうだかわからない」。よって、エが正解。

③「な」〜「そ」＝「〜するな（〜してくれるな）」という禁止を表す。よって、オが正解。

④「たえて」は「打消」と呼応して、「まったく〜ない」の全否定。よって、アが正解。

⑤「いかで（か）」は願望・意志（〜したい・しよう）を表す。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　ア　②　エ　③　オ　④　ア　⑤　ウ

第17講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

①「に」の上が、「往」であるのでナ変動詞「往ぬ」の連用形の活用語尾。よって、アが正解。

②ハ行四段活用動詞の連用形に接続しているので、完了の助動詞。同様に、「来」はカ行変格活用動詞の連用形。よって、エが正解。

③「に」の上は「だ」であり、「だに」は副助詞。よって、エが正解。

④「つれづれなり」とできるので、「つれづれに」は形容動詞。ア、ウ、エは副詞である。よって、イが正解。

⑤断定の「なり」は体言・連体形に接続する。ウとエに絞れるが、ウは「にこそ」の下に「あり」がある。よって、ウが正解。

〔解答〕

①ア　②エ　③エ　④イ　⑤ウ

第17講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「にや・にか（にこそ）」の下が「、」か「。」の場合は、「あらむ（あらめ）」が省略されている。アは「に」の下に「あら」があるので、「断定」の「に」と判断。よって、アが正解。

② 設問文の「ぬ」は、連用形に接続しているので「完了」の助動詞。選択肢アの「に」が、上が連用形（もしくは下に「けり」があり、上が「死」「去」「往」ではない）から「完了」。よって、アが正解。

③ 選択肢エは「往に」で一語のナ行変格活用動詞。他は連用形に接続する完了の助動詞。よって、エが正解。

④ サ行変格活用動詞の連体形に接続し、「抜こうとしたが、全く抜けない」と訳すことができる。「に」が逆接の働きをしているので、接続助詞。よって、ウが正解。

⑤ 「きよげなり」とできることから、「に」は形容動詞ナリ活用の活用語尾と判断。同様に探すと、「はるかに」は形容動詞。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② ア　③ エ　④ ウ　⑤ ウ

第17講　PART4　確認問題　解答

〈解説〉

① 「に」は、ラ行四段活用の連用形に接続しているので、「完了」の助動詞。よって、イが正解。

② 「べき」は文脈判断をする。比較・選択の文脈ではないので「適当」ではない。また、「べき」に禁止の意味はないので「当然」。「に」は連体形に接続し、下に「あら」があるので、「断定」の助動詞。よって、イが正解。

③ aは「あはれなり」とできるので形容動詞。また、bの「よに」は副詞の一部。よって、エが正解。

④ aは「連体形＋に」なので接続助詞。bは、「はるかなり」とできるので形容動詞。cは、タ行下二段活用動詞の連用形に接続しているので、「完了」の助動詞。よって、エが正解。

⑤ 「体言＋に」で、「である」と訳せないので格助詞。同様に探すと、アに「声＋に」とある。よって、アが正解。

〈解答〉

①イ　②イ　③エ　④エ　⑤ア

第18講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① aは用言「おり〔降り〕」の下で「おはします」なので尊敬の補助動詞。bは用言「あひ〔会ひ〕」の下で「奉り」なので謙譲の補助動詞。よって、エが正解。

② aは本動詞で、「申す」は謙譲語。bは用言の下なので補助動詞。四段活用の「給ふ」であること、主語が高位の人物であることから尊敬語だと判断できる。よって、イが正解。

③ aは謙譲の補助動詞。bは丁寧の補助動詞。cは尊敬語だが、「いらっしゃる」という意味の本動詞。dは用言の下で、「～なさる」という意味の尊敬の補助動詞。eは用言の下で、「～（て）いらっしゃる」という意味の尊敬の補助動詞。よって、エが正解。

④ 用言の下で「まゐらす」なので謙譲の補助動詞。「（お）～（し）申し上げる」と訳す。「候へ」も用言の下なので丁寧の補助動詞。「～です・～ます」と訳す。よって、アが正解。

⑤ 「用言＋助動詞」の下で「侍り」なので丁寧の補助動詞。「～です・～ます」と訳す。よって、エが正解。

〔解答〕

① エ　② イ　③ エ　④ ア　⑤ エ

第18講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① aは完了の助動詞「れ〔り〕」が続くので、四段活用の已然形。四段活用の「給ふ」は尊敬語である。bは接続助詞「て」が続くので、下二段活用の連用形。下二段活用の「給ふ」は謙譲語である。よって、ウが正解。

② 助詞「や」の上は終止形。四段活用の尊敬語か下二段活用の謙譲語かは、文脈で判断する。直前で「北殿こそ（＝北隣さん）」と呼びかけているので、「北殿」を敬う尊敬語の「たまふ」だと判断できる。よって、アが正解。

③ 「思ひ」は四段活用動詞の連用形。自発の助動詞「る」は未然形接続、完了の助動詞「る〔り〕」はサ変動詞の未然形か四段活用動詞の已然形に接続するので、イ・ウは誤り。「給ふる」は謙譲の補助動詞「給ふ」の連体形である。よって、エが正解。

④ 「ない給ふ」の主語は「神々」なので尊敬語。「給へ」は過去の助動詞に接続しているので、下二段活用の連用形。会話文で使われており、「見る」に付いていることからも謙譲語。よって、イが正解。

⑤ アは四段活用の命令形。イは完了の助動詞「る〔り〕」が続くので、四段活用の已然形。ウは反実仮想の助動詞「ましか〔まし〕」が続くので、下二段活用の未然形。エは「ば」が続くので、四段活用の已然形。ウのみ謙譲語。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　ウ
②　ア
③　エ
④　イ
⑤　ウ

第19講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① ウの「たまはる」は、正しくは「受く」の謙譲語で、「いただく」と訳す。「たまはす」が「与ふ」の尊敬語で、「お与えになる」という訳。語尾に注意して、尊敬語か謙譲語かを見分けることが必要。よって、ウが正解。

② 「のたまふ」「のたまはす」は「言ふ」の尊敬語で、「おっしゃる」と訳す。よって、イが正解。

③ aの「聞こゆ」「聞こえさす」は「言ふ」の謙譲語で、「申し上げる」と訳す。bの「聞こす」「聞こしめす」は「聞く」の尊敬語で、「お聞きになる」と訳す。よって、アが正解。

④ 本動詞「参らす」は「与ふ」の謙譲語で、「差し上げる」と訳す。よって、エが正解。「参る」とは異なり、尊敬語の用法はないので注意する。

⑤ 「奏す」は「言ふ」の謙譲語で、「天皇・上皇に申し上げる」と訳す。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　ウ　　②　イ　　③　ア　　④　エ　　⑤　ウ

第19講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 直後に「御単衣（ひとへ）」という語があり、「着る」という文脈で使われているので、尊敬語「お召しになる」である。「る」は完了・存続の助動詞「り」の連体形。よって、ウが正解。

② 「味はひ」という語が直前にあるので、「食べて味（の違い）を知っていた」という文脈が自然である。よって、イが正解。

③ 「御車」という語が直前にあり、「車に乗る」という文脈で使われているので、尊敬語「お乗りになる」である。よって、イが正解。

④ 「奉る」は尊敬と謙譲の二種類があるが、衣食や乗り物に関する内容ではないので、この場合は謙譲語。「法事で、捧げものを差し上げた」という文脈である。よって、エが正解。

⑤ aは「直垂（ひたたれ）など」が主語なので、丁寧の本動詞「あります」だと判断できる。bは「よき人の御前（おまへ）に」という語があるので、謙譲の本動詞「お仕えする」。よって、アが正解。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ イ　④ エ　⑤ ア

第19講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「つかうまつる」は謙譲語で、「お仕えする」という訳。謙譲語は客体（～を・に）に対する敬語なので、惟喬（これたか）の親王（みこ）への敬意を表す。よって、ウが正解。

② 会話文中で用いられているので、話し手（＝相人）からの敬意。「おはします」は尊敬の本動詞。尊敬語は主体（～は・が）に対する敬語なので、明雲座主（めいうんざす）への敬意を表す。よって、アが正解。

③ アは尊敬語。主体である薩摩守（さつまのかみ）（＝忠度（ただのり））を敬う。イは丁寧語。会話文中で用いられているので、聞き手（＝三位殿（さんみ））を敬う。ウは謙譲語。客体である三位殿を敬う。エは尊敬語。主体である三位殿を敬う。よって、アが正解。

④ 「参る」は謙譲語。謙譲語は客体（～を・に）に対する敬語なので、道長への敬意を表す。「給ふ」は尊敬の補助動詞。尊敬語は主体（～は・が）に対する敬語なので、伊周（これちか）への敬意を表す。よって、イが正解。

⑤ 「啓す」は「言ふ」の謙譲語で「申し上げる」。地の文で用いられているので、作者からの敬意。「啓す」は言う相手は必ず「中宮・東宮」の誰かである。ここでは中宮を敬う。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ ア　④ イ　⑤ ウ

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。